

愛媛県立中央病院整備運営事業
要求水準書

第2 要求水準 1 施設整備業務

別添2：諸室概要シート
【改訂版】

平成20年4月
愛媛県

愛媛県立中央病院整備運営事業 諸室概要シート

<諸室概要シートの位置づけ>

この概要シートは、諸室リストにある各諸室のうち主要なものに関して、その利用目的、運用、性能及び使用機器などについて病院現場の意見を基に現時点で考える想定をお示しすることにより、事業者提案との齟齬を可能な限り減らすことを目的として提示するものであり、事業者は、設計段階において県の意見を聞き、協議・調整の上で計画を進めるものとする。

なお、要求水準と整合がとれていない場合は要求水準を優先していただき、概要シートは病院現場の考えを示した参考資料の位置づけであることを御承知ください。

<目次>

部門		ページ番号
ア	外来部門	1
イ	病棟部門	13
ウ	救命救急センター	19
エ	総合周産期母子医療センター	20
オ	手術部門	28
カ	ICU部門	34
キ	検査部門	39
ク	放射線部門	53
ケ	内視鏡部門	63
コ	薬剤部門	68
サ	リハビリテーション部門	72
シ	人工透析部門	74
ス	東洋医学部門	75
セ	栄養給食部門	77
ソ	中央材料部門	78
タ	ME管理部門	80
チ	管理運営部門	-
ツ	人間ドック部門	81
テ	医療情報部門	87
ト	医局部門	-
ナ	看護管理部門	89
ニ	物品管理部門	-
ヌ	利便施設	-

<解説>

項目	解説	
諸室No.	部門及びNoを示す。	
(1)使用目的	各諸室の主たる使用目的を示す。 なお、当該諸室に付属する室が、配置計画で隣接あるいは近接させることが望ましい室を「関連する室名」として併記する。	
(2)使用人数	室利用における平均在室者数を示す。	
(3)設計水準	運用	関連諸室との関係のうち特記すべき事項 診療報酬上の各種加算のうち特記すべきもの
	性能	備えるべき機能・性能のうち特記すべき事項 アメニティなど居住性に関する特記すべき事項
	機器	医療機器等のうち特記すべき事項
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ
	2	外来患者・面会者等の病院利用者の環境として相応しい仕上げ
	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ
	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ
	5	バックヤードとして相応しい仕上げ
	6	清潔管理を特に重視し、耐荷重性に優れた仕上げ
	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ

<仕上げ、材料等の選択について>

愛媛県立中央病院は地域における基幹病院として、高度先進医療とともに安心できる標準的で良質な医療を安定的に提供することを目標に、患者の視点に立った、信頼と満足のでられる安全な医療体制を確立することを目指します。

病院はその使命から、開院後、大規模な修繕等がない限り、施設として休止できない建物です。また、放射線エリア、核医学エリア、清浄度の高いエリア等自由に出入りが不可能なゾーンと病棟のように24時間365日利用される場所があります。よって、不具合な箇所等が発生した場合においても場所によっては、修繕のために、いつでも自由にそのエリアを休止し、工事をすることは病院運営にも大きく関わり不可能と考えられます。メンテナンスあるいは改修等が病院運営に影響せず、医療機能を極力維持したまま更新が行える施設づくりが重要であるとともに、仕上げ、材料、工法等は高機能で、耐久性等、医療施設としての実績、裏づけのある物の選択が必要となります。材料、製品における信頼性の高いデータ等選択根拠の明確な製品を選択して下さい。

いつもどこかで修繕等工事を行い、診療にも影響を及ぼす施設では患者さんからも選ばれる病院にはなりません。施設計画が要因で診療、治療を妨げる環境とならないように、良好な治療環境に相応しい施設づくりが結果的にも病院としての信頼を得ることに繋がります。

室内環境においても、設定される性能に基づき、安全性、機能性、環境保全、耐用性、保全性等の面で適正なものを選択し、エコマテリアルに関する性能(高品質かつ人にも環境にも優しい材料)を重視して下さい。

採用する建設資材機材に、人体の安全性、快適性が損なわれない、人体に無害な材料の採用。採用する建築資材機材の環境負荷が小さい、低環境負荷材料の採用。再生資源を活用した建築資材機材や再生利用・再利用可能な建設資材、解体容易な、資源循環に配慮した材料の採用等、資源循環の促進に配慮し選択して下さい。

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-1	外来部門	外来診察室	診察室
(1)使用目的	主として外来患者の診察に使用する。診療科によって入院患者の診察にも使用する。		
(2)使用人数	関連する室名	ブロック待合、作業通路	
	平均在室者数	3人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① 患者待合室とスタッフ作業廊下に面して配置する。 ② 原則として標準型フリーアドレスとする。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 作業廊下(スタッフ通路側)は引戸(カーテン付)とし器材の搬出入が容易な幅を確保する。 ④ 診察台の周囲、更衣スペースの廻りにキュービクルカーテンを設ける。 ⑤ 眼科、耳鼻咽喉科、産科、婦人科等には使用するユニットに必要な諸設備を設ける。 ⑥ 眼科診察室は暗室対応または調光照明を設ける。 ⑦ 手洗い設備を各室に設ける。 ⑧ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 診察台又は電動診察台 ② 心電図モニター、生体情報モニター ③ 超音波診断装置 ④ 産科・婦人科診療ユニット ⑤ 歯科診療台 ⑥ 眼科外来診療システム ※その他耳鼻咽喉科、泌尿器科のユニット等それぞれ必要に応じ設置	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-2	外来部門	外来処置室	処置室
(1)使用目的	主として外来患者の処置に使用する。診療科によって入院患者の処置にも使用する。		
(2)使用人数	関連する室名	ブロック待合、作業通路	
	平均在室者数	3人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① 患者待合室とスタッフ作業廊下に面して配置する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 作業廊下(スタッフ通路側)は引戸(カーテン付)とし器材の搬出入が容易な幅を確保する。 ④ 診察台の周囲、更衣スペースの廻りにキュービクルカーテンを設ける。 ⑤ 手洗い設備を設ける。 ⑥ 流し付作業台を設ける。 ⑦ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 処置用ベッド ② 各種ビデオスコープ ③ 心電図モニター、生体情報モニター ※その他、必要に応じ設置	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-3	外来部門	救急外来	診察室(救急外来)
(1)使用目的	救急患者の診察室としてスクリーニングを行う。		
(2)使用人数	関連する室名	初療室	
	平均在室者数	3人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① 救急外来待合に隣接して配置する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 診察台の周囲、更衣スペースの廻りにキュービクルカーテンを設ける。 ④ 手洗い設備を各室に設ける。 ⑤ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 救急医療セット ② 搬送用人工呼吸器 ③ 救急カート ④ 電動油圧式検診台 ⑤ 搬送用生体情報モニター	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-4	外来部門	産科/婦人科	診察室、内診室(産科/婦人科)
(1)使用目的	主として産科・婦人科外来患者の診察に使用する。入院患者の診察にも使用する。		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 6人
(3)設計水準	運用	① 患者待合室とスタッフ作業廊下に面して配置する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 作業廊下(スタッフ通路側)は引戸(カーテン付)とし器材の搬出入が容易な幅を確保する。 ④ 診察台の周囲、更衣スペースの廻りにキュービクルカーテンを設ける。 ⑤ 手洗い設備を設ける。 ⑥ 流し付作業台を設ける。 ⑦ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑧ 内診台用排水設備、コンセントを設ける。	
	機器	① 検診台 ② 診察ユニット(ライト付) ③ 超音波診断装置	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-5	外来部門	産科/婦人科	処置室(産科/婦人科)
(1)使用目的	主として産科・婦人科の外来患者の処置に使用する。入院患者の処置にも使用する。		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 6人
(3)設計水準	運用	① 患者待合室とスタッフ作業廊下に面して配置する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 作業廊下(スタッフ通路側)は引戸(カーテン付)とし器材の搬出入が容易な幅を確保する。 ④ 診察台の周囲、更衣スペースの廻りにキュービクルカーテンを設ける。 ⑤ 手洗い設備を設ける。 ⑥ 流し付作業台を設ける。 ⑦ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑧ 内診台用排水設備、コンセントを設ける。	
	機器	① 処置用ベッド(2台)	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-6	外来部門	産科	保健指導室
(1)使用目的	主に妊産婦の説明・保健指導に使用する。		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 産科・婦人科の診察室に近接して設ける。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子等の出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 手洗い設備を設ける。 ④ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器		
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-7	外来部門	産科	母乳育児支援室
(1)使用目的	主に産褥期の乳房ケア、育児支援を行う。		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① 産科・婦人科の診察室に近接して設ける。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子等の出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 手洗い設備を設ける。 ④ 情報設備、コンセント等を設ける。	
	機器		
(4)室環境	2	外来患者・面会者等の病院利用者の環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-8	外来部門	婦人科	指導室
(1)使用目的	主として産婦人科外来患者の説明に使用する。		
(2)使用人数	関連する室名	平均在室者数	最大在室者数
		2人	4人
(3)設計水準	運用	① 産科・婦人科の診察室に近接して設ける。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子等の出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 手洗い設備を設ける。 ④ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器		
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-9	外来部門	精神科	観察室
(1)使用目的	主として精神科の外来患者の診療に必要な観察を行う。		
(2)使用人数	関連する室名	平均在室者数	最大在室者数
		2人	3人
(3)設計水準	運用	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子等の出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 作業廊下側にマジックミラーを設け内部を観察できる構造とする。 ④ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器		
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-10	外来部門	隔離診察室	診察室 ①
(1)使用目的	主として空気感染(疑いを含む)症患者、2類感染症患者の診察に使用する。小児の感染症患者の診察にも使用する。		
(2)使用人数	関連する室名	平均在室者数	最大在室者数
	前室、隔離待合室、処置室(小児科)	3人	4人
(3)設計水準	運用	① 外部から隔離待合室、前室経由で直接入れる構造とする。 ② 職員が防護用具を着用するスペースとして前室を設ける。 ③ 感染性廃棄物処理スペースを確保する。 ④ 建設時の感染症法に則った施設基準を満たすようにする。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 前室からの出入扉は非接触型開閉とする。 ③ 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ④ 作業廊下(スタッフ通路側)は引戸(カーテン付)とし器材の搬出入が容易な幅を確保する。 ⑤ 診察台の周囲、更衣スペースの廻りにキュービクルカーテンを設ける。 ⑥ 診察室の気密性を確保する構造とする。 ⑦ 手洗い(眼洗浄水洗付)設備を設ける。 ⑧ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑨ 紫外線殺菌灯を設置する。 ⑩ 独立した排水設備のトイレを設置する。 ⑪ 排水(通気を含む)系統は一般エリアと分離した専用配管とする。 ⑫ 陰圧切替可能な空調とする。 ⑬ 清浄度クラスVとする。	
	機器		
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ (※清掃しやすさに配慮する)	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-11	外来部門	隔離診察室	診察室 ②
(1)使用目的	主として感染症患者の診察に使用する。小児外来での感染性の疑いのある疾病を持つ患者の診察にも使用する。		
(2)使用人数	関連する室名	平均在室者数	最大在室者数
	隔離待合室	4人	5人
(3)設計水準	運用	① 外部から隔離待合室経由で直接入れる構造とする。 ② 感染性廃棄物処理スペースを確保する。 ③ 建設時の感染症法に則った施設基準を満たすようにする。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 作業廊下(スタッフ通路側)は引戸(カーテン付)とし器材の搬出入が容易な幅を確保する。 ④ 手洗い(眼洗浄水洗付)設備を設ける。 ⑤ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑥ 清浄度クラスVとする。	
	機器		
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ (※清掃しやすさに配慮する)	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-12	外来部門	隔離診察室	前室
(1)使用目的	主として空気感染症の患者も扱うことを前提とし、隔離診察室①の陰圧を保ちやすいように前室を設ける。感染症外来患者の診察時に職員の防護用装着用場所として使用する。		
	関連する室名	隔離診察室①	
(2)使用人数	平均在室者数	2~3人	最大在室者数 3~5人
(3)設計水準	運用	① 外部から直接入れる構造とする。 ② 感染性廃棄物処理スペースを確保する。 ③ 建設時の感染症法に則った施設基準を満たすようにする。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 診察室への出入扉は非接触型開閉とする。 ③ 診察室の気密性を確保する構造とする。 ④ 手洗い(眼洗浄水洗付)設備を設ける。 ⑤ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑥ 前室の空調設備は一般処置室と同等とする。 ⑦ 排水(通気を含む)系統は一般エリアと分離した専用配管とする。 ⑧ 清浄度クラスVとする。	
	機器		
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ (※清掃しやすさに配慮する)	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-13	外来部門	整形外科	診察室(整形外科)
(1)使用目的	主として整形外科外来患者の診察に使用する。		
	関連する室名	処置室、ギプス室	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 6人
(3)設計水準	運用	① 処置室・ギプス室へ患者が移動しやすい構造とする。 ② 作業廊下は十分な幅員を確保し、対面する診察室等へストレッチャーの受渡ししやすい構造とする。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 作業廊下(スタッフ通路側)は引戸(カーテン付)とし器材の搬出入が容易な幅を確保する。 ④ 診察台の周囲、更衣スペースの廻りにキュービクルカーテンを設ける。 ⑤ 手洗い設備を各室に設ける。 ⑥ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 電動式昇降診察台	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-14	外来部門	整形外科	処置室(整形外科)
(1)使用目的	整形創処置、鋼線除去、救急患者搬入対応に使用する。		
	関連する室名	ギプス室	
(2)使用人数	平均在室者数	4人	最大在室者数 8人
(3)設計水準	運用	① 診察室へ患者が移動しやすい構造とする。 ② 作業廊下は十分な幅員を確保し、対面する診察室等へストレッチャーの受渡ししやすい構造とする。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 作業廊下(スタッフ通路側)は引戸(カーテン付)とし器材の搬出入が容易な幅を確保する。 ④ 診察台の周囲、更衣スペースの廻りにキュービクルカーテンを設ける。 ⑤ 手洗い設備を設ける。 ⑥ 流し付作業台を設ける。 ⑦ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑧ 将来のレイアウト変更に対応しやすいよう可能な限り天井付設備とする。	
	機器	① エマージェンシーストレッチャー	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-15	外来部門	整形外科	ギプス室
(1)使用目的	整形創処置、鋼線除去、救急患者搬入対応に使用する。		
	関連する室名	処置室	
(2)使用人数	平均在室者数	4人	最大在室者数 8人
(3)設計水準	運用	① 診察室へ患者が移動しやすい構造とする。 ② 作業廊下は十分な幅員を確保し、対面する診察室等へストレッチャーの受渡ししやすい構造とする。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 作業廊下(スタッフ通路側)は引戸(カーテン付)とし器材の搬出入が容易な幅を確保する。 ④ 診察台の周囲、更衣スペースの廻りにキュービクルカーテンを設ける。 ⑤ 手洗い設備を設ける。 ⑥ 流し付作業台を設ける。 ⑦ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑧ 将来のレイアウト変更に対応しやすいよう可能な限り天井付設備とする。	
	機器	① ギプス台	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-16	外来部門	耳鼻咽喉科	耳鼻科処置室
(1)使用目的	主として耳鼻咽喉科の外来患者の処置に使用する。		
(2)使用人数	関連する室名		
	平均在室者数	3人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① 待合室および耳鼻咽喉科診察室に隣接して配置する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 作業廊下(スタッフ通路側)は引戸(カーテン付)とし器材の搬出入が容易な幅を確保する。 ④ 手洗い設備を各室に設ける。 ⑤ 必要に応じ医療ガス設備、吸引設備、情報設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 発声機能検査システム ② 薬品保冷库 ③ 手術顕微鏡 ④ 鼻腔通気度計 ⑤ 外来処置用ライト ⑥ 治療用ネプライザーユニット ⑦ 中耳内視鏡システム ⑧ 耳鼻咽喉科用テレスコープ ⑨ 顕微鏡 ⑩ バイポーラ凝固止血器 ⑪ 耳鼻科用治療椅子	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-17	外来部門	耳鼻咽喉科	平衡感覚検査室
(1)使用目的	主として耳鼻咽喉科の外来患者・入院患者の平衡機能検査に使用する。		
(2)使用人数	関連する室名	聴力検査室	
	平均在室者数	2人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 耳鼻咽喉科診察室に近接して配置する。 ② 床上に30度ずつ分度した半径0.5mと1.0mの2つの同心円が余裕を持って描けること。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 必要に応じ医療ガス設備、吸引設備、情報設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 平衡機能検査システム ② 重心動揺計 ③ 視標追跡装置 ④ ニスタモグラフィ ⑤ 眼球運動刺激装置	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-18	外来部門	耳鼻咽喉科	聴力検査室
(1)使用目的	主として耳鼻咽喉科の外来患者・入院患者の聴力検査に使用する。		
(2)使用人数	関連する室名	平衡感覚検査室	
	平均在室者数	2人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 耳鼻咽喉科診察室に近接して配置する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 防音性能(1000Hz: 60db減衰程度)を確保する。設備工事についても防音処理を施す。 ③ 出入口および内部は段差のない構造とする。 ④ 必要に応じ医療ガス設備、吸引設備、情報設備、医療コンセント等を設ける。 ⑤ 個別調節可能な空調設備を設ける。	
	機器	① 電気味覚計 ② オージオメーター ③ 耳音響放射装置 ④ 耳管機能検査装置 ⑤ インピーダンスオージオメーター ⑥ 幼児用聴力測定装置	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-19	外来部門	形成外科	診察室(形成外科)
(1)使用目的	主として形成外科の外来患者の診察に使用する。		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① 患者待合室とスタッフ作業廊下に面して配置する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 作業廊下(スタッフ通路側)は引戸(カーテン付)とし器材の搬出入が容易な幅を確保する。 ④ 診察台の周囲、更衣スペースの廻りにキュービクルカーテンを設ける。 ⑤ 手洗い設備を各室に設ける。 ⑥ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 電動診察台	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-20	外来部門	形成外科	処置室(形成外科)
(1)使用目的	外来、入院患者の処置に使用する。救急患者搬入対応に使用する。		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① 患者待合室とスタッフ作業廊下に面して配置する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 作業廊下(スタッフ通路側)は引戸(カーテン付)とし器材の搬出入が容易な幅を確保する。 ④ 診察台の周囲、更衣スペースの廻りにキュービクルカーテンを設ける。 ⑤ 手洗い設備を設ける。 ⑥ 流し付作業台を設ける。 ⑦ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑧ 足浴槽(シャワー水栓)、汚物処理槽を設ける。	
	機器	① 小型无影灯を設ける。 ② 電動診察台 ③ 双極性凝固器 ④ 電気メス	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-21	外来部門	皮膚科	処置室(皮膚科)
(1)使用目的	主として外来患者の処置に使用する。診療科によって入院患者の処置にも使用する。		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① 患者待合室とスタッフ作業廊下に面して配置する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 作業廊下(スタッフ通路側)は引戸(カーテン付)とし器材の搬出入が容易な幅を確保する。 ④ 診察台の周囲、更衣スペースの廻りにキュービクルカーテンを設ける。 ⑤ 手洗い設備を設ける。 ⑥ 流し付作業台を設ける。 ⑦ 医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑧ 足浴槽(シャワー水栓)、汚物処理槽を設ける。 ⑨ 臭気対策としての局所換気設備を設ける。	
	機器	① 電動診察台 ② バイポーラ凝固止血器 ③ 紫外線治療器	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-22	外来部門	眼科	診察室(眼科)
(1)使用目的	主として眼科の外来患者・入院患者の処置、検査に使用する。		
	関連する室名	処置室、レーザー室・暗室検査室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① 処置室、レーザー室・暗室検査室に近接して配置する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 作業廊下(スタッフ通路側)は引戸(カーテン付)とし器材の搬出入が容易な幅を確保する。 ④ 検査機器等の配置や処置台の配置を考慮したカーテン等を設ける。 ⑤ 手洗い設備を各室に設ける。 ⑥ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑦ 動力用三相コンセントを設ける。 ⑧ エリアごとに調光可能な照明設備を設ける。	
	機器	① 眼科外来診療システム ② スリットランプカメラシステム ③ 散瞳型眼底カメラシステム ④ ノンコンタクトノメーター ⑤ 双眼倒像検眼鏡 ⑥ 眼科用超音波診断装置 ⑦ オートレンズメーター、オートレフケラトメーター	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-23	外来部門	眼科	視力検査室(明室)
(1)使用目的	主として眼科の外来患者・入院患者の処置、検査に使用する。		
	関連する室名	視能訓練室	
(2)使用人数	平均在室者数	6人	最大在室者数 12人
(3)設計水準	運用	① 視能訓練室に近接して配置する。 ② 厳密な視力検査を行なうため部屋縦長6.5m以上を確保すること。 (視力検査では指標と被検者の間は5mの間隔定義、車椅子の出入への対応)	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 検査機器等の配置や処置台の配置を考慮したカーテン等を設ける。 ③ 外部に面して配置し、窓周りにブラインドを設ける。 ④ 手洗い設備を設ける。 ⑤ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑥ 動力用三相コンセントを設ける。 ⑦ エリアごとに調光可能な照明設備を設ける。 ⑧ 視力検査における照明は50Lx以上を確保する。 ⑨ 色覚検査を行うため北窓または昼光色蛍光照明を確保する。 ⑩ コンタクト脱着用の手洗い設備を設ける。	
	機器	① 両眼視機能検査装置 ② 視力検査装置 ③ ヘススクリーン ④ 字ひとつ視力計 ⑤ 検眼レンズ ⑥ 連続近点計	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-24	外来部門	眼科	レーザー・暗室検査室
(1)使用目的	主として眼科の外来患者・入院患者の処置、検査に使用する。		
	関連する室名	視力検査室(明室)	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 2人
(3)設計水準	運用	① 視力検査室(明室)に隣接して配置する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 暗室対応の建具を設置する。また出入り口には遮光カーテンを設ける。 ③ 手洗い設備を設ける。 ④ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑤ 動力用三相コンセントを設ける。 ⑥ レーザー動力用三相コンセント(200V60A)を設ける。 ⑦ エリアごとに調光可能な照明設備を設ける。	
	機器	① YAGレーザー手術装置 ② マルチカラーレーザー光凝固装置 ③ 開放隅角緑内障治療用レーザー ④ 半導体レーザー光凝固装置	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-25	外来部門	眼科	視能訓練室/小児検査室
(1)使用目的	主として眼科の外来患者や入院患者の弱視・斜視などの検査や視能矯正訓練に使用する。		
	関連する室名	視力検査室(明室)	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 1人
(3)設計水準	運用	① 視力検査室(明室)に隣接して配置する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 手洗い設備を設ける。 ③ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 視野計 ② PL乳幼児視力検査器	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-26	外来部門	眼科	絶対暗室
(1)使用目的	主として眼科の外来患者・入院患者の視覚誘発電位、網膜電位図の観察に使用		
	関連する室名	視野検査室①②	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 視野検査室①②に隣接して配置する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 完全暗室を確保するため窓を設けない。 ③ 磁気シールドルームとする。 ④ エリアごとに照度を調節できる照明設備を設ける。 ⑤ 三相コンセント、アースを確保する。 ⑥ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 網膜電位図記録装置 ② 非接触式角膜内皮細胞撮影装置 ③ 角膜形状測定装置 ④ 光干渉断層計	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-27	外来部門	眼科	視野検査室①②
(1)使用目的	主として眼科の外来患者・入院患者の処置、視野検査を中心に使用する。		
	関連する室名	視力検査室(明室)	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 2人
(3)設計水準	運用	① 視力検査室に隣接して配置する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 暗室対応の建具を設置する。また出入り口には遮光カーテンを設ける。 ③ エリアごとに照度を調節できる照明設備を設ける。 ④ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① ゴールドマン型動的視野計 ② 自動視野計	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-28	外来部門	眼科	処置室(明室) (眼科)
(1)使用目的	主として顕微鏡と手術台を設置し、眼科小手術や処置などを行う。		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用		
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 流し付作業台等の水廻り設備を設ける。 ③ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 眼科手術顕微鏡システム ② 眼科手術台	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-29	外来部門	歯科	治療室(歯科)
(1)使用目的	歯科外来患者の診察に使用する。		
(2)使用人数	関連する室名	平均在室者数	最大在室者数
(3)設計水準	運用	① 歯科待合室に面して設ける。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の音が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁、扉とする。 ③ 室寸法4x2.3m程度を確保する。 ④ 手洗い設備を設ける。 ⑤ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑥ 歯科診察キャビネット用に医療ガス(酸素・吸引)、給排水、コンセント設備を設ける。 ⑦ 歯科診察台用コンセント設備を設ける。	
	機器	① 歯科診療台 ② 診療用キャビネット ③ 歯科用炭酸ガスレーザー治療器 ④ 広口バキューム(診療用)	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-30	外来部門	歯科	受付及び処置コーナー、カンファレンスコーナー
(1)使用目的	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数	最大在室者数	
(3)設計水準	運用	① 歯科待合室に面して設ける。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の音が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁、扉とする。 ③ 室寸法3.3x5.5m程度を確保する。 ④ 手洗い設備を設ける。 ⑤ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器		
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-31	外来部門	歯科	レントゲン撮影室、サーバー室
(1)使用目的	外来・入院患者の歯科用X線撮影を行う。		
(2)使用人数	関連する室名	平均在室者数	最大在室者数
(3)設計水準	運用	1人	2人
	性能	① 歯科処置コーナーに近接して設ける。 ① 内装、出入口扉、操作室に面する窓について放射線防護を行う。 ② 操作側の出入口は鉛入りガラス等により観察可能なものとする。 ③ 出入口に使用中表示灯を設ける。 ④ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 歯科用X線撮影機器	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-32	外来部門	歯科	歯科技工室、器材室
(1)使用目的	入れ歯の製作や歯型整形等の加工を行う。		
(2)使用人数	関連する室名	平均在室者数	最大在室者数
(3)設計水準	運用	1人	2人
	性能	① 作業音が漏れないように適切な防音性能を確保する。 ② 臭気対策に配慮した換気設備とする。 ③ 流し付作業台(プラスチックラップ付)を設ける。 ④ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 電気溶接機、真空攪拌器、歯科技工用エンジン ② オートクレーブ	
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-33	外来部門	採血採尿室	中央採血室
(1)使用目的	主として外来患者の採血を行なう		
	関連する室名	中央採尿室	
(2)使用人数	平均在室者数	4人	最大在室者数 6人
(3)設計水準	運用	① 外来患者が利用しやすい位置に配置する。 ② 中央採尿室に隣接して配置する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 採血時の患者プライバシーに配慮する。 ③ 処置台の周囲、更衣スペースの廻りにキュービクルカーテンを設ける。 ④ 手洗い設備を設ける。 ⑤ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 採血管準備システム	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-34	外来部門	採血採尿室	中央採尿室
(1)使用目的	検査の為に採尿等に使用		
	関連する室名	中央採血室	
(2)使用人数	平均在室者数		最大在室者数 14人
(3)設計水準	運用	① 外来患者が利用しやすい位置に配置する。 ② 中央採尿室に隣接して配置する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 採尿トイレ(男女、車椅子)を設け、尿検体受渡し窓を設置する。 ③ ブースおよび小便器廻りに荷物置台、検体置場のスペースを確保する。 ④ 採尿用ブースを1箇所(手洗設備共)設ける。 ⑤ 手洗い設備を設ける。 ⑥ 流し付作業台を設ける。 ⑦ スタッフコール設備等を設ける。	
	機器	① 採尿ブースを設ける。	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-35	外来部門	外来化学療法室	治療室
(1)使用目的	外来患者の抗がん剤投与などの化学療法を行う。20ベッドを設ける。		
	関連する室名	スタッフコーナー、準備室、トイレ	
(2)使用人数	平均在室者数	25人	最大在室者数 30人
(3)設計水準	運用	① スタッフコーナーから観察しやすい構造とする。 ② 隣接した位置に車椅子で利用可能なトイレを設ける。 ③ 出入口付近に体重測定、血圧測定が行える場所を確保する。 ④ 23床(ベッド11台・リクライニングチェア12台)を設置する。 ⑤ 15床(うち3床は準備室観察しやすい位置)を固定、8床はオープンな運用とする。 ⑥ 【外来化学療法加算】	
	性能	① スタッフコーナーから観察の容易な構造とする。 ② 出入口付近にウォシュレットトイレ及び洗面コーナーを設ける。 ③ リクライニングチェア12台、ベッド11台(以下「処置ベット等」という)を設置し、8床はオープン、15床は固定を想定し、うち3床を観察室として受付から観察できる準備室とする。 ④ 一部の処置ベット等(6~8床を想定)は食事による匂いが室内に広がらないよう空調に配慮する。 ⑤ 全ての処置ベット等で医療ガス(酸素、吸引)を使用できる環境とする。 ⑥ 全ての処置ベット等にナースコール等の諸設備を設ける。 ⑦ 出入口は引き戸とし、ベッドやストレッチャーの出入りが容易にできるようにする。 ⑧ エリアごとに個別調節可能な照明を設けること。 ⑨ 処置ベット等ごとにテレビ、インターネット等個別に患者が利用できる設備を設ける。 ⑩ 処置ベット等ごとに処置灯、読書灯を設置する。 ⑪ 患者観察のため、4床分以上の監視モニターを設置する。 ⑫ 手洗いは飲水可能とし、お湯が出る設備とする。 ⑬ 出入口付近に体重測定、血圧測定が行える場所を確保する。 ⑭ 換気や臭気対策を行う。 ⑮ 各ユニットに患者アメニティに配慮した諸設備を設ける。 ⑯ 患者・家族が4~8時間リラックスして点滴治療が受けられるよう配慮した内装とする。 ⑰ 必要に応じ医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 生体情報モニター	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-36	外来部門	外来化学療法室	薬品準備室
(1)使用目的	化学療法のための薬剤準備を行う。		
	関連する室名	治療室、抗がん剤調製室(薬剤部)	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 5人
	運用	① 化学療法室の治療室に隣接して配置する。 ② 抗がん剤調製室(薬剤部)へ連絡する小荷物搬送設備等を設ける。	
(3)設計水準	性能	① 手洗い設備を設ける。 ② 抗がん剤調製室(薬剤部)へ連絡するインターホン設備を設ける。	
	機器	① クリーンベンチ(1人用)	
(4)室環境	6	清潔管理を特に重視し、耐荷重性に優れた仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-37	外来部門	がん相談支援室	面談室 (1/2)
(1)使用目的	院内外の患者・家族との面談及び院内スタッフの教育・面談に利用する。		
	関連する室名	外来、病棟、地域連携室、治療室	
(2)使用人数	平均在室者数	7~10人	最大在室者数 12人
	運用	① 外来、病棟、地域連携室、治療室との動線に配慮する。	
(3)設計水準	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 窓があるなどリラックスし和んで面談しやすい環境とする。 ④ 抗がん剤調製室(薬剤部)へ連絡するインターホン設備を設ける。 ⑤ 必要に応じスタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 患者・家族へ情報提供を行うための情報設備(インターネット環境、DVDなど)の設備を設ける。	
(4)室環境	2	外来患者・面会者等の病院利用者の環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-38	外来部門	がん相談支援室	処置室
(1)使用目的	病棟・外来患者の創傷ケアやリンパ浮腫のケアなどに使用する。		
	関連する室名	外来、病棟、地域連携室、治療室	
(2)使用人数	平均在室者数	2~3人	最大在室者数 5人
	運用	① 治療室との動線の他、病棟や地域連携室との連絡性に配慮する。	
(3)設計水準	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 手洗い設備を設ける。 ④ 汚物処理設備を設ける。 ⑤ 臭気対策に配慮した換気設備とする。 ⑥ 必要に応じスタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器		
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-39	外来部門	地域医療連携室	地域医療連携室
(1)使用目的	患者・家族との医療相談および地域医療福祉機関との紹介患者連絡、情報収集を行なう。		
	関連する室名	総合受付、医事課(外来)、受診相談コーナー、がん相談支援室	
(2)使用人数	平均在室者数	10人(事務6・医療相談4)	最大在室者数 18人(事務8・医療相談10)
	運用	① 総合受付、医事課(外来)、受診相談コーナーと隣接して配置する。 ② がん相談支援室との動線に配慮すること。 ③ 地域医療連携事務エリアと医療相談エリアを区分して設ける。	
(3)設計水準	性能	① 廊下に面する扉は引戸とし、車椅子等の出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 情報設備(電話・FAX・電子カルテ・インターネット)、コンセント設備を設ける。(事務エリア) ④ パーティションで仕切られたスタッフ休憩スペースを設ける。(事務エリア) ⑤ 地域医療連携室事務エリアと出入しやすい配置とする。(医療相談エリア) ⑥ 面談に適した開放感のある、静かでリラックスできる環境を確保する。(医療相談エリア) ⑦ 来客対応のためミニキッチン、冷蔵庫等を設ける。(事務エリア) ⑧ 患者や家族説明用の情報設備(電子カルテ・インターネット・DVD等)を設ける。(医療相談エリア)	
	機器		
(4)室環境	2 4	外来患者・面会者等の病院利用者の環境として相応しい仕上げ 病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-40	外来部門	栄養指導室	個別栄養指導室
(1)使用目的	外来患者、入院患者の栄養指導に使用する。		
	関連する室名	糖尿病内科外来、糖尿病内科生活指導室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① 糖尿病内科外来、糖尿病内科生活指導室に近接して配置する。	
	性能	① 入り口扉は引き戸とし、車椅子の出入りが容易な幅を確保する。 ② 栄養指導資料、フードモデルが展示できる設備を設ける。 ③ 資料等収納できる収納スペースを設ける。 ④ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器		
(4)室環境	2	外来患者・面会者等の病院利用者の環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ア-41	外来部門	臨床心理室	臨床心理室
(1)使用目的	外来患者の心理検査及びカウンセリングを行う。		
	関連する室名	小児科外来、新生児科外来	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 6人
(3)設計水準	運用	① 小児科外来、新生児科外来に近接して設ける。	
	性能	① 廊下に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 室内の明るさなど、カウンセリングを行うのにふさわしいアメニティの確保。 ④ 必要に応じスタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器		
(4)室環境	2	外来患者・面会者等の病院利用者の環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
イ-1	病棟部門	一般病棟（病室）	4床室
(1)使用目的	入院患者や家族等が安全で快適に過ごせる療養空間として使用する。		
	関連する室名	(トイレ、洗面コーナー)	
(2)使用人数	平均在室者数	4人	最大在室者数 12人
(3)設計水準	運用	① 廊下側にトイレおよび洗面コーナーを設置する。 ② 4人分の収納ユニット(移動式)を設置する。 ③【療養環境加算(8㎡/床)】	
	性能	① 出入口は引戸とし、ベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 隣接する病室や廊下等適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 病室に附属したトイレの音に配慮するとともに、開閉しやすい扉を設ける。 ④ キュービクルカーテンを各ベッドに設ける。 ⑤ メディカルユニット未使用時における居住環境としての設えに配慮する。 ⑥ 外壁側と廊下側の居住環境の差が生じにくい計画とする。 ⑦ 洗面コーナーはシャワー水洗付とし、車椅子でも利用しやすい構造とする。 ⑧ メディカルユニット(医ガス、ナースコール、各種スイッチ、電源等)を各ベッドに設ける。 ⑨ テレビ、インターネット等個別に患者が利用できる設備を設ける。 ⑩ 全般照明は直接光源が見えない点に配慮し、夜間の歩行に支障がないよう足元灯を設ける。 ⑪ 個別照明は各ベッドに読書灯、処置灯を設け、同室患者への影響に配慮する。	
	機器	① 電動ベッド ② 生体情報モニタリングシステム	
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
イ-2	病棟部門	一般病棟（病室）	個室
(1)使用目的	入院患者や家族等が安全で快適に過ごせる療養空間として使用する。		
	関連する室名	(ユニットシャワー・トイレ、洗面コーナー)	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① ユニットシャワー・トイレを設置する。 ②【療養環境加算(8㎡/床)】	
	性能	① 出入口は引戸とし、ベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 隣接する病室や廊下等適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ キュービクルカーテンを必要な箇所に設ける。 ④ メディカルユニット未使用時における居住環境としての設えに配慮する。 ⑤ 洗面コーナーはシャワー水洗付とし、車椅子でも利用しやすい構造とする。 ⑥ メディカルユニット(医ガス、ナースコール、各種スイッチ、電源等)を各ベッドに設ける。 ⑦ テレビ、インターネット等個別に患者が利用できる設備を設ける。 ⑧ 全般照明は直接光源が見えない点に配慮し、夜間の歩行に支障がないよう足元灯を設ける。 ⑨ 読書灯、処置灯を設ける。 ⑩ ユニットシャワー・トイレは段差のない構造とする。 ⑪ 各病棟スタッフステーション付近の一室の床及び壁を衝撃吸収性に優れた素材とする。	
	機器	① 電動ベッド ② 生体情報モニタリングシステム	
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
イ-3	病棟部門	一般病棟（共用部）	デイルーム兼食堂
(1)使用目的	食堂として使用するほか、見舞客との面会などにも使用する。		
	関連する室名	パントリー	
(2)使用人数	平均在室者数	10人	最大在室者数 50人
(3)設計水準	運用	① 1フロア共用とし、廊下から観察しやすい構造とする。 ② パントリーを必要に応じて付近に設ける。 ③【食堂加算(0.5㎡/床)】	
	性能	① 配膳車が用意に通行できるルートを確保する。 ② ゆとり空間とし患者同士の談話や休憩、家族スペースとして利用する。 ③ 手洗い設備等の水廻り設備を設ける。	
	機器		
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
イー4	病棟部門	一般病棟(共用部)	スタッフステーション
(1)使用目的	病棟における各種業務の拠点として医療スタッフが使用する。		
	関連する室名	処置・観察室	
(2)使用人数	平均在室者数	20人	最大在室者数 30人
(3)設計水準	運用	① 病棟の出入りを観察しやすい位置に設ける。 ② 処置・観察室に隣接して配置する。	
	性能	① 患者や面会者へ対応しやすいオープン形式のカウンターを設ける。 ② 手洗い設備を設ける。 ③ ステーション内に必要な搬送設備ステーションを設ける。 ④ 壁面に適切な大きさの収納ユニットを設ける。 ⑤ 調剤・薬品カート置場は仕切りを設置する。調剤スペースは調剤台や調剤ユニットを設置する。 ⑥ 医療情報システムなどを使用するため必要な電源等の設備を十分に設ける。 ⑦ スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 生体情報モニタリングシステム	
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
イー5	病棟部門	一般病棟(共用部)	面談室
(1)使用目的	病棟における入院患者家族と医療スタッフとの面談に使用する。(ICU等も含め全病棟共通)		
	関連する室名	スタッフステーション	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 6人
(3)設計水準	運用	① 病棟廊下に面して利用しやすい位置に設ける。	
	性能	① 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ② 手洗い設備を設ける。 ③ 必要に応じスタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器		
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
イー6	病棟部門	一般病棟(共用部)	処置・観察室
(1)使用目的	術後患者、病棟急変患者、不穏患者などを一時的に収容し観察、処置を行う病棟での処置、検査を行うために一時的患者を収容する。		
	関連する室名	スタッフステーション	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 2人
(3)設計水準	運用	① 廊下から出入りしやすくスタッフ動線に配慮した位置に設ける。	
	性能	① 出入口は引戸とし、ベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② プライバシーを確保するため処置スペースの周りにキュービクルカーテンを設ける。 ③ 手洗い設備を設ける。 ④ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑤ 全般照明は直接光源が見えない点に配慮する。	
	機器	① 処置用ベッド	
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
イー7	病棟部門	一般病棟(共用部)	スタッフ休憩室
(1)使用目的			
	関連する室名	スタッフステーション	
(2)使用人数	平均在室者数	最大在室者数	
(3)設計水準	運用	① スタッフステーションから利用しやすい位置に設ける。	
	性能	① 居住環境に配慮する。 ② 手洗い設備を設ける。	
	機器		
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
イー8	病棟部門	一般病棟(共用部)	シャワー室・脱衣
(1)使用目的	病棟における入院患者用のシャワー室として使用する。		
	関連する室名	脱衣室	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 各病棟に設置する。脱衣場を含む。	
	性能		
	機器		
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
イー9	病棟部門	一般病棟(共用部)	特殊浴室
(1)使用目的	一般浴室を利用できない入院患者用の特殊浴室(機械浴室)		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数		最大在室者数
(3)設計水準	運用	① 1フロアに1箇所、2看護共用で利用する。	
	性能	① 出入口は引戸とし、ストレッチャーや車椅子の出入りが容易な幅を確保する。	
	機器	① 機械式浴槽(シャワーバス)を設ける。	
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
イー10	病棟部門	小児病棟	プレイルーム
(1)使用目的	小児科の入院患者が利用する病棟において、児童・幼児の遊び場として使用する。		
	関連する室名	面談室	
(2)使用人数	平均在室者数	5人	最大在室者数 10人
(3)設計水準	運用	① スタッフが観察しやすい配置および構造とする。	
	性能	① 出入口は引戸とし、ストレッチャーや車椅子の出入りが容易な幅を確保する。 ② 安全に遊べる仕上げ材料(クッション性に配慮された床など)を使用する。 ③ 音や振動の周囲への影響に配慮した構造とする。 ④ 手洗い設備(子どもが手が届く高さとする)を設ける。	
	機器		
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
イー11	病棟部門	血液腫瘍科	無菌室
(1)使用目的	移植治療を行った患者などが安全で快適に過ごせる療養空間として使用する。		
	関連する室名	(ユニットシャワー・トイレ、洗面コーナー)	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① トイレおよび洗面コーナーを設置する。 ② 出入口に前室を設ける。 ③ 【無菌治療室管理加算】	
	性能	① 出入口は引戸とし、ベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 隣接する病室や廊下等適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 病室に附属したトイレの音に配慮するとともに、開閉しやすい扉を設ける。 ④ キュービクルカーテンを各ベッドに設ける。 ⑤ メディカルユニット未使用時における居住環境としての設えに配慮する。 ⑥ 室内環境は清浄度クラス I (高度清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ⑦ 患者のQOL向上に配慮するとともに、清潔保持の容易な仕上げとする。 ⑧ 洗面コーナーはシャワー水洗付とし、車椅子でも利用しやすい構造とする。 ⑨ メディカルユニット(医ガス、ナースコール、各種スイッチ、電源等)を各ベッドに設ける。 ⑩ テレビ、インターネット等個別に患者が利用できる設備を設ける。 ⑪ 全般照明は直接光源が見えない点に配慮し、夜間の歩行に支障がないよう足元灯を設ける。 ⑫ 個別照明は各ベッドに読書灯、処置灯を設け、同室患者への影響に配慮する。	
	機器	① 層流無菌病室システムを設ける。	
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
イー12	病棟部門	血液腫瘍科	準無菌室
(1)使用目的	移植治療を行った患者などが安全で快適に過ごせる療養空間として使用する。		
	関連する室名	(ユニットシャワー・トイレ、洗面コーナー)	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① トイレおよび洗面コーナーを設置する。 ② 【無菌治療室管理加算】	
	性能	① 出入口は引戸とし、ベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 隣接する病室や廊下等適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ キュービクルカーテンを各ベッドに設ける。 ④ メディカルユニット未使用時における居住環境としての設えに配慮する。 ⑤ 室内環境は清浄度クラスⅡ(清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ⑥ 患者のQOL向上に配慮するとともに、清潔保持の容易な仕上げとする。 ⑦ 洗面コーナーはシャワー水洗付とし、車椅子でも利用しやすい構造とする。 ⑧ メディカルユニット(医ガス、ナースコール、各種スイッチ、電源等)を各ベッドに設ける。 ⑨ テレビ、インターネット等個別に患者が利用できる設備を設ける。 ⑩ 全般照明は直接光源が見えない点に配慮し、夜間の歩行に支障がないよう足元灯を設ける。 ⑪ 個別照明は各ベッドに読書灯、処置灯を設け、同室患者への影響に配慮する。	
	機器	① 手洗い設備(滅菌水)を設ける。	
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
イー13	病棟部門	眼科	診察室・光線力学的療法室
(1)使用目的	主として眼科の入院患者の病棟回診、検査に使用する。また、光線力学療法の治療を行う。		
	関連する室名	スタッフステーション	
(2)使用人数	平均在室者数		最大在室者数
(3)設計水準	運用	① スタッフステーションに近接して配置する。 ② カーテンレールまたは間仕切りで区分できる構造とする。	
	性能	① 出入口は引戸とし、ベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 暗室対応の建具を設置する。また出入り口には遮光カーテンを設ける。 ③ 手洗い設備を設ける。 ④ エリアごとに照度を調節できる照明設備を設ける。 ⑤ 照明設備は蛍光灯とする。(白熱灯利用不可) ⑥ 自然光が入らない構造とする。 ⑦ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 光線力学的療法用半導体レーザー ② スリットランプ ③ スリットランプカメラシステム	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
イー14	病棟部門	眼科	1床室(光線力学的療法入院患者用)
(1)使用目的	主として眼科の光線力学療法後の患者の入院が可能な病棟の部屋(個室1室)		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数		最大在室者数
(3)設計水準	運用	① 眼科病棟内に1室設ける。 ② 病棟診察室に近接して設ける。	
	性能	① 出入口は引戸とし、ベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 暗室対応の建具を設置する。また出入り口には遮光カーテンを設ける。 ③ 手洗い設備を設ける。 ④ エリアごとに照度を調節できる照明設備を設ける。 ⑤ 照明設備は蛍光灯とする。(白熱灯利用不可) ⑥ 医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑦ 直射日光を避けるため遮光タイプのカーテンを設ける。	
	機器		
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
イー15	病棟部門	耳鼻咽喉科	処置室(耳鼻咽喉科)
(1)使用目的	耳鼻咽喉科の入院患者の診察・処置に使用する。		
	関連する室名	スタッフステーション	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 6人
(3)設計水準	運用	① 廊下から出入りしやすくスタッフ動線に配慮した位置に設ける。 ② 耳鼻咽喉科病棟内に1室設置する。	
	性能	① 出入口は引戸とし、ベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② プライバシーを確保するため処置スペースの周りにキュービクルカーテンを設ける。 ③ 手洗い設備を設ける。 ④ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 耳鼻咽喉科診療ユニット ② 処置用顕微鏡 ③ ネプライザーユニット ④ 喉頭ファイバースコープ	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
イー16	病棟部門	感染症・皮膚科病棟	個室(2類感染症、成人感染症、小児感染症)
(1)使用目的	入院患者や家族等が安全で快適に過ごせる療養空間として使用する。また、病室の陰圧を保ちやすいように前室を設ける。前室は、感染症外来患者の診察時に職員の防護用具着用場所としても使用する。		
	関連する室名	(ユニットシャワー・トイレ、洗面コーナー)	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① 廊下側にユニットシャワー・トイレを設置する。 ② 個室のうち2室をHIV治療室兼用とする。【HIV感染者療養環境特別加算】 ③ 建設時の感染症法に則った施設基準を満たすようにする。	
	性能	① 出入口は非接触型の引戸とし、ベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 隣接する病室や廊下等適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ メディカルユニット未使用時における居住環境としての設えに配慮する。 ④ 床材は消毒に耐えうる素材とする。 ⑤ 外部に面する窓は原則として施錠できるものとする。 ⑥ 洗面コーナーはシャワー水洗付とし、車椅子でも利用しやすい構造とする。 ⑦ メディカルユニット(医ガス、ナースコール、各種スイッチ、電源等)を各ベッドに設ける。 ⑧ テレビ、インターネット等個別に患者が利用できる設備を設ける。 ⑨ 全般照明は直接光源が見えない点に配慮し、夜間の歩行に支障がないよう足元灯を設ける。 ⑩ 読書灯、処置灯を設ける。 ⑪ ユニットシャワー・トイレは段差のない構造とする。 ⑫ 空調は独立換気とし、陰圧に切り替えられるものとする。清浄度クラスVとする。 ⑬ 排水(通気を含む)系統は一般エリアと分離した専用配管とする。	
	機器	① 電動ベッド ② 生体情報モニタリングシステム	
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ (※清掃しやすさに配慮する)	

諸室No.	部門名	機能名	室名
イー17	病棟部門	感染症・皮膚科病棟	個室前室(2類感染症、成人感染症、小児感染症)
(1)使用目的	病室の陰圧を保ちやすいように前室を設ける。前室は、感染症外来患者の診察時に職員の防護用具着用場所としても使用する。		
	関連する室名	(ユニットシャワー・トイレ、洗面コーナー)	
(2)使用人数	平均在室者数		最大在室者数
(3)設計水準	運用	① 廊下から前室経由で直接入れる構造とする。 ② 感染性廃棄物処理スペースを確保する。 ③ 建設時の感染症法に則った施設基準を満たすようにする。	
	性能	① 出入口は非接触型の引戸とし、ベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 診察室への出入扉は非接触型開閉機構を設ける。 ③ 診察室の気密性を確保する構造とする。 ④ 床材は消毒に耐えうる素材とする。 ⑤ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑥ 前室の空調設備は一般処置室と同等とする。 ⑦ 排水(通気を含む)系統は一般エリアと分離した専用配管とする。 ⑧ 清浄度クラスVとする。	
	機器	① 手洗い(眼洗浄水洗付)設備を設ける。	
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ (※清掃しやすさに配慮する)	

諸室No.	部門名	機能名	室名
イー18	病棟部門	感染症・皮膚科病棟	4床室(成人感染症、小児感染症)
(1)使用目的	患者などが安全で快適に過ごせる療養空間として使用する。		
	関連する室名	(トイレ、洗面コーナー)	
(2)使用人数	平均在室者数	4人	最大在室者数 12人
(3)設計水準	運用	① 廊下側にユニットシャワー・トイレを設置する。 ② 建設時の感染症法に則った施設基準を満たすようにする。	
	性能	① 出入口は非接触型の引戸とし、ベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 隣接する病室や廊下等適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 病室に附属したトイレの音に配慮するとともに、開閉しやすい扉を設ける。 ④ メディカルユニット未使用時における居住環境としての設えに配慮する。 ⑤ キュービクルカーテンを各ベッドに設ける。 ⑥ 外壁側と廊下側の居住環境の差が生じにくい計画とする。(例:個室的多床等) ⑦ 床材は消毒に耐えうる素材とする。 ⑧ 外部に面する窓は原則として施錠できるものとする。 ⑨ 病室の気密性を確保する構造とする。 ⑩ 洗面コーナーはシャワー水洗付とし、車椅子でも利用しやすい構造とする。 ⑪ メディカルユニット(医ガス、ナースコール、各種スイッチ、電源等)を各ベッドに設ける。 ⑫ テレビ、インターネット等個別に患者が利用できる設備を設ける。 ⑬ 全般照明は直接光源が見えない点に配慮し、夜間の歩行に支障がないよう足元灯を設ける。 ⑭ 読書灯、処置灯を設ける。 ⑮ ユニットシャワー・トイレは段差のない構造とする。 ⑯ 空調は独立換気とし、陰圧に切り替えられるものとする。清浄度クラスVとする。 ⑰ 排水(通気を含む)系統は一般エリアと分離した専用配管とする。	
	機器	① 電動ベッド ② 生体情報モニタリングシステム	
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ (※清掃しやすさに配慮する)	

諸室No.	部門名	機能名	室名
イー19	病棟部門	心臓ユニット病棟	準個室
(1)使用目的	緊急の状態を脱した循環器疾患患者が、清潔で安全な療養環境をもつ入院居室として使用する。		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 救命ICU、HCUで急性期を過ごした後の準急性期病室として運用する。 ② ハイケアユニット入院医療管理料が算定可能なこと	
	性能	① 出入口扉は医療機器を付属したベッドの出入りが容易な幅(1.8m以上)を確保する。 ② 頭部袖壁間仕切(固定)+パーティションにより容易に個室化できる準個室構造とする。 ③ 室内環境は清浄度クラスIV(一般清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ④ 各ベッドに医療用設備(医ガス、ナースコール、各種スイッチ、電源等)を設ける。 ナースコール: 脊髄損傷患者等にも使用可能なセンサー(体動センサー等)機能付とする。 医療ガス配管: 酸素2、空気2、吸引2 電気設備: 無停電(2系統) 1床毎にアイソレート 電源容量: A以上/床(モニター機器含まず、3Pで15個以上/床、取付高は床上90cm) ⑤ 全般照明は直接光源が見えない点に配慮し、夜間の歩行に支障がないよう足元灯を設ける。 ⑥ 照明装置(調光式)、読書灯(調光式)を設置する。 ⑦ 壁面収納(奥行き50cm程度、高さ80cm)。収納棚は仕切り調整ができること。	
	機器	① 手洗いユニットを設ける。 ② 生体情報モニタリングシステム ③ 救急蘇生装置、除細動器、心電計、呼吸監視装置	
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
イー20	病棟部門	脳神経ユニット病棟	準個室
(1)使用目的	小康を得た脳卒中患者が、清潔で安全な療養環境をもつ入院居室として使用する。		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数	6人	最大在室者数 10人
(3)設計水準	運用	① 救命ICUで急性期を過ごした後の準急性期の病室として運用する。 ② 脳卒中ケアユニット入院医療管理料が算定可能なこと	
	性能	① 出入口扉は医療機器を付属したベッドの出入りが容易な幅(1.8m以上)を確保する。 ② 頭部袖壁間仕切(固定)+パーティションにより容易に個室化できる準個室構造とする。 ③ 室内環境は清浄度クラスIV(一般清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ④ 各ベッドに医療用設備(医ガス、ナースコール、各種スイッチ、電源等)を設ける。 ナースコール: 脊髄損傷患者等にも使用可能なセンサー(体動センサー等)機能付とする。 医療ガス配管: 酸素2、空気2、吸引2 電気設備: 無停電(2系統) 1床毎にアイソレート 電源容量: A以上/床(モニター機器含まず、3Pで15個以上/床、取付高は床上90cm) ⑤ 全般照明は直接光源が見えない点に配慮し、夜間の歩行に支障がないよう足元灯を設ける。 ⑥ 照明装置(調光式)、読書灯(調光式)を設置する。 ⑦ 壁面収納(奥行き50cm程度、高さ80cm)。収納棚は仕切り調整ができること。 ⑧ センtralモニタをスタッフステーションに置く。	
	機器	① 手洗いユニットを設ける。 ② 生体情報モニタリングシステム ③ 救急蘇生装置、除細動器、心電計、呼吸監視装置	
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ウー1	救命救急センター	救命救急センター外来	シャワー除染室
(1)使用目的	救急患者が汚染している場合に全身の洗浄に使用するとともに、化学災害の場合にも使用する。		
	関連する室名	救急前室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① 外部から直接出入りできる構造とする。	
	性能	① 出入口は車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 水洗い可能な内装仕上げ(床・壁)とする。 ③ 処置スペース廻りにキュービクルカーテンを設ける。 ④ 洗体用のシャワーと排水を確保する。緊急災害時には除染室として使用する。 ⑤ 化学災害時の排水は一時的に貯留させ処理できるようにすること。 ⑥ シャワーを4本設置し、ストレッチャーが2台同時に入れるスペースとする。	
	機器	① ストレッチャー	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ウー2	救命救急センター	救命救急センター外来	初療室(1)
(1)使用目的	救急患者の初期治療を行う室として使用する。		
	関連する室名	救急前室	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 8人
(3)設計水準	運用	① 救急前室に隣接して設置する。 ② CTが設置可能なスペースを確保し、将来的に操作室を設けられるようにする。	
	性能	① 同時に2人分の患者対応が可能な設備とする。 ② 出入口は車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ③ 水洗い可能な内装仕上げ(床・壁)とする。 ④ 出入口にキュービクルカーテンを設ける。 ⑤ 放射線防護間仕切りとする。 ⑥ 手術用手洗い設備を各室に設ける。 ⑦ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑧ 内視鏡などが使用可能な設備を設ける。 ⑨ 天井付无影灯は1セットのみでよい。	
	機器	① 无影灯を設ける。 ② 重症患者生体情報モニター ③ 救急医療セット ④ 搬送用人工呼吸器 ⑤ 救急カート ⑥ 電動油圧式検診台(2台) ⑦ フラッシュ型高輝度光源装置	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ウー3	救命救急センター	救命救急センター外来	初療室(2)
(1)使用目的	救急患者の初期治療を行う室として使用する。		
	関連する室名	救急前室	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 8人
(3)設計水準	運用	① 救急前室に隣接して設置する。	
	性能	① 同時に2人分の患者対応が可能な設備とする。 ② 出入口は車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ③ 水洗い可能な内装仕上げ(床・壁)とする。 ④ 出入口にキュービクルカーテンを設ける。 ⑤ 手術用手洗い設備を各室に設ける。 ⑥ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑦ 内視鏡などが使用可能な設備を設ける。 ⑧ 天井付无影灯は1セットのみでよい。	
	機器	① 无影灯を設ける。 ② 重症患者生体情報モニター ③ 救急医療セット ④ 搬送用人工呼吸器 ⑤ 救急カート ⑥ 電動油圧式検診台(2台) ⑦ フラッシュ型高輝度光源装置	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
エ-1	総合周産期母子医療センター	産科部門	MFICU
(1)使用目的	母体胎児集中治療室。母体または胎児に対しリスクの高い妊娠につき十分な監視のもと適時、適切な治療を行う。		
	関連する室名	スタッフステーション、分娩室、産科手術室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① 廊下側にユニットシャワートイレを設置する。 ② 【総合周産期特定集中治療室管理料(15㎡/床)】	
	性能	① 出入口は引戸とし、ベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 隣接する病室や廊下等適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ キュービクルカーテンを必要な箇所に設ける。 ④ メディカルユニット未使用時における居住環境としての設えに配慮する。 ⑤ 室内環境は清浄度クラスⅢ(準清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ⑥ 洗面コーナーはシャワー水洗付とし、車椅子でも利用しやすい構造とする。 ⑦ メディカルユニット(医ガス、ナースコール、各種スイッチ、電源等)を各ベッドに設ける。 ⑧ テレビ、インターネット等個別に患者が利用できる設備を設ける。 ⑨ 全般照明は直接光源が見えない点に配慮し、夜間の歩行に支障がないよう足元灯を設ける。 ⑩ 読書灯、処置灯を設ける。 ⑪ ユニットシャワーは段差のない構造とし、座位にて全身シャワーができる設備とする。	
	機器	① 重症新生児等生体情報モニター ② 分娩監視装置 ③ 電動ベッド(サイドレール付)	
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
エ-2	総合周産期母子医療センター	産科部門	スタッフステーション
(1)使用目的	総合周産期病棟内MFICUにおける各種業務の拠点として医療スタッフが使用する。		
	関連する室名	MFICU、LDR室	
(2)使用人数	平均在室者数	20人	最大在室者数 30人
(3)設計水準	運用	① 病棟の出入りを観察しやすい位置に設ける。 ② 緊急診察室に隣接して配置する。	
	性能	① 患者や面会者へ対応しやすいオープン形式のカウンターを設ける。 ② 医療情報システムなどを使用するため必要な電源等の設備を十分に設ける。 ③ 手洗い設備を設ける。 ④ ステーション内に必要な搬送設備ステーションを設ける。 ⑤ 壁面に適切な大きさの収納ユニットを設ける。 ⑥ 調剤・薬品カート置場はスペースを仕切り、調剤スペースは調剤台や調剤ユニットを設置する。 ⑦ 医療情報システムなどを使用するため必要な電源等の設備を十分に設ける。 ⑧ 患者情報パネル(スタッフコール運動)は使いやすく、個人情報保護に配慮した計画とする。	
	機器	① 重症新生児等生体情報管理システム ② 分娩管理システム ③ 経皮ビリルビン濃度測定器 ④ 心電計(解析機能付)	
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
エ-3	総合周産期母子医療センター	産科部門(後方病棟)	個室
(1)使用目的	入院患者や家族等が安全で快適に過ごせる療養空間として使用する。		
	関連する室名	(ユニットシャワートイレ、洗面コーナー)	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① 廊下側にユニットシャワートイレを設置する。 ② 【療養環境加算(8㎡/床)】	
	性能	① 出入口は引戸とし、ベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 隣接する病室や廊下等適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 病室に附属したトイレの音に配慮するとともに、開閉しやすい扉を設ける。 ④ キュービクルカーテンを必要な箇所に設ける。 ⑤ メディカルユニット未使用時における居住環境としての設えに配慮する。 ⑥ 洗面コーナーはシャワー水洗付とし、車椅子でも利用しやすい構造とする。 ⑦ メディカルユニット(医ガス、ナースコール、各種スイッチ、電源等)を各ベッドに設ける。 ⑧ テレビ、インターネット等個別に患者が利用できる設備を設ける。 ⑨ 全般照明は直接光源が見えない点に配慮し、夜間の歩行に支障がないよう足元灯を設ける。 ⑩ 読書灯、処置灯を設ける。 ⑪ ユニットシャワートイレは段差のない構造とする。 ⑫ 母子同床のため、安全柵がついた広めのベッドとする。	
	機器	① 分娩監視装置 ② 生体情報モニター ③ 電動ベッド(サイドレール付)	
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
エ-4	総合周産期母子医療センター	産科部門(後方病棟)	4床室
(1)使用目的	入院患者や家族等が安全で快適に過ごせる療養空間として使用する。		
	関連する室名	(トイレ、洗面コーナー)	
(2)使用人数	平均在室者数	4人	最大在室者数 12人
(3)設計水準	運用	① 廊下側にトイレおよび洗面コーナーを設置する。 ② 4人分の収納ユニット(移動式)を設置する。 ③ 【療養環境加算(8㎡/床)】	
	性能	① 出入口は引戸とし、ベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 隣接する病室や廊下等適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 病室に附属したトイレの音に配慮するとともに、開閉しやすい扉を設ける。 ④ キュービクルカーテンを各ベッドに設ける。 ⑤ メディカルユニット未使用時における居住環境としての設えに配慮する。 ⑥ 外壁側と廊下側の居住環境の差が生じにくい計画とする。(例:個室的多床等) ⑦ 洗面コーナーはシャワー水洗付とし、車椅子でも利用しやすい構造とする。 ⑧ メディカルユニット(医ガス、ナースコール、各種スイッチ、電源等)を各ベッドに設ける。 ⑨ テレビ、インターネット等個別に患者が利用できる設備を設ける。 ⑩ 全般照明は直接光源が見えない点に配慮し、夜間の歩行に支障がないよう足元灯を設ける。 ⑪ 個別照明は各ベッドに読書灯、処置灯を設け、同室患者への影響に配慮する。 ⑫ 母子同床のため、安全柵がついた広めのベッドとする。	
	機器	① 生体情報モニター ② 電動ベッド(サイドレール付)	
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
エ-5	総合周産期母子医療センター	産科部門	分娩室
(1)使用目的	分娩専用室であり産前、産後の時間を過ごす。		
	関連する室名	陣痛室、スタッフステーション	
(2)使用人数	平均在室者数	5人	最大在室者数 10人
(3)設計水準	運用	① 廊下から出入りしやすくスタッフ動線に配慮した位置に設ける。	
	性能	① 出入口は引戸とし、ベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 帯電防止効果があり、清浄度が保たれる仕上げ材料を使用する。 ③ 防音性能を確保する。 ④ 室内環境は清浄度クラスⅢ(準清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ⑤ 気分を落ち着かせるアメニティに配慮した内装とする。 ⑥ 手術用手洗い設備を設ける。 ⑦ 出血や汚物などの処理ができる流し、汚物槽を設ける。 ⑧ 処置に必要な設備(医ガス、ナースコール、各種スイッチ、電源等)を各ベッドに設ける。 ⑨ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 小型无影灯を設ける。 ② 重症新生児等生体情報モニター ③ 分娩台、分娩監視装置、新生児処置台、吸引娩出器	
(4)室環境	6	清潔管理を特に重視し、耐荷重性に優れた仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
エ-6	総合周産期母子医療センター	産科部門	LDR室
(1)使用目的	陣痛から分娩、回復までを一体とし、妊婦や家族等が安全で快適に過ごせる療養空間として使用する。		
	関連する室名	産科手術室、分娩室、後方病棟、スタッフステーション、医師当直室	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① 後方病棟や産科手術室に近い位置に配置する。 ② 廊下側にユニットシャワートイレを設置する。	
	性能	① 出入口は引戸とし、ベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 隣接する病室や廊下等適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ キュービクルカーテンを必要箇所に設ける。 ④ メディカルユニットおよび无影灯は未使用時における居住環境としての設えに配慮する。 ⑤ 室内環境は清浄度クラスⅢ(準清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ⑥ 床材は清掃しやすい素材とする。 ⑦ 居室として気分を落ち着かせるようアメニティに配慮した内装仕上げとする。 ⑧ 洗面コーナーはシャワー水洗付とし、車椅子でも利用しやすい構造とする。 ⑨ メディカルユニット(医ガス、ナースコール、各種スイッチ、電源等)を各ベッドに設ける。 ⑩ テレビ、インターネット等個別に患者が利用できる設備を設ける。 ⑪ 全般照明は直接光源が見えない点に配慮し、夜間の歩行に支障がないよう足元灯を設ける。 ⑫ 読書灯、処置灯を設ける。 ⑬ シャワーは段差のない構造とし、座位にて全身シャワー可能な構造とする。 ⑭ 出血や汚物などの処理ができる流し、汚物槽を設ける。 ⑮ 家具などは、産婦がリラックスできる癒し系の色調などを考慮して選定する。	
	機器	① 小型无影灯を設ける。 ② 重症新生児等生体情報モニター ③ 分娩台(LDR用)、分娩監視装置、インファントウオーマー、吸引娩出器 ④ ソファベッド	
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
エ-7	総合周産期母子医療センター	産科部門	産科手術室
(1)使用目的	帝王切開・子宮頸管縫縮などの手術室として使用する。		
	関連する室名	準備室、蘇生室	
(2)使用人数	平均在室者数	4人	最大在室者数 8人
(3)設計水準	運用	① 準備室に近い位置に配置する。	
	性能	① 出入り口はベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 帯電防止効果があり、清浄度が保たれる仕上げ材料を使用する。 ③ 防音性能を確保する。 ④ 室内環境は清浄度クラスⅡ(清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ⑤ 気分を落ち着かせるアメニティに配慮した内装とする。 ⑥ 手術用手洗い設備を設ける。 ⑦ 新生児出生に配慮し、空調調整が個別に行えるようにする。 ⑧ 処置に必要な設備(医ガス、ナースコール、各種スイッチ、電源等)を各ベッドに設ける。 ⑨ 壁面収納のキャビネットを設ける。	
	機器	① 壁埋込型の高精細モニター、器材棚、情報パネル、オペタイマー等を設ける。 ② 无影灯を設ける。 ③ 重症新生児等生体情報モニター ④ 分娩監視装置 ⑤ 麻酔器 ⑥ 分娩台 ⑦ 電気メス ⑧ 帝王切開手術機械セット	
(4)室環境	6	清潔管理を特に重視し、耐荷重性に優れた仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
エ-8	総合周産期母子医療センター	産科部門	緊急診察室
(1)使用目的	産科及び救急患者の診察室として使用する。		
	関連する室名	MFICU、LDR室、産科手術室	
(2)使用人数	平均在室者数		最大在室者数
(3)設計水準	運用	① 救急搬送入口付近に設置する。	
	性能	① 廊下に向する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 診察台の周囲、更衣スペースの廻りにキュービクルカーテンを設ける。 ④ 手洗い設備を設ける。 ⑤ 情報設備、医療コンセントを設ける。 ⑥ 医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑦ 内診台用排水設備、コンセントを設ける。	
	機器	① 小型无影灯を設ける。 ② 分娩監視装置 ③ 検診台	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
エ-9	総合周産期母子医療センター	産科部門(後方病棟)	処置室
(1)使用目的	産科処置・内診、妊婦の診察室として使用する。		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数		最大在室者数
(3)設計水準	運用	① 産科後方病棟内に設置する。	
	性能	① 廊下に向する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 診察台の周囲、更衣スペースの廻りにキュービクルカーテンを設ける。 ④ 手洗い設備を設ける。 ⑤ 流し付作業台を設ける。 ⑥ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑦ 内診台用排水設備、コンセントを設ける。	
	機器	① 小型无影灯を設ける。 ② 診察ユニット ③ 検診台 ④ 生体情報モニター(血圧計測器)	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
エ-10	総合周産期母子医療センター	新生児部門	NICU(12)
(1)使用目的	超低出生体重児などのハイリスク新生児を集中治療管理する。		
	関連する室名	スタッフステーション、分娩室、超未熟児NICU、NHCU/GCU	
(2)使用人数	平均在室者数	17人	最大在室者数 30人
(3)設計水準	運用	① スタッフステーションに隣接して設ける。 ② ベッド数は12床とする。 ③ 新生児特定集中治療室の広さは1床当たり12㎡以上確保する。 ④ 【新生児特定集中治療室管理料(7㎡/床)】	
	性能	① 出入口は引戸とし、ベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② キュービクルカーテン等によりベッド毎のプライバシーを確保する。 ③ 室内環境は清浄度クラスⅢ(準清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ④ 手洗い設備を適所に設ける。 ⑤ 病室全体を暗くすることができ、各ベッド個別の照明を確保する。 ⑥ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① シーリングペンダントを設ける。 ・インフュージョンヘッド(シリンジポンプ10台搭載可能) ・医療ガス、電源取り出し口あり ② ウォールケアユニットを設ける。 ③ 重症新生児等生体情報モニター ④ 保育器、人工呼吸器 ⑤ インファントウォーマー ⑥ 超音波診断装置 ⑦ 鼻腔式持続陽圧呼吸補助装置	
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
エ-11	総合周産期母子医療センター	新生児部門	超未熟児用NICU(3)
(1)使用目的	超低出生体重児などのハイリスク新生児を集中治療管理する。		
	関連する室名	スタッフステーション、分娩室、超未熟児NICU、NHCU/GCU	
(2)使用人数	平均在室者数	5人	最大在室者数 10人
(3)設計水準	運用	① スタッフステーションに隣接して設ける。 ② ベッド数は3床とする。 ③ 新生児特定集中治療室の広さは1床当たり12㎡以上確保する。 ④ 【新生児特定集中治療室管理料(7㎡/床)】	
	性能	① 出入口は引戸とし、ベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内環境は清浄度クラスⅡ(清潔区域)程度とする。(HEAS02-2004) ③ 手洗い設備を適所に設ける。 ④ メディカルユニット(医ガス、ナースコール、各種スイッチ、電源等)を設ける。 ⑤ 病室全体を暗くすることができ、各ベッド個別の照明を確保する。 ⑥ 暖房、加湿管理を他の新生児病室と別系統とする。	
	機器	① シーリングペンダントを設ける。 ・インフュージョンヘッド(シリンジポンプ10台搭載可能) ・医療ガス、電源取り出し口あり ② ウォールケアユニットを設ける。 ③ 重症新生児等生体情報モニター ④ 保育器、人工呼吸器	
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
エ-12	総合周産期母子医療センター	新生児部門	NHCU/GCU(30)
(1)使用目的	超低出生体重児などのハイリスク新生児を集中治療管理する。		
	関連する室名	スタッフステーション、分娩室、超未熟児NICU、NHCU/GCU	
(2)使用人数	平均在室者数	40人	最大在室者数 50人
(3)設計水準	運用	① スタッフステーションに隣接して設ける。 ② ベッド数は30床とする。 ③ NHCUの広さは1床当たり10㎡以上、GCUの広さは1床あたり5㎡程度を確保する。	
	性能	① 出入口は引戸とし、ベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内環境は清浄度クラスⅢ(準清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ③ 手洗い設備を適所に設ける。 ④ メディカルユニット(医ガス、ナースコール、各種スイッチ、電源等)を設ける。 ⑤ 病室全体を暗くすることができ、各ベッド個別の照明を確保する。 ⑥ 暖房、加湿管理を他の新生児病室と別系統とする。	
	機器	① シーリングペンダントを設ける。 ② ・インフュージョンヘッド(シリンジポンプ10台搭載可能) ・医療ガス、電源取り出し口あり ③ ウォールケアユニットを設ける。 ④ 重症新生児等生体情報モニター ⑤ 保育器、人工呼吸器 ⑥ インファントウォーマー ⑦ 鼻腔式持続陽圧呼吸補助装置	
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
エ-13	総合周産期母子医療センター	新生児部門	感染症用隔離室
(1)使用目的	感染症等のハイリスク新生児を集中治療管理する。		
	関連する室名	前室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① スタッフステーションに隣接して設ける。 ② 感染症用隔離室の広さは1床当たり12㎡以上確保する。 ③ 【新生児特定集中治療室管理料(7㎡/床)】	
	性能	① 出入口は引戸とし、ベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 手洗い設備を適所に設ける。 ③ メディカルユニット(医ガス、ナースコール、各種スイッチ、電源等)を設ける。 ④ 全般照明は直接光源が見えない点に配慮し、夜間の歩行に支障がないよう足元灯を設ける。 ⑤ 準無菌室としても利用するため、室内環境は清浄度クラスⅡ(清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ⑥ 空調設備の陰陽圧切替ができる構造とする。排ガスが同フロア内の系統と別にする。 ⑦ 隣接するユニットとの境界を配慮する。:空調、暖房、冷房を別にする。	
	機器	① シーリングペンダントを設ける。 ・インフュージョンヘッド(シリンジポンプ10台搭載可能) ・医療ガス、電源取り出し口あり ② ウォールケアユニットを設ける。 ③ 保育器、人工呼吸器	
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
エ-14	総合周産期母子医療センター	新生児部門	ファミリーケア室
(1)使用目的	看取り時や在宅医療の必要患者の退院前の模擬外泊用等に使用。		
	関連する室名	廊下	
(2)使用人数	平均在室者数	2名	最大在室者数 3名
(3)設計水準	運用	① 各新生児病室と別に設ける。 ① 出入口は引戸とし、ベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 帯電防止効果があり、清浄度が保たれる仕上げ材料を使用する。 ③ 通常の個室病室と同様の構造とする。 ④ ミニキッチン、トイレ、シャワーを設ける。 ⑤ 壁埋め込みの、酸素、空気、吸引を確保する。	
	性能		
	機器		
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
エ-15	総合周産期母子医療センター	新生児部門	面会廊下
(1)使用目的	NICU/HCU/GCUIに入室できない親族の面会可能にするスペース		
	関連する室名	NICU/HCU/GCU	
(2)使用人数	平均在室者数	15人	最大在室者数 20人
(3)設計水準	運用	① NICU/HCU/GCUの廊下に配置し、職員通用廊下とは別にする。	
	性能	① 面会環境を整えるため窓1箇所ごとにシェードを設けるなど面会時のプライバシーに配慮する。 ② 廊下には椅子を配備し、腰掛けて待つことが可能な状況にする。	
	機器		
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
エ-16	総合周産期母子医療センター	新生児部門	新生児手術室
(1)使用目的	低出生体重児の手術、処置を行う。		
	関連する室名	手術室前室	
(2)使用人数	平均在室者数	4人	最大在室者数 6人
(3)設計水準	運用	① 準備室に近い位置に配置する。 ① 出入口はベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 帯電防止効果があり、清浄度が保たれる仕上げ材料を使用する。 ③ 室内環境は清浄度クラスⅡ(清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ④ 新生児体温に配慮した室温管理を行なう。 ⑤ 无影灯付天井吊下げアームが設置可能な設備を設ける。 ⑥ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑦ 新生児体温に配慮した室温管理を行なう。	
	性能		
	機器	① 壁埋込型の器材棚、情報パネル、オペタイマー等を設ける。 ② 无影灯を設ける。 ③ インファントウォーマー	
(4)室環境	6	清潔管理を特に重視し、耐荷重性に優れた仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
エ-17	総合周産期母子医療センター	新生児部門	眼科処置室
(1)使用目的	未熟児網膜症の診察、レーザー手術等の処置に使用		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数	4人	最大在室者数 6人
(3)設計水準	運用	① 各新生児病室と別に設ける。	
	性能	① 出入口はベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 暗室対応可能な構造とする。 ③ 帯電防止効果があり、清浄度が保たれる仕上げ材料を使用する。 ④ 室内環境は清浄度クラスⅡ(清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ⑤ 新生児体温に配慮した室温管理を行う。 ⑥ レーザー治療装置の電源(3相200V)の確保、酸素、空気、吸引等を2系統以上確保する。 ⑦ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① インファントウオーマー ② マルチカラーレーザー光凝固装置 ③ ビデオカメラ型双眼倒像鏡 ④ スリットランプカメラシステム、手持ち式スリットランプ	
(4)室環境	6	清潔管理を特に重視し、耐荷重性に優れた仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
エ-18	総合周産期母子医療センター	新生児部門	透視検査室
(1)使用目的	中央画像診断部の透視室まで移動が困難な重症新生児、極低出生体重児の透視撮影、透視下処置に使用する。		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① 各新生児病室と別に設ける。	
	性能	① 出入口はベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 帯電防止効果があり、清浄度が保たれる仕上げ材料を使用する。 ③ 室内環境は清浄度クラスⅢ(清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ④ 壁埋め込みの、酸素、空気、吸引を確保する。 ⑤ 新生児体温に配慮した室温管理を行う。	
	機器	① 外科用X線Cアーム装置	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
エ-19	総合周産期母子医療センター	新生児部門	生理検査室
(1)使用目的	中央部門の生理検査室と同様のシールド構造とする。脳波検査、ABR検査等に使用。		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 各新生児病室と別に設ける。	
	性能	① 出入口はベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 防音仕様の扉、間仕切壁とする。 ③ 帯電防止効果があり、清浄度が保たれる仕上げ材料を使用する。 ④ 防音・電波シールド仕様とし、かつバリアフリー対応とする。 (参考値:防音性能35db減衰程度、シールド性能50db減衰程度) ⑤ 室内環境は清浄度クラスⅢ(準清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ⑥ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑦ 新生児体温に配慮した室温管理が行える。	
	機器	① 多機能心電計 ② デジタル多用途脳波計 ③ 新生児ABR聴力検査装置	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
エ-20	総合周産期母子医療センター	新生児部門	検査室
(1)使用目的	血液ガス、生化学検査を行う。		
	関連する室名	廊下	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 各新生児病室と別に設ける。	
	性能	① 出入口はベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 帯電防止効果があり、清浄度が保たれる仕上げ材料を使用する。 ③ 室内環境は清浄度クラスⅢ(準清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ④ 手洗い設備を設置する。排水(保水処理)を確保する。 ⑤ 医療機器のテストにも使用するため、酸素、空気、吸引を1系統確保する。 ⑥ 無停電装置の電源の確保が望ましい。 ⑦ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① ヘマトクリット遠心機 ② 呼吸機能測定装置 ③ 遊離ビリルビン測定装置 ④ カブノグラフ付パルスオキシメーター ⑤ 血液ガス分析装置 ⑥ 気管支ファイバースコープ ⑦ CRP測定装置	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
エ-21	総合周産期母子医療センター	新生児部門	授乳室
(1)使用目的	直接母乳が可能な児に対して面会時に、母が直接授乳する。また個別に授乳指導を行なう際に使用する。		
	関連する室名	NHCU/GCU	
(2)使用人数	平均在室者数	10人	最大在室者数 15人
(3)設計水準	運用	① NHCU/GCU室内に共有スペースとして隣接して設ける。	
	性能	① プライバシーに配慮する。 ② 手洗い設備、流し台、給湯器を設ける。	
	機器	① 電動搾乳器	
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
エ-22	総合周産期母子医療センター	新生児部門	薬品調製室
(1)使用目的	輸液・輸血などの薬剤を調剤するための部屋		
	関連する室名	NICU/NHCU/GCU	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① NICUに近接して配置し清潔な環境を確保する。	
	性能	① 調剤作業中に病室内部を可視できるよう窓を設ける。 ② 手洗い設備を設ける。 ③ 室内環境は清浄度クラスⅡ(準清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ④ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 保冷庫 ② 薬品棚 ③ 点滴器材棚	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
エ-23	総合周産期母子医療センター	新生児部門	配乳室
(1)使用目的	搾乳や冷凍母乳を哺乳瓶に詰め替える作業また、栄養部で調乳されたミルクを分乳する作業を行なう部屋		
	関連する室名	NICU/NHCU/GCU	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 2人
(3)設計水準	運用	① 新生児部門入口近くに配置する。 ② 配膳用エレベーターからミルクを搬入しやすい構造とする。	
	性能	① 出入口は引戸とし、台車等の出入りが容易な幅を確保する。 ② 流し台(2槽シンク)を設ける。	
	機器	① 大型冷凍庫(2台) ② 保育器	
(4)室環境	5	バックヤードとして相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
エ-24	総合周産期母子医療センター	新生児部門	器材庫
(1)使用目的	保育器や人工呼吸器など使用準備して保管する。ホルマリン消毒機を設置する。		
	関連する室名		
(2)使用人数		最大在室者数	
(3)設計水準	運用	① 病室から利用しやすい位置に設ける。	
	性能	① 器材の収納庫として利用できる広さを確保する。 ② メンテナンス用の医療ガス配管や電源設備を確保する。	
	機器	① 保育器用ホルマリン消毒器	
(4)室環境	5	バックヤードとして相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
エ-25	総合周産期母子医療センター	新生児部門	沐浴室
(1)使用目的	新生児の沐浴や部分浴をする部屋		
	関連する室名	GCU/HCU/NICU	
(2)使用人数	平均在室者数	4人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① HCU/GCUに隣接して設置する。	
	性能	① 耐水性に優れた内装材、防滑性に優れた床材を使用する。	
	機器	① 新生児処置台(2台)	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
エ-26	総合周産期母子医療センター	新生児部門	洗浄室
(1)使用目的	保育器や関連部品、コット等のホルマリン消毒前洗浄を行う。また呼吸器の蛇管など洗浄や乾燥を行う。		
	関連する室名	器材室	
(2)使用人数	平均在室者数		最大在室者数
(3)設計水準	運用	① 器材室に隣接して配置する。	
	性能	① 耐水性に優れた内装材、防滑性に優れた床材を使用する。 ② 手洗い設備を設ける。	
	機器	① 洗濯機 ② 乾燥機	
(4)室環境	5	バックヤードとして相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
オ-1	手術部門	手術室	緊急手術室
(1)使用目的	入院患者および救急外来患者を対象とし、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科等全ての手術を行う。		
	関連する室名	前室、手術ホール、回収廊下	
(2)使用人数	平均在室者数	4人	最大在室者数 8人
(3)設計水準	運用	① 準備ホールおよび改修廊下に隣接して配置する。 ② 手術部門入口付近に設け、救急部門との連絡性(救急エレベーター)に配慮する。	
	性能	① 内法寸法は8mx8m以上を想定 ② 自動扉の幅は2m以上確保し、開閉方法は2段階制御とする。 ③ 帯電防止効果があり、清浄度が保たれる仕上げ材料を使用する。 ④ メンテナンスしやすい(ワックスフリー床材等)を使用する。 ⑤ 放射線防護対応とする。 ⑥ 室内環境は清浄度クラスⅡ(清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ⑦ 各室の特性を考慮した温湿度設定が可能な空調設備とする。 ⑧ 前室を設け陽陰圧調節可能な感染症対応とする。 ⑨ 医療ガスパネルを設ける。(壁・2ヶ所(医療ガス、余剰ガス、窒素ガス、炭酸ガス等)) コンセントモジュールを設ける。(4系統4ヶ所) ⑩ -コンセント大型機器用200V×1、UPC100V×1を含む・電源容量120A ⑪ 電流監視装置、絶縁監視装置を設ける。 ⑫ 部屋照明の照度調整スイッチを設ける。 ⑬ 内視鏡モニター等のモニター収納庫、蹴込収納庫を設ける。 ⑭ 画像モニター等のモニター収納棚を設ける。	
	機器	① 壁埋込型の高精細モニター、器材棚、保温庫、保冷库、情報パネル、オペタイマー等を設ける。 ② シーリングペンダント(医療機器搭載、電源・医療ガス供給)を設ける。 ③ アイソレーションユニットを設ける。 ④ 内視鏡用映像端子ユニットを設ける。(壁・2ヶ所) ⑤ 無影灯付天井吊り下げアームを設ける。 ⑥ モニター付天井吊り下げ式アームを設ける。 ⑦ カメラ付天井吊り下げ式アームを設ける。 ⑧ 手術状況監視システム(部屋全体を映し出すカメラ)を設ける。 ⑨ 手術室医用画像システム(術野カメラ)を設ける。 ⑩ 麻酔器 ⑪ 生体情報モニター ⑫ 外科用X線装置 ⑬ 電動手術台、サージカルチェア、展開台車 ⑭ メディカルフリーザー、超音波凝固切開装置、血液凝固止血装置、電気メス	
(4)室環境	6	清潔管理を特に重視し、耐荷重性に優れた仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
オ-2	手術部門	手術室	一般手術室
(1)使用目的	入院患者を対象とした手術を行う。		
	関連する室名	手術ホール、回収廊下	
(2)使用人数	平均在室者数	4人	最大在室者数 8人
(3)設計水準	運用	① 準備ホールおよび改修廊下に隣接して配置する。 ② 原則的に各室または2室に1箇所準備室を効率的に設置する。 ③ 内視鏡手術エリアを構成し、共用器材室を設ける。 ④ 2室を隣接させ移植用手術室(1室は放射線防護対応)とする。 ⑤ 外科用2室(うち1室は放射線防護対応)、婦人科、泌尿器科共用を1室設ける。	
	性能	① 内法寸法は7mx7m以上を想定 ② 自動扉の幅は1.6m以上確保し、開閉方法は2段階制御とする。 ③ 帯電防止効果があり、清浄度が保たれる仕上げ材料を使用する。 ④ メンテナンスしやすい(ワックスフリー床材等)を使用する。 ⑤ 2室を放射線防護対応とする。 ⑥ 室内環境は清浄度クラスⅡ(清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ⑦ 各室の特性を考慮した温湿度設定が可能な空調設備とする。 ⑧ 医療ガスパネルを設ける。(壁・2ヶ所(医療ガス、余剰ガス、窒素ガス、炭酸ガス等)) コンセントモジュールを設ける。(4系統4ヶ所) ⑩ -コンセント大型機器用200V×1、UPC100V×1を含む・電源容量100A ⑪ 電流監視装置、絶縁監視装置を設ける。 ⑫ 部屋照明の照度調整スイッチを設ける。 ⑬ 内視鏡モニター等のモニター収納庫、蹴込収納庫を設ける。 ⑭ 画像モニター等のモニター収納棚を設ける。	
	機器	① 壁埋込型の高精細モニター、器材棚、保温庫、保冷库、情報パネル、オペタイマー等を設ける。 ② シーリングペンダント(医療機器搭載、電源・医療ガス供給)を設ける。 ③ アイソレーションユニットを設ける。 ④ 内視鏡用映像端子ユニットを設ける。(壁・2ヶ所) ⑤ 無影灯付天井吊り下げアームを設ける。 ⑥ モニター付天井吊り下げ式アームを設ける。 ⑦ カメラ付天井吊り下げ式アームを設ける。 ⑧ 手術状況監視システム(部屋全体を映し出すカメラ)を設ける。 ⑨ 手術室医用画像システム(術野カメラ)を設ける。 ⑩ 麻酔器 ⑪ 生体情報モニター ⑫ 電気メス、アルゴンビームコアグレーター、外科用X線装置 ⑬ 電動手術台、サージカルチェア、展開台車 ⑭ 内視鏡下手術システム、空圧式結石破碎装置 ⑮ TUR用カメラ装置、NEWターマトーム、超音波外科用吸引装置、超音波凝固切開装置、血液凝固止血装置	
(4)室環境	6	清潔管理を特に重視し、耐荷重性に優れた仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
オ-3	手術部門	手術室	耳鼻科・形成外科手術室
(1)使用目的	入院患者を対象とし主として耳鼻科、形成外科手術を行う。		
	関連する室名	手術ホール、回収廊下	
(2)使用人数	平均在室者数	4人	最大在室者数 8人
(3)設計水準	運用	① 準備ホールおよび改修廊下に隣接して配置する。 ② 原則的に各室または2室に1箇所準備室を効率的に設置する。	
	性能	① 内法寸法は7mx7m以上を想定 ② 自動扉の幅は1.6m以上確保し、開閉方法は2段階制御とする。 ③ 帯電防止効果があり、清浄度が保たれる仕上げ材料を使用する。 ④ メンテナンスしやすい(ワックスフリー床材等)を使用する。 ⑤ 室内環境は清浄度クラスⅡ(清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ⑥ 各室の特性を考慮した温湿度設定が可能な空調設備とする。 ⑦ 医療ガスパネルを設ける。(壁・2ヶ所(医療ガス、余剰ガス、窒素ガス、炭酸ガス等)) ⑧ コンセントモジュールを設ける。(4系統4ヶ所) ⑨ ・コンセント大型機器用200V×1、UPC100V×1を含む ・電源容量100A ⑩ 電流監視装置、絶縁監視装置を設ける。 ⑪ 部屋照明の照度調整スイッチを設ける。 ⑫ 内視鏡モニター等のモニター収納庫、蹴込収納庫を設ける。 ⑬ 画像モニター等のモニター収納棚を設ける。 ⑭ レーザーメス対応とする。	
	機器	① 壁埋込型の高精細モニター、器材棚、保温庫、保冷库、情報パネル、オペタイマー等を設ける。 ② シーリングペンダント(医療機器搭載、電源・医療ガス供給)を設ける。 ③ アイソレーションユニットを設ける。 ④ 内視鏡用映像端子ユニットを設ける。(壁・2ヶ所) ⑤ 无影灯付天井吊り下げアームを設ける。 ⑥ モニター付天井吊り下げ式アームを設ける。 ⑦ 手術状況監視システム(部屋全体を映し出すカメラ)を設ける。 ⑧ 麻酔器 ⑨ 生体情報モニター ⑩ 電動手術台、サージカルチェア、展開台車 ⑪ 電気メス、手術用ドリルシステム、電動マイクロドリルセット、XPSドリルシステム ⑫ 中耳内視鏡手術システム ⑬ 手術用顕微鏡システム(耳鼻咽喉科用) ⑭ 炭酸ガスレーザー装置、Qスイッチルビーレーザー装置、レーザー装置 ⑮ バイポーラ凝固止血器	
(4)室環境	6	清潔管理を特に重視し、耐荷重性に優れた仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
オ-4	手術部門	手術室	眼科手術室
(1)使用目的	入院患者を対象とし主として眼科手術を行う。		
	関連する室名	手術ホール、回収廊下	
(2)使用人数	平均在室者数	4人	最大在室者数 8人
(3)設計水準	運用	① 準備ホールおよび改修廊下に隣接して配置する。 ② 原則的に各室または2室に1箇所準備室を効率的に設置する。	
	性能	① 内法寸法は7mx7m以上を想定 ② 自動扉の幅は1.6m以上確保し、開閉方法は2段階制御とする。 ③ 帯電防止効果があり、清浄度が保たれる仕上げ材料を使用する。 ④ メンテナンスしやすい(ワックスフリー床材等)を使用する。 ⑤ 室内環境は清浄度クラスⅡ(清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ⑥ 各室の特性を考慮した温湿度設定が可能な空調設備とする。 ⑦ 医療ガスパネルを設ける。(壁・2ヶ所(医療ガス、余剰ガス、窒素ガス、炭酸ガス等)) ⑧ コンセントモジュールを設ける。(4系統4ヶ所) ⑨ ・コンセント大型機器用200V×1、UPC100V×1を含む ・電源容量100A ⑩ 電流監視装置、絶縁監視装置を設ける。 ⑪ 部屋照明の照度調整スイッチを設ける。 ⑫ 部屋照明の足元で操作できる電源スイッチを設ける。 ⑬ 内視鏡モニター等のモニター収納庫、蹴込収納庫を設ける。 ⑭ 画像モニター等のモニター収納棚を設ける。	
	機器	① 壁埋込型の高精細モニター、器材棚、保温庫、保冷库、情報パネル、オペタイマー等を設ける。 ② シーリングペンダント(医療機器搭載、電源・医療ガス供給)を設ける。 ③ アイソレーションユニットを設ける。 ④ 内視鏡用映像端子ユニットを設ける。(壁・2ヶ所) ⑤ 无影灯付天井吊り下げアームを設ける。 ⑥ 手術状況監視システム(部屋全体を映し出すカメラ)を設ける。 ⑦ 手術室医用画像システム(術野カメラ)を設ける。 ⑧ 麻酔器 ⑨ 生体情報モニター ⑩ 電動手術台、サージカルチェア、展開台車 ⑪ 手術用顕微鏡 ⑫ 硝子体手術装置、超音波白内障手術システム、ジアテルミー手術装置、冷凍手術装置 ⑬ アルゴンビームコアグレーター、グリーンレーザー光凝固装置	
(4)室環境	6	清潔管理を特に重視し、耐荷重性に優れた仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
オ-5	手術部門	手術室	心臓外科手術室
(1)使用目的	入院患者を対象とし主として心臓外科手術を行う。		
	関連する室名	前室、手術ホール、回収廊下	
(2)使用人数	平均在室者数	4人	最大在室者数 8人
(3)設計水準	運用	① 準備ホールおよび改修廊下に隣接して配置する。 ② 前室、大型器材室を付属し、近接して再生医療用準備室のスペースを確保する。	
	性能	① 内法寸法は8mx8m以上を想定 ② 自動扉の幅は2.0m以上確保し、開閉方法は2段階制御とする。 ③ 帯電防止効果があり、清浄度が保たれる仕上げ材料を使用する。 ④ メンテナンスしやすい(ワックスフリー床材等)を使用する。 ⑤ 放射線防護対応とする。 ⑥ 室内環境は清浄度クラスⅡ(清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ⑦ 各室の特性を考慮した温湿度設定が可能な空調設備とする。 ⑧ 医療ガスパネルを設ける。(壁・2ヶ所(医療ガス、余剰ガス、窒素ガス、炭酸ガス等)) ⑩ コンセントモジュールを設ける。(4系統4ヶ所) ⑪ ・コンセント大型機器用200V×1、UPC100V×2を含む ・電源容量140A ⑫ 電流監視装置、絶縁監視装置を設ける。 ⑬ 部屋照明の照度調整スイッチを設ける。 ⑭ 内視鏡モニター等のモニター収納庫、顕込収納庫を設ける。 ⑮ 画像モニター等のモニター収納棚を設ける。	
	機器	① 壁埋込型の高精細モニター、器材棚、保温庫、保冷库、情報パネル、オペタイマー等を設ける。 ② シーリングペンダント(医療機器搭載、電源・医療ガス供給)を設ける。 ③ アイソレーションユニットを設ける。 ④ 内視鏡用映像端子ユニットを設ける。(壁・2ヶ所) ⑤ モニター付天井吊り下げ式アームを設ける。 ⑥ カメラ付天井吊り下げ式アームを設ける。 ⑦ 无影灯付天井吊り下げアームを設ける。 ⑧ 手術状況監視システム(部屋全体を映し出すカメラ)を設ける。 ⑨ 手術室医用画像システム(術野カメラ)を設ける。 ⑩ 麻酔器 ⑪ 生体情報モニター ⑫ 電気メス、超音波凝固切開装置、高周波除細動器 ⑬ 電動手術台、サージカルチェア、展開台車 ⑭ 人工心肺装置システム、自己血回収装置、大動脈内バルーンポンプ、経皮的補助循環システム ⑮ 赤外線冠動脈画像システム	
(4)室環境	6	清潔管理を特に重視し、耐荷重性に優れた仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
オ-6	手術部門	手術室	アンギオ手術室
(1)使用目的	入院患者を対象とし主として心臓外科および脳外科の手術を行う。		
	関連する室名	前室、手術ホール、回収廊下	
(2)使用人数	平均在室者数	4人	最大在室者数 8人
(3)設計水準	運用	① 準備ホールおよび改修廊下に隣接して配置する。 ② 前室、器材室を付属する。	
	性能	① 内法寸法は8mx8m以上を想定 ② 自動扉の幅は2.0m以上確保し、開閉方法は2段階制御とする。 ③ 操作室を設け、手術室との間に放射線防護窓を設ける。間仕切等は放射線防護対応とする。 ④ 帯電防止効果があり、清浄度が保たれる仕上げ材料を使用する。 ⑤ メンテナンスしやすい(ワックスフリー床材等)を使用する。 ⑥ 室内環境は清浄度クラスⅡ(清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ⑦ 各室の特性を考慮した温湿度設定が可能な空調設備とする。 ⑧ 医療ガスパネルを設置する。(壁・2ヶ所(医療ガス、余剰ガス、窒素ガス、炭酸ガス等)) ⑨ コンセントモジュールを設ける。(4系統4ヶ所) ⑩ ・コンセント大型機器用200V×1、UPC100V×2を含む ・電源容量140A ⑪ 電流監視装置、絶縁監視装置を設ける。 ⑫ 部屋照明の照度調整スイッチを設ける。 ⑬ 内視鏡モニター等のモニター収納庫、顕込収納庫を設ける。 ⑭ 画像モニター等のモニター収納棚を設ける。 ⑮ 心臓血管造影装置の操作室・機械室を設ける。	
	機器	① 壁埋込型の高精細モニター、器材棚、保温庫、保冷库、情報パネル、オペタイマー等を設ける。 ② シーリングペンダント(医療機器搭載、電源・医療ガス供給)を設ける。 ③ アイソレーションユニットを設ける。 ④ 内視鏡用映像端子ユニットを設ける。(壁・2ヶ所) ⑤ モニター付天井吊り下げ式アームを設ける。 ⑥ カメラ付天井吊り下げ式アームを設ける。 ⑦ 无影灯付天井吊り下げアームを設ける。 ⑧ 手術状況監視システム(部屋全体を映し出すカメラ)を設ける。 ⑨ 麻酔器 ⑩ 生体情報モニター ⑪ 電動手術台、サージカルチェア、展開台車 ⑫ 心血管連続撮影装置、臨床検査ポリグラフシステム ⑬ 大動脈内バルーンポンプ ⑭ 外科用アブレーション装置	
(4)室環境	6	清潔管理を特に重視し、耐荷重性に優れた仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
オ-7	手術部門	手術室	整形外科手術室(BCR)
(1)使用目的	入院患者を対象とし、主として臓器移植・整形外科人工関節置換術などに使用する。		
	関連する室名	前室、手術ホール、回収廊下	
(2)使用人数	平均在室者数	4人	最大在室者数 8人
(3)設計水準	運用	① 準備ホールおよび改修廊下に隣接して配置する。 ② 前室、器材室を付属する。	
	性能	① 内法寸法は8mx8m以上を想定 ② 前室の扉はインターロック式とする。扉幅は1.6m以上を確保する。 ③ 帯電防止効果があり、清浄度が保たれる仕上げ材料を使用する。 ④ メンテナンスしやすい(ワックスフリー床材等)を使用する。 ⑤ 放射線防護対応とする。 ⑥ 室内環境は清浄度クラスI(高度清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ⑦ 各室の特性を考慮した温湿度設定が可能な空調設備とする。 ⑧ 医療ガスパネルを設置する。(壁・2ヶ所(医療ガス、余剰ガス、窒素ガス、炭酸ガス等)) ⑨ コンセントモジュールを設置する。(4系統4ヶ所) ⑩ ・コンセント大型機器用200V×1、UPC100V×1を含む ・電源容量120A ⑪ 電流監視装置、絶縁監視装置を設ける。 ⑫ 部屋照明の照度調整スイッチを設ける。 ⑬ 内視鏡モニター等のモニター収納庫、蹴込収納庫を設ける。 ⑭ 画像モニター等のモニター収納棚を設ける。 ⑮ 手術室空調の最適化のため、垂直層流、偏吸い込み方式手術室空調を設置する。	
	機器	① 壁埋込型の高精細モニター、器材棚、保温庫、保冷库、情報パネル、オペタイマー等を設ける。 ② シーリングペンダント(医療機器搭載、電源・医療ガス供給)を設ける。 ③ アイソレーションユニットを設ける。 ④ 内視鏡用映像端子ユニットを設ける。(壁・2ヶ所) ⑤ モニター付天井吊り下げ式アームを設ける。 ⑥ カメラ付天井吊り下げ式アームを設ける。 ⑦ 无影灯付天井吊り下げアームを設ける。 ⑧ 手術状況監視システム(部屋全体を映し出すカメラ)を設ける。 ⑨ 手術室医用画像システム(術野カメラ)を設ける。 ⑩ 麻酔器 ⑪ 生体情報モニター ⑫ 電動手術台、サージカルチェア、展開台車 ⑬ 電気メス、手術用電動式モルセレーターセット ⑭ メディカルフリーザー ⑮ 外科用X線装置、同種骨移植加温処理貯蔵システム ⑯ 手術用顕微鏡システム(形成・整形外科用)、関節鏡CCDビデオカメラセット	
(4)室環境	6	清潔管理を特に重視し、耐荷重性に優れた仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
オ-8	手術部門	手術室	脳外科手術室(BCR)
(1)使用目的	入院患者を対象とし、主として脳外科・心臓外科手術などに使用する。		
	関連する室名	前室、手術ホール、回収廊下	
(2)使用人数	平均在室者数	4人	最大在室者数 8人
(3)設計水準	運用	① 準備ホールおよび改修廊下に隣接して配置する。 ② 前室、器材室を付属する。	
	性能	① 内法寸法は8mx8m以上を想定 ② 自動扉の幅は1.6m以上確保し、開閉方法は2段階制御とする。 ③ 帯電防止効果があり、清浄度が保たれる仕上げ材料を使用する。 ④ メンテナンスしやすい(ワックスフリー床材等)を使用する。 ⑤ 放射線防護対応とする。 ⑥ 室内環境は清浄度クラスI(高度清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ⑦ 各室の特性を考慮した温湿度設定が可能な空調設備とする。 ⑧ 医療ガスパネルを設置する。(壁・2ヶ所(医療ガス、余剰ガス、窒素ガス、炭酸ガス等)) ⑨ コンセントモジュールを設ける。(4系統4ヶ所) ⑩ ・コンセント大型機器用200V×1、UPC100V×1を含む ・電源容量120A ⑪ 電流監視装置、絶縁監視装置を設ける。 ⑫ 部屋照明の照度調整スイッチを設ける。 ⑬ 内視鏡モニター等のモニター収納庫、蹴込収納庫を設ける。 ⑭ 画像モニター等のモニター収納棚を設ける。 ⑮ 手術室空調の最適化のため、偏吸い込み方式手術室空調を設置する。	
	機器	① 壁埋込型の高精細モニター、器材棚、保温庫、保冷库、情報パネル、オペタイマー等を設ける。 ② シーリングペンダント(医療機器搭載、電源・医療ガス供給)を設ける。 ③ アイソレーションユニットを設ける。 ④ 内視鏡用映像端子ユニットを設ける。(壁・2ヶ所) ⑤ モニター付天井吊り下げ式アームを設ける。 ⑥ カメラ付天井吊り下げ式アームを設ける。 ⑦ 无影灯付天井吊り下げアームを設ける。 ⑧ 手術状況監視システム(部屋全体を映し出すカメラ)を設ける。 ⑨ 手術室医用画像システム(術野カメラ)を設ける。 ⑩ 麻酔器 ⑪ 生体情報モニター ⑫ 電動手術台、頭部固定器セット、サージカルチェア、展開台車、メディカルフリーザー ⑬ 電気メス、サージカルドリルシステム ⑭ 手術用顕微鏡、脳内視鏡システム、ニューロナビゲーションシステム ⑮ 超音波手術器、ハイポラ凝固止血器、無侵襲脳内酸素飽和度監視装置	
(4)室環境	6	清潔管理を特に重視し、耐荷重性に優れた仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
オ-9	手術部門	手術室	外来・局麻用(テイザー・ジャリー)手術室
(1)使用目的	外来患者を対象とした日帰り手術や、短期入院患者の手術を行う。		
	関連する室名	手術ホール、回収廊下	
(2)使用人数	平均在室者数	4人	最大在室者数 8人
(3)設計水準	運用	① 外来患者にわかりやすく、手術部スタッフの作業効率に配慮した配置とする。 ② 準備ホールおよび改修廊下に隣接して配置する。 ③ 外来・局麻用手術室として3室設置する。 ④ 1室はレーザーメス対応。主に耳鼻咽喉科、頭頸部外科、形成外科、顎顔面外科、皮膚科が使用する。	
	性能	① 内法寸法は6mx6m以上を想定 ② 自動扉の幅は1.6m以上確保し、開閉方法は2段階制御とする。 ③ 帯電防止効果があり、清浄度が保たれる仕上げ材料を使用する。 ④ メンテナンスしやすい(ワックスフリー床材等)を使用する。 ⑤ 3室のうち1室は放射線防護対応とする。 ⑥ 室内環境は清浄度クラスⅡ(清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ⑦ 各室の特性を考慮した温湿度設定が可能な空調設備とする。 ⑧ 医療ガスパネルを設置する。(壁・2ヶ所(医療ガス、余剰ガス、窒素ガス、炭酸ガス等)) ⑨ コンセントモジュールを設置する。(4系統4ヶ所) ⑩ ・コンセント大型機器用200V×1、UPC100V×1を含む ・電源容量100A ⑪ 電流監視装置、絶縁監視装置を設ける。 ⑫ 部屋照明の照度調整スイッチを設ける。 ⑬ 内視鏡モニター等のモニター収納庫、蹴込収納庫を設ける。 ⑭ 画像モニター等のモニター収納棚を設ける。	
	機器	① 壁埋込型の高精細モニター、器材棚、保温庫、保冷庫、情報パネル、オペタイマー等を設ける。 ② アイソレーションユニットを設ける。 ③ 内視鏡設備を設ける。 ④ 内視鏡用映像端子ユニットを設ける。(壁・2ヶ所) ⑤ 无影灯付天井吊り下げアームを設ける。 ⑥ 手術状況監視システム(部屋全体を映し出すカメラ)を設ける。 ⑦ 麻酔器 ⑧ 生体情報モニター ⑨ 電気メス ⑩ 電動手術台、サージカルチェア、展開台車	
(4)室環境	6	清潔管理を特に重視し、耐荷重性に優れた仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
オ-10	手術部門	共用部	手術ホール
(1)使用目的	患者搬送、スタッフ移動に利用するとともに、手術前診療材料の準備供給に使用する。		
	関連する室名	スタッフステーション	
(2)使用人数	平均在室者数		最大在室者数
(3)設計水準	運用	① 前室ホール、全手術室に面して配置する。	
	性能	① 手洗い設備を設置した状態で有効幅員4.0mを確保する。 ② 帯電防止効果があり、清浄度が保たれる仕上げ材料を使用する。 ③ メンテナンスしやすい(ワックスフリー床材等)を使用する。 ④ 室内環境は清浄度クラスⅢ(準清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ⑤ 各手術室入口に術者用の手洗いコーナーおよび準備スペースを設ける。 ⑥ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器		
(4)室環境	6	清潔管理を特に重視し、耐荷重性に優れた仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
オ-11	手術部門	共用部	リカバリー室
(1)使用目的	麻酔導入、術後覚醒、病棟搬送までの待機等に使用する。		
	関連する室名	手術ホール、スタッフステーション	
(2)使用人数	平均在室者数	10人	最大在室者数 15人
(3)設計水準	運用	① スタッフステーションに近接して配置し、観察しやすい構造とする。 ② リカバリーベッドを10床確保する。 ③ 点滴確保、モニター装着、硬膜外心カテ挿入などを行う。	
	性能	① メンテナンスしやすい(ワックスフリー床材等)を使用する。 ② 室内環境は清浄度クラスⅣ(一般清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ③ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダリング設備、医療コンセント等を設ける。 ④ コンビネーションカメラ(部屋全体を映し出すカメラ)を設置する。	
	機器		
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
オ-12	手術部門	共用部	回収廊下(想定)
(1)使用目的	各手術室から搬出する手術後の使用済み器材や廃棄物などを回収し、中央材料滅菌部洗浄室へ連絡する。		
	関連する室名	手術室、洗浄室(中央材料部)	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 2人
(3)設計水準	運用	① 中央手術部、デイスージェリーの全手術室に隣接して配置する。 ② 他動線と交錯することなく、中央材料部洗浄室と直結し不潔物品の搬送が行える構造とする。 ③ 中央材料滅菌室を別階に設ける場合には専用エレベーターを配置する。	
	性能	① 設備補修や管理用通路としても利用するため幅員2.5~3.0mを確保する。 ② 回収廊下専用清掃用具庫およびスロップシンクを設ける。	
	機器		
(4)室環境	5	バックヤードとして相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
オ-13	手術部門	管理部	手術部受付・事務室
(1)使用目的	手術の受付事務、入退出管理等を行う。		
	関連する室名	手術ホール、リカバリー室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 6人
(3)設計水準	運用	① 中央手術部全体の出入口付近に配置し、準備ホールに面して設ける。	
	性能	① 中央手術部全体の出入口に面する部分にカウンターを設ける。 ② 搬送設備ステーションを設ける。	
	機器		
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
オ-14	手術部門	管理部	スタッフステーション
(1)使用目的	手術の記録管理、手術室やリカバリー室のモニター監視を行う。		
	関連する室名	手術ホール、リカバリー室	
(2)使用人数	平均在室者数	5人	最大在室者数 15人
(3)設計水準	運用	① 中央手術部全体の出入口付近に配置し、受付及び画像集積室に近接して設ける。 ② リカバリー室の観察しやすい位置に設ける。	
	性能	① 中央手術部全体の出入口に面する部分にカウンターを設ける。 ② 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① リカバリー室や手術室の監視モニターを設ける。 ② 手術情報配信システム	
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
オ-15	手術部門	デイスージェリー部門	リカバリー・待合室
(1)使用目的	麻酔導入、術後覚醒、回復室として使用する。		
	関連する室名	手術ホール、スタッフステーション	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 6人
(3)設計水準	運用	① スタッフステーションに近接して配置し、観察しやすい構造とする。 ② リカバリーベッドを3床以上確保する。	
	性能	① 準備ホールに面する扉は引戸とし、ベッドの出入が容易な幅を確保する。 ② 室内環境は清浄度クラスIV(一般清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ③ メンテナンスしやすい(ワックスフリー床材等)を使用する。 ④ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑤ コンビネーションカメラ(部屋全体を映し出すカメラ)を設置する。	
	機器		
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
カ-1	ICU部門	ICU(病室)	ICU個室
(1)使用目的	術後患者や病棟急変患者を24時間体制で集中治療管理を行い、清潔で安全な療養環境をもつ入院居室として使用する。		
	関連する室名	スタッフステーション	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① スタッフステーションに隣接して配置する。 ② 【特定集中治療室管理料(15㎡以上/床)】	
	性能	① 出入口扉は医療機器を付属したベッドの出入りが容易な幅(2.0m以上)を確保する。 ② 間口3.6m、内法面積25㎡を確保する。 ③ スタッフステーションから観察しやすく、プライバシーを要する場合にも対応できる構造とする。 (間仕切壁にブラインド内蔵タイプや瞬間調光ガラス等の利用) ④ 窓(患者が窓外の景色を見ることができること) ⑤ 室内環境は清浄度クラスⅢ(準清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ⑥ 医療用設備(医ガス、ナースコール、各種スイッチ、電源等)を設ける。 医療ガス配管:酸素6、空気3、吸引4、余剰ガス排気設備 電気設備:無停電(2系統) 1床毎にアイソレート 電源容量50A以上/床(モニター機器含まず、3Pで30個以上/床、取付高は床上90cm) ⑦ 全般照明は直接光源が見えない点に配慮し、夜間の歩行に支障がないよう足元灯を設ける。 ⑧ 照明装置(調光式)、読書灯(調光式)を設ける。 ⑨ 透析用の給排水配管を設ける。 ⑩ 壁面収納(奥行き50cm程度、高さ80cm)。収納棚は仕切り調整ができること。 ⑪ 監視カメラを設ける。	
	機器	① シーリングペンダントを設ける。 ・メインヘッド(生体情報モニター搭載) ・インフュージョンヘッド(シリンジポンプ、輸液ポンプ、輸液ボトル搭載) ・医療ガス、電源、情報端子取り出し口あり ② ICUベッド(デジタルスケール付) ③ 重症患者生体情報モニタリングシステム ④ ウォールケアユニット(透析用給排水ユニット付)	
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
カ-2	ICU部門	ICU(病室)	ICU個室(前室付)
(1)使用目的	術後患者や病棟急変患者を24時間体制で集中治療管理を行い、清潔で安全な療養環境をもつ入院居室として使用する。		
	関連する室名	スタッフステーション	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① スタッフステーションに隣接して配置する。 ② 【特定集中治療室管理料(15㎡以上/床)】	
	性能	① 出入口扉は医療機器を付属したベッドの出入りが容易な幅(2.0m以上)を確保する。 ② 間口3.6m、内法面積25㎡を確保する。 ③ スタッフステーションから観察しやすく、プライバシーを要する場合にも対応できる構造とする。 (間仕切壁にブラインド内蔵タイプや瞬間調光ガラス等の利用) ④ 窓(患者が窓外の景色を見ることができること) ⑤ 室内環境は清浄度クラスⅢ(準清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ⑥ 医療用設備(医ガス、ナースコール、各種スイッチ、電源等)を設ける。 医療ガス配管:酸素6、空気3、吸引4、余剰ガス排気設備 電気設備:無停電(2系統) 1床毎にアイソレート 電源容量50A以上/床(モニター機器含まず、3Pで30個以上/床、取付高は床上90cm) ⑦ 全般照明は直接光源が見えない点に配慮し、夜間の歩行に支障がないよう足元灯を設ける。 ⑧ 照明装置(調光式)、読書灯(調光式)を設ける。 ⑨ 透析用の給排水配管を設ける。 ⑩ 前室、個室双方に壁面収納(奥行き50cm程度、高さ80cm)。収納棚は仕切り調整ができること。 ⑪ 感染症患者に対応するため前室(8㎡程度)を設け、空調設備は陽陰圧可変とする。 ⑫ 監視カメラを設ける。	
	機器	※「カ-1」に掲げる項目に準じる。	
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
カ-3	ICU部門	ICU(病室)	ICU準個室
(1)使用目的	術後患者や病棟急変患者を24時間体制で集中治療管理を行い、清潔で安全な療養環境をもつ入院居室として使用する。		
(2)使用人数	関連する室名	スタッフステーション	
	平均在室者数	1人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① スタッフステーションに隣接して配置する。 ② 【特定集中治療室管理料(15㎡以上/床)】	
	性能	① 出入口扉は医療機器を付属したベッドの出入りが容易な幅(2.0m以上)を確保する。 ② 間口3.6m、内法面積25㎡を確保する。 ③ 2床を1セットとし出入口は引戸、部屋の間は頭部袖壁間仕切(固定)+可動式パーテーションにより容易に個室化できる構造とする。 ④ 室内環境は清浄度クラスⅢ(準清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ⑤ 医療用設備(医ガス、ナースコール、各種スイッチ、電源等)を設ける。 医療ガス配管:酸素6、空気3、吸引4、余剰ガス排気設備 電気設備:無停電(2系統) 1床毎にアインレート 電源容量50A以上/床(モニター機器含まず、3Pで30個以上/床、取付高は床上90cm) ⑦ 全般照明は直接光源が見えない点に配慮し、夜間の歩行に支障がないよう足元灯を設ける。 ⑧ 照明装置(調光式)、読書灯(調光式)を設置する。 ⑨ 壁面収納(奥行50cm程度、高さ80cm)。収納棚は仕切り調整ができること。	
	機器	※「カ-1」に掲げる項目に準じる。	
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
カ-4	ICU部門	ICU(共用部)	スタッフステーション
(1)使用目的	ICU病棟における各種業務の拠点として医療スタッフが使用する。		
(2)使用人数	関連する室名	ICU病室	
	平均在室者数	24人	最大在室者数 30人
(3)設計水準	運用	① ICU病室を観察しやすい位置に設ける。	
	性能	① 作業カウンターおよび監視モニター(カメラ監視、ICUモニターカウンター)を設ける。 ② 室内環境は清浄度クラスⅢ(準清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ③ ステーション内に必要な搬送設備ステーションを設ける。 ④ 来室者がICU病棟入口にてスタッフステーションと連絡が可能なインターホン設備を設ける。 ⑤ 医療情報システムなどを使用するため必要な電源等の設備を十分に設ける。 ⑥ 患者情報パネル(スタッフコール連動)はスタッフが使いやすく、個人情報保護に配慮した計画とする。	
	機器	① 重症患者生体情報モニタリングシステム ② 患者監視カメラシステム ③ 薬用保冷库 ④ 製氷機 ⑤ 心電計(解析機能付)	
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
カ-5	ICU部門	救命救急センターICU(病室)	個室(シールドルーム)
(1)使用目的	救急重症患者を24時間体制で集中治療管理を行い、清潔で安全な療養環境をもつ入院居室として使用する。		
(2)使用人数	関連する室名	スタッフステーション	
	平均在室者数	1人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① ICU、手術部と同一フロアに設ける。救命HCUに隣接させる。 ② スタッフステーションに隣接して配置する。 ③ 【救命救急入院料2】	
	性能	① 出入口扉は医療機器を付属したベッドの出入りが容易な幅(2.0m以上)を確保する。 ② 間口3.6m、内法面積25㎡を程度確保する。 ③ スタッフステーションから観察しやすく、プライバシーを要する場合にも対応できる構造とする。 (間仕切壁にブラインド内蔵タイプや瞬間調光ガラス等の利用) ④ 窓(患者が窓外の景色を見ることができること) ⑤ 室内環境は清浄度クラスⅢ(準清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ⑥ 脳死判定用のシールドを行う。 ⑦ 医療用設備(医ガス、ナースコール、各種スイッチ、電源等)を設ける。 医療ガス配管:酸素6、空気3、吸引4、余剰ガス排気設備 電気設備:無停電(2系統) 1床毎にアインレート 電源容量50A以上/床(モニター機器含まず、3Pで30個以上/床、取付高は床上90cm) ⑧ 全般照明は直接光源が見えない点に配慮し、夜間の歩行に支障がないよう足元灯を設ける。 ⑨ 照明装置(調光式)、読書灯(調光式)を設置する。 ⑩ 透析用の給排水配管を設ける。 ⑪ 壁面収納(奥行50cm程度、高さ80cm)。収納棚は仕切り調整ができること。	
	機器	※「カ-1」に掲げる項目に準じる。	
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
カ-6	ICU部門	救命救急センターICU(病室)	個室(前室付)－無菌室
(1)使用目的	救命重症患者を24時間体制で集中治療管理を行い、清潔で安全な療養環境をもつ入院居室として使用する。(放射線被爆患者も収容する)		
(2)使用人数	関連する室名	スタッフステーション	
	平均在室者数	1人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① ICU、手術部と同一フロアに設ける。救命HCUに隣接させる。 ② スタッフステーションに隣接して配置する。 ③ 無菌室とし前室(8㎡程度)を設ける。 ④ 病室出入口側にユニットシャワー・トイレを設置する。 ⑤ 【救命救急入院料2】	
	性能	① 室内環境は清浄度クラス I (高度清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ② ユニットシャワー・トイレは段差のない構造とする。 ※標記以外の項目は「カ-2」に掲げる設計水準の各項目に準じる。ただし、⑤は除く。	
	機器	① トイレ(薬液洗浄便座)を設ける。 ※標記以外の項目は「カ-1」に掲げる項目に準じる。	
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
カ-7	ICU部門	救命救急センターICU(病室)	個室(前室付)－感染症
(1)使用目的	救命重症患者を24時間体制で集中治療管理を行い、清潔で安全な療養環境をもつ入院居室として使用する。		
(2)使用人数	関連する室名	スタッフステーション	
	平均在室者数	1人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① ICU、手術部と同一フロアに設ける。救命HCUに隣接させる。 ② スタッフステーションに隣接して配置する。 ③ 【救命救急入院料2】	
	性能	※「カ-2」に掲げる設計水準の各項目に準じる。	
	機器	※「カ-1」に掲げる項目に準じる。	
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
カ-8	ICU部門	救命救急センターICU(病室)	準個室
(1)使用目的	術後患者や病棟急変患者を24時間体制で集中治療管理を行い、清潔で安全な療養環境をもつ入院居室として使用する。		
(2)使用人数	関連する室名	スタッフステーション	
	平均在室者数	1人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① スタッフステーションに隣接して配置する。 ② 【救命救急入院料2】	
	性能	※「カ-3」に掲げる設計水準の各項目に準じる。	
	機器	※「カ-1」に掲げる項目に準じる。	
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
カ-9	ICU部門	救命救急センターICU(共用部)	スタッフステーション
(1)使用目的	ICU病棟における各種業務の拠点として医療スタッフが使用する。		
(2)使用人数	関連する室名	救命 ICU病室	
	平均在室者数	12人	最大在室者数 30人
(3)設計水準	運用	① 救命 ICU病室に隣接して設ける。	
	性能	※「カ-4」に掲げる設計水準の各項目に準じる。	
	機器	※「カ-4」に掲げる設計水準の各項目に準じる。	
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
カ-10	ICU部門	救命救急センターHCU(病室)	HCU(個室)
(1)使用目的	救急重症患者を24時間体制で集中治療管理を行い、清潔で安全な療養環境をもつ入院居室として使用する。		
(2)使用人数	関連する室名	スタッフステーション	
	平均在室者数	1人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① 救命ICUとの動線に配慮されていること(上下階でも可) ② スタッフステーションに隣接して配置する。 ③ 【救命救急入院料1】	
	性能	① 出入口扉は医療機器を付属したベッドの出入りが容易な幅(1.8m以上)を確保する。 ② スタッフステーションから観察しやすく、プライバシーを要する場合にも対応できる構造とする。 (間仕切壁にブラインド内蔵タイプや瞬間調光ガラス等の利用) ③ 室内環境は清浄度クラスIV(一般清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ④ 医療用設備(医ガス、ナースコール、各種スイッチ、電源等)を設ける。 ナースコール: 脊髄損傷患者等にも使用可能なセンサー(体動センサー等)機能付とする。 医療ガス配管: 酸素2、空気2、吸引2、余剰ガス排気設備 電気設備: 無停電(2系統) 1床毎にアイソレート 電源容量 A以上/床(モニター機器含まず、3Pで15個以上/床、取付高は床上90cm) ⑤ 全般照明は直接光源が見えない点に配慮し、夜間の歩行に支障がないよう足元灯を設ける。 ⑥ 照明装置(調光式)、読書灯(調光式)を設ける。 ⑦ 15床のうち5床は透析用の給排水配管を設ける。 ⑧ 15室のうち1室は感染症患者対応の前室(8㎡程度)を設け、空調設備は陽陰圧可変とする。 ⑨ 車椅子での利用可能なトイレを設ける。 ⑩ 壁面収納(奥行き50cm程度、高さ80cm)。収納棚は仕切り調整ができること。	
	機器	① シーリングペンダントを設ける。 ・インフュージョンヘッド(シリンジポンプ、輸液ポンプ、輸液ボトル搭載) ・医療ガス、電源、情報端子取り出し口あり ② 電動ベッド(サイドレール付) ③ 重症患者生体情報モニタリングシステム ④ ウォールケアユニット(15床のうち5床は透析用給排水ユニット付)	
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
カ-11	ICU部門	救命救急センターHCU(病室)	HCU(準個室)
(1)使用目的	救急重症患者を24時間体制で集中治療管理を行い、清潔で安全な療養環境をもつ入院居室として使用する。		
(2)使用人数	関連する室名	スタッフステーション	
	平均在室者数	6人	最大在室者数 12人
(3)設計水準	運用	① 6床設け、救命ICUとの動線に配慮されていること(上下階でも可) ② スタッフステーションに隣接して配置する。 ③ 【救命救急入院料1】	
	性能	① 出入口扉は医療機器を付属したベッドの出入りが容易な幅(1.8m以上)を確保する。 ② 頭部袖壁間仕切(固定)+可動式パーテーションにより容易にプライバシーに配慮できている個室的構造にできること ③ 室内環境は清浄度クラスIV(一般清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ④ 医療用設備(医ガス、ナースコール、各種スイッチ、電源等)を設ける。 ナースコール: 脊髄損傷患者等にも使用可能なセンサー(体動センサー等)機能付とする。 医療ガス配管: 酸素2、空気2、吸引2、余剰ガス排気設備 電気設備: 無停電(2系統) 1床毎にアイソレート 電源容量 A以上/床(モニター機器含まず、3Pで15個以上/床、取付高は床上90cm) ⑤ 全般照明は直接光源が見えない点に配慮し、夜間の歩行に支障がないよう足元灯を設ける。 ⑥ 照明装置(調光式)、読書灯(調光式)を設ける。 ⑦ 壁面収納(奥行き50cm程度、高さ80cm)。収納棚は仕切り調整ができること。	
	機器	① シーリングペンダントを設ける。 ・インフュージョンヘッド(シリンジポンプ、輸液ポンプ、輸液ボトル搭載) ・医療ガス、電源、情報端子取り出し口あり ② 電動ベッド(サイドレール付) ③ 重症患者生体情報モニタリングシステム ④ ウォールケアユニット(透析用給排水ユニットなし)	
(4)室環境	1	入院患者の療養環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
カ-12	ICU部門	救命救急センターHCU(共用部)	スタッフステーション
(1)使用目的	HCU病棟における各種業務の拠点として医療スタッフが使用する。		
(2)使用人数	関連する室名	HCU(準個室)	
	平均在室者数	12人	最大在室者数 30人
(3)設計水準	運用	① HCU病棟(準個室)に隣接して設ける。	
	性能	※「カ-4」に掲げる設計水準の各項目に準じる。	
	機器	※「カ-4」に掲げる設計水準の各項目に準じる。	
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
カ-13	ICU部門	ICU、救命ICU、救命HCU(共用部)	汚物処理室
(1)使用目的			
(2)使用人数	関連する室名		
	平均在室者数		最大在室者数
(3)設計水準	運用		
	性能	① 出入口は引戸とし、台車等の出入りが容易な幅を確保する。 ② 臭気が病棟内に拡散しない換気設備とする。	
	機器	① 流し台、汚物流し、消毒槽等を設ける。 ② 個人逆浸透水処理装置 ③ 全自動汚物容器洗浄消毒装置 ④ 採尿蓄量比重測定装置 ⑤ チューブ乾燥機	
(4)室環境	5	バックヤードとして相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
カ-14	ICU部門	ICU、救命ICU、救命HCU(共用部)	スタッフ休憩室
(1)使用目的			
(2)使用人数	関連する室名		
	平均在室者数		最大在室者数
(3)設計水準	運用	① パソコンコーナーを設ける。 ② 更衣コーナーを設ける。	
	性能	① 洗面所(2箇所以上)を設ける。	
	機器	① 洗面所(2箇所以上)、流し台、冷蔵庫、テレビ等を設ける。 ② 鍵付ロッカー	
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-1	検査部門	検体検査部	検体分析検査室
(1)使用目的	検体分析検査(一般・生化学・血液)・緊急検査の受付及び実施		
	関連する室名	当直室・鏡検室・簡易暗室・輸血検査作業室 I	
(2)使用人数	平均在室者数	11人	最大在室者数 13人
(3)設計水準	運用	① 病棟・外来部門からの検体搬送口を設ける。 ② 中央採血室・採尿室・救急外来からの搬送口を間近に設ける。 ③ 輸血検査作業室 I に隣接した配置とする。	
	性能	① 検査機器のレイアウト変更に対応可能な構造とする。 ② 検査機器設置場所に、給水と感染性排水の双方の設備を設ける。 ③ 停電時にも不可欠な非常用電源を設ける。 ④ 機器の発熱を考慮し、個別調節可能な空調設備を設ける。 ⑤ 必要に応じた配電盤を設ける。 ⑥ 必要に応じ医療ガス設備、オーダリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 流し台を設ける。 ② 実験台、フラット式測定台 ③ 自動免疫測定装置(200V電源) ④ 卓上遠心機、卓上冷却遠心機、ラボ用高速遠心機 ⑤ 血液ガス分析装置 ⑥ 生化学自動分析装置 ⑦ 全自動赤血球沈降速度測定装置 ⑧ システム生物顕微鏡、マルチディスク顕微鏡 ⑨ 多機能自動血小板凝集能測定装置 ⑩ 全自動細胞解析装置 ⑪ 分光光度計 ⑫ 血液学検査システム ⑬ 自動浸透圧測定装置 ⑭ 卓上型自動分析装置(RO装置付き) ⑮ 全自動血液凝固測定装置 ⑯ 全自動グルコース・グリコヘモグロビン測定装置 ⑰ 尿自動分析装置 ⑱ 尿自動搬送分析システム ⑲ 薬品保管戸棚、ステンレス薬品庫、薬用冷蔵ショーケース、超低温フリーザー ⑳ 劇毒物保管庫	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-2	検査部門	検体検査部	外注検査受付
(1)使用目的	外注検査の受付、処理		
	関連する室名	検体検査分析室	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① 検体受付に隣接して配置する。 ② 検体搬送口に近くに設ける。 ③ 必要に応じ医療ガス設備、オーダリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	性能		
	機器	① 実験台	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-3	検査部門	検体検査部	薬物分析室
(1)使用目的	毒物・劇物の検査を実施する。		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 検査機器のレイアウト変更に対応可能な構造とする。	
	性能	① 検査機器設置場所に、給水と感染性排水の双方の設備を設ける。 ② 停電時にも不可欠な非常用電源を設ける。 ③ 独立した単独の換気設備を設ける。 ④ 必要に応じ医療ガス設備、オーダリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 薬物分析装置	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-4	検査部門	検体検査部	鏡検査
(1)使用目的	顕微鏡検査		
	関連する室名	検体検査分析室	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① 検体分析検査室に隣接して設ける。	
	性能	① 必要に応じ医療ガス設備、オーダリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① システム生物顕微鏡、システム偏光顕微鏡	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-5	検査部門	検体検査部	簡易暗室
(1)使用目的	偏光顕微鏡検査用		
	関連する室名	検体検査分析室	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 検体分析検査室に隣接して設ける。	
	性能	① 暗幕で区切り、暗室への対応できる構造とする。 ② 照明は照度可変式とする。	
	機器	① 偏光顕微鏡	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-6	検査部門	検体検査部	サーバー室
(1)使用目的	検査部門のサーバーを管理する。		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数		最大在室者数
(3)設計水準	運用		
	性能	① 埃がたちにくい内装材とする。 ② 個別調節可能な空調設備、換気設備を設ける。 ③ 停電時にも不可欠な非常用電源を設ける。	
	機器	① サーバー	
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-7	検査部門	検体検査部	検査技師当直室
(1)使用目的	当直者の休憩室・控え室		
	関連する室名	検体検査分析室・シャワー室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① 検体分析検査室に隣接する。	
	性能	① 仮眠がとれる環境づくりに配慮する。 ② 検体提出場所にインターホンを設置する。	
	機器		
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-8	検査部門	微生物検査室	結核検査室
(1)使用目的	抗酸菌遺伝子検査		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① PCR検査室に隣接して配置とする。 ② P2レベル以上の構造とする。	
	性能	① 検査機器のレイアウト変更に対応可能な構造とする。 ② 室内環境は清浄度クラスV(汚染管理区域)とし、室内圧は陰圧とする。(HEAS02-2004) ③ 安全キャビネット用に電源(200V)、排気ダクトを設ける。 ④ 必要に応じて排気処理および排水処理を行なう。 ⑤ 個別調節可能な空調設備を設ける。	
	機器	① 流し台を設ける。 ② 実験台、安全キャビネット	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-9	検査部門	微生物検査室	核酸検査室(PCR検査室)
(1)使用目的	微生物関連の遺伝子検査		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 2人
(3)設計水準	運用	① 抗酸菌検査・遺伝子室に隣接して配置する。 ② 検査機器のレイアウト変更に対応可能な構造とする。 ③ P2レベル以上の構造とする。	
	性能	① 室内環境は清浄度クラスV(汚染管理区域)とし、室内圧は陰圧とする。(HEAS02-2004) ② 必要に応じて排気処理および排水処理を行なう。 ③ 個別調節可能な空調設備を設ける。	
	機器	① 流し台を設ける。 ② 電気泳動撮影装置 ③ 卓上高速冷却遠心器 ④ 薬用冷凍冷蔵庫	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-10	検査部門	微生物検査室	遺伝子室
(1)使用目的	遺伝子検査		
	関連する室名	細菌検査室	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① PCR室に隣接して設置する。 ② 検査機器のレイアウト変更に対応可能な構造とする。 ③ P2レベル以上の構造とする。	
	性能	① 室内環境は清浄度クラスV(汚染管理区域)とし、室内圧は陰圧とする。(HEAS02-2004) ② クリーンベンチ用に電源(200V)、排気ダクトを設ける。 ③ 必要に応じて排気処理および排水処理を行なう。 ④ 個別調節可能な空調設備を設ける。 ⑤ 必要に応じ医療ガス設備、オーダリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 流し台を設ける。 ② 実験台 ③ クリーンベンチ ④ サーマルサイクラー、マイクロ冷却遠心器、ゲル撮影装置・電気泳動装置	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-11	検査部門	微生物検査室	感染症検査室
(1)使用目的	SARS・鳥インフルエンザやバイオテロ関連の検査を実施		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 1人
(3)設計水準	運用	① 細菌検査室に隣接して配置する。 ② 検査機器のレイアウト変更に対応可能な構造とする。 ③ 外来との連携(搬送等)に配慮し、専用の受付窓口を設ける。 ④ P2レベル以上の構造とする。	
	性能	① 室内環境は清浄度クラスV(汚染管理区域)とし、室内圧は陰圧とする。(HEAS02-2004) ② バイオハザード対応キャビネット用に電源(200V)、排気ダクトを設ける。 ③ 必要に応じて排気処理および排水処理を行なう。 ④ 個別調節可能な空調設備を設ける。	
	機器	① 流し台を設ける。 ② バイオハザード対応キャビネットを設ける。	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-12	検査部門	微生物検査室	細菌検査室
(1)使用目的	細菌・真菌検査、迅速感染症検査の実施		
	関連する室名	細菌検査室	
(2)使用人数	平均在室者数	4人	最大在室者数 6人
(3)設計水準	運用	① 病棟・外来との連携(搬送等)に配慮する。 ② 検査機器のレイアウト変更に対応可能な構造とする。 ③ P2レベル以上の構造とする。	
	性能	① 室内環境は清浄度クラスV(汚染管理区域)とし、室内圧は陰圧とする。(HEAS02-2004) ② 染色液等の汚染除去が容易な仕上げ材料とする。 ③ バイオハザード対応キャビネット用に電源(200V)、排気ダクトを設ける。 ④ 必要に応じて排気処理および排水処理を行なう。 ⑤ 個別調節可能な空調設備を設ける。 ⑥ 必要に応じ医療ガス設備、オーダリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 流し台を設ける。 ② バイオハザード対応キャビネットを設ける。 ③ 実験台、中央実験台(耐熱性) ④ フラット式測定台 ⑤ 薬用冷凍冷蔵庫 ⑥ 薬品保管戸棚 ⑦ 感染症総合診断支援システム ⑧ インキュベーター、低温インキュベーター、CO2インキュベーター	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-13	検査部門	微生物検査室	滅菌洗浄室
(1)使用目的	培地の作成、汚染物・使用済み器具の滅菌・洗浄		
	関連する室名	細菌検査室	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 細菌検査室に隣接して配置する。	
	性能	① オートクレープ用に電源(200V)、排気ダクトを設ける。 ② 非常用電源を設ける。 ③ 個別調節可能な空調設備を設ける。	
	機器	① 流し台を設ける。 ② 高圧蒸気滅菌器 ③ 乾熱滅菌器	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-14	検査部門	微生物検査室	標本室
(1)使用目的	染色標本の保管・管理		
	関連する室名	細菌検査室	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 鏡検室に隣接して配置する。	
	性能	① 個別調節可能な空調設備を設ける。	
	機器	① 標本ラック	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-15	検査部門	微生物検査室	菌株保存室
(1)使用目的	菌株の保存		
	関連する室名	細菌検査室	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 2人
(3)設計水準	運用	① 鏡検室に隣接して配置する。 ② 厳重な施錠管理ができること。	
	性能	① ディーフリーザー用に電源(200V)を設ける。 ② 個別調節可能な空調設備を設ける。	
	機器	① 超低温フリーザー(-80℃)	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-16	検査部門	微生物検査室	鏡検査
(1)使用目的	標本の鏡検		
	関連する室名	細菌検査室	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① 細菌検査室に隣接して配置する。	
	性能	① 一部暗室とする。(蛍光顕微鏡用) ② 個別調節可能な空調設備を設ける。 ③ 必要に応じ医療ガス設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 蛍光顕微鏡 ② システム生物顕微鏡 ③ フラット式測定台	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-17	検査部門	生理機能検査部門	心電図室
(1)使用目的	外来患者・入院患者の安静心電図検査、マスター心電図検査・ホルター心電図検査、24時間血圧計検査などを行う。		
	関連する室名	動脈硬化検査	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 待合スペースに面して配置する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 更衣のためプライバシーを確保した間仕切り壁とする。(パーテーションとカーテン) ③ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① ホルター自動連続血圧計 ② 心電計(解析機能付) ③ 総合生理検査システム	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-18	検査部門	生理機能検査部門	動脈硬化検査室
(1)使用目的	四肢の血圧を同時に測定し、ABI(足関節上腕血圧比)、PWV(脈波伝播速度)を算出する。		
	関連する室名	心電図室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 待合スペースに面して配置する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 更衣のためプライバシーを確保した間仕切り壁とする。(パーテーションとカーテン) ③ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 血圧脈波検査装置	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-19	検査部門	生理機能検査部門	呼吸機能検査室
(1)使用目的	外来患者・入院患者の呼吸機能検査を行う。		
	関連する室名	肺機能検査室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 肺機能検査室に隣接して配置する。	
	性能	① 扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② プライバシーを確保した間仕切り壁とする。(パーテーションで可) ③ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 総合肺機能検査システム	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-20	検査部門	生理機能検査部門	肺機能検査室
(1)使用目的	外来患者・入院患者の呼吸機能検査を行う。		
	関連する室名	呼吸機能検査室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 呼吸機能検査室に隣接して配置する。	
	性能	① 扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② プライバシーを確保した間仕切り壁とする。(パーテーションで可) ③ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ④ 手洗い設備(口内洗浄、ホースやマウスピース洗浄用)を設ける。	
	機器	① アストグラフ	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-21	検査部門	生理機能検査部門	トレッドミル運動負荷装置室
(1)使用目的	外来患者・入院患者のトレッドミル(ベルトコンベア状の運動器具)を使用した負荷心電図検査を行う。		
	関連する室名	エコ-室	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① エコ-室に隣接してして配置する。	
	性能	① 扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② プライバシーを確保した間仕切り壁とする。(パーテーションで可) ③ 患者の更衣スペースを必要とする。 ④ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑤ 個別調節可能な空調設備を設ける。 ⑥ 手洗い設備を設ける。	
	機器	① 運動負荷心電図(呼気ガス分析装置付) ② 除細動器	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-22	検査部門	生理機能検査部門	心肺運動負荷試験室
(1)使用目的	心肺運動負荷試験(CPX)運動時のさまざまなデータ(酸素摂取量・血圧・心拍数など)を得るための検査を行う。		
	関連する室名	トレッドミル運動負荷装置室	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① トレッドミル検査室に隣接して配置する。	
	性能	① 扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② プライバシーを確保した間仕切り壁とする。(パーテーションで可) ③ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ④ 個別調節可能な空調設備を設ける。 ⑤ 手洗い設備を設ける。	
	機器	① 除細動器 ② 心肺運動機能測定装置	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-23	検査部門	生理機能検査部門	解析室
(1)使用目的	ホルター解析・PSG解析・検査結果レポートの作成などをおこなう。		
	関連する室名	脳波検査室・筋電図室	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 7人
(3)設計水準	運用	① 技師の入口は技師作業通路に面して配置する。	
	性能	① 患者データのプライバシーを確保した間仕切り壁とする。(パーテーションで可) ② 必要に応じオーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 長時間心電図解析システム	
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-24	検査部門	生理機能検査部門	筋電図室
(1)使用目的	外来患者・入院患者の筋電図検査や神経伝導速度検査・聴覚検査を行う。		
	関連する室名	脳波検査室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 技師の入口は技師作業通路に面し、患者入口は待合スペース(通路)に面して配置する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 防音・電波シールド仕様とし、かつバリアフリー対応とする。 (参考値: 防音性能35db減衰程度、シールド性能50db減衰程度) ③ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ④ 個別調節可能な空調設備を設ける。 ⑤ 照明は調光可能なものとする。	
	機器	① 誘発電位・筋電図検査装置 ② 校正脈波計	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-25	検査部門	生理機能検査部門	脳波検査室
(1)使用目的	外来患者・入院患者の脳波などの測定検査を行う。		
	関連する室名	脳波操作室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 技師の入口は技師作業通路に面し、患者入口は待合スペース(通路)に面して配置する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 防音・電波シールド仕様とし、かつバリアフリー対応とする。 (参考値: 防音性能35db減衰程度、シールド性能50db減衰程度) ③ 操作室側に観察窓を設ける。 ④ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑤ 個別調節可能な空調設備を設ける。 ⑥ 照明は調光可能なものとする。	
	機器	① デジタル脳波計	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-26	検査部門	生理機能検査部門	脳波操作室
(1)使用目的	外来患者・入院患者の脳波などの測定検査を行う。		
	関連する室名	脳波検査室	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 2人
(3)設計水準	運用	① 技師の入口は技師作業通路に面して配置する。 ② 脳波検査室に隣接して設置する ③ 洗髪コーナーが観察できる位置に設置する。	
	性能	① 脳波検査室側に観察窓を設ける。 ② 使用済みの電極を洗浄する流し台を設ける。	
	機器		
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-27	検査部門	生理機能検査部門	洗髪コーナー
(1)使用目的	脳波検査を受けた患者の洗髪を行う。		
	関連する室名	脳波検査室	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 2人
(3)設計水準	運用	① 脳波検査室に隣接して設置する	
	性能	① 脳波操作室から洗髪している患者が観察できる位置に設置する。(半透明パーテーション仕切り) ② 洗髪洗面台を設ける。	
	機器		
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-28	検査部門	生理機能検査部門	エコー室(心臓エコー・小児心臓エコー・腹部エコー)
(1)使用目的	外来患者・入院患者の超音波検査を行う。		
	関連する室名	診察室・所見説明室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 技師・患者の入口は技師作業通路に面して配置する。	
	性能	① 車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 更衣のためプライバシーを確保した間仕切り壁とする。(パーテーションとカーテン) ③ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ④ 各エコー室の照明は調光可能なものとする。	
	機器	① 超音波診断装置	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-29	検査部門	生理機能検査部門	処置エコー室
(1)使用目的	外来患者・入院患者の超音波検査を行う。		
	関連する室名	診察室・所見説明室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 通路に面して配置する。 ② 通路側とエコー室内の両方に出入り口を必要とする。	
	性能	① 扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② プライバシーを確保した間仕切り壁とする。(パーテーションで可) ③ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ④ 各エコー室の照明は調光可能なものとする。 ⑤ 個別調節可能な空調設備を設ける。 ⑥ 手洗い設備、流し台(グローブ等の洗浄)を設ける。 ⑦ 非常電源を必要とする。(無停電)	
	機器	① 超音波診断装置	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-30	検査部門	生理機能検査部門	ポータブルエコー室
(1)使用目的	外来患者・入院患者のポータブル超音波装置を置く。		
	関連する室名	エコー室	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数
(3)設計水準	運用	① 職員・患者出入り口に隣接し通路に面して配置する。	
	性能	① 超音波装置の出入りが容易な幅を確保する。 ② 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 携帯型超音波診断装置	
(4)室環境	5	バックヤードとして相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-31	検査部門	生理機能検査部門	所見説明室
(1)使用目的	エコー検査を受けた患者へ所見説明をする。		
	関連する室名	エコー室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 技師・患者の入口は技師作業通路に面して配置する。	
	性能	① 室内の会話がもれない防音性能とプライバシーを確保した間仕切り壁とする。	
	機器		
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-32	検査部門	生理機能検査部門	診察室
(1)使用目的	エコー検査を受けた患者の診察をおこなう。		
	関連する室名	エコー室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 技師・患者の入口は技師作業通路に面して配置する。	
	性能	① 室内の会話がもれない防音性能とプライバシーを確保した間仕切り壁とする。 ② 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器		
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-33	検査部門	生理機能検査部門	血糖測定指導室
(1)使用目的	SMBGの患者への指導をしたり、機器の精度管理・メンテナンスを行う。		
	関連する室名	待合室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 技師の入口は技師作業通路に面し、患者入口は待合スペース(通路)に面して配置する。	
	性能	① 個別調節可能な空調設備を設ける。 ② 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器		
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-34	検査部門	輸血部	自己血採血室
(1)使用目的	自己血採取、リンパ球採取、造血幹細胞採取、白血球除去療法を行う。		
	関連する室名	輸血検査作業室Ⅰ・Ⅱ・血液照射室・移植支援室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① 外来患者、入院患者にわかりやすい配置とする。	
	性能	① 廊下に面する扉は引戸とし、ベッドや車椅子の出入が容易な幅を確保する。 ② 採血台の廻りにキュービクルカーテンを設ける。 ③ 患者の長時間滞在を考慮し、アメニティに配慮した内装仕上げとする。 ④ 流し台(患者用)を設ける。 ⑤ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 採血用ベッド(1台) ② 診察台 ③ 電動リクライニングチェア ④ 採血装置ヘモクイック	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-35	検査部門	輸血部	血液照射室
(1)使用目的	血液製剤への放射線照射を行う。		
	関連する室名	輸血検査作業室Ⅰ・Ⅱ・自己血採血室・移植支援室	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 2人
(3)設計水準	運用		
	性能	① 照射用器械用に電源(200V)を設ける。	
	機器	① X線照射装置(機器内シールド対応)	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-36	検査部門	輸血部	移植支援室
(1)使用目的	移植関連検査等を行う。移植用検体等の保存、管理を行う。		
	関連する室名	輸血検査作業室Ⅰ・Ⅱ・自己血採血室・血液照射室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① 検査機器のレイアウト変更に対応可能な構造とする。 ② 施錠可能な設備とする。(移植用製剤があるため)	
	性能	① 機器発熱を考慮し、室内の温熱環境に配慮する。 ② 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 実験台 ② クリーンベンチ ③ 超低温フリーザー ④ プログラムフリーザー ⑤ 生物試料保存用液体窒素容器、生物試料搬送容器	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-37	検査部門	輸血部	輸血検査作業室Ⅰ
(1)使用目的	血液製剤(アルブミン製剤他)保管および管理を行う。		
	関連する室名	検査室・輸血検査作業室Ⅰ・Ⅱ・自己血採血室・血液照射室・移植支援室	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① 施錠可能な設備とする。(移植用製剤があるため) ② 廊下側に製剤の受け渡場所を、確保する。 ③ 検査機器のレイアウト変更に対応可能な構造とする。 ④ 手術室との連携(搬送、通信等)に配慮する。	
	性能	① 機器発熱を考慮し、室内の温熱環境に配慮する。	
	機器	① 流し台、滅菌手洗装置を設ける。 ② 実験台 ③ 薬品保管戸棚 ④ 血液保冷库、薬用保冷库 ⑤ バイオメディカルフリーザー ⑥ 血小板保存用振盪機	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-38	検査部門	輸血部	輸血検査作業室Ⅱ
(1)使用目的	輸血検査等、HLA(白血球型検査)、フローサイトメトリー検査等を行う。		
	関連する室名	輸血検査作業室Ⅰ・Ⅱ・自己血採血室・血液照射室	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① 検査機器のレイアウト変更に対応可能な構造とする。	
	性能	① 機器発熱を考慮し、室内の温熱環境に配慮する。	
	機器	① 流し台を設ける。 ② 実験台 ③ 全自動輸血検査装置 ④ 卓上遠心機、自動血球洗浄遠心機、免疫血液学用遠心機 ⑤ 輸血管理システム	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-39	検査部門	その他の諸室	洗浄室
(1)使用目的	検査器具の洗浄		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① 独立した部屋を設ける。	
	性能	① 洗浄音等が外部に漏れない作りとする。 ② 十分な換気設備を設ける。	
	機器	① ラボラトリーウォッシャー、ラボラトリーウォッシャー用純水製造装置 ② クリーン器具乾燥器、ガラス器具洗浄用全自動洗浄機	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-40	検査部門	病理検査部門	診断室
(1)使用目的	組織標本・細胞診標本・迅速標本の検鏡		
	関連する室名	病理業務室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 検査機器のレイアウト変更に対応可能な構造とする。	
	性能	① 3人分、パーティションで区切る。 ② 臭気対策のため十分な換気を行い、温熱環境に配慮する。 ③ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① システム生物顕微鏡 ② 顕微鏡写真撮影装置	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-41	検査部門	病理検査部門	遠隔診断室
(1)使用目的	通信設備を通じて検体組織の画像や顕微鏡の映像を送受信し、遠隔地の病理診断を行う。		
	関連する室名	病理業務室	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 検査機器のレイアウト変更に対応可能な構造とする。	
	性能	① 調光可能な照明設備とする。 ② 必要に応じオーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ③ 遠隔診断に必要な通信インフラ設備を設ける。	
	機器	① バーチャルスライドシステム ② 顕微鏡画像伝送システム	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-42	検査部門	病理検査部門	病理資料室
(1)使用目的	病理部内の資料保管、討議スペースとして利用する。		
	関連する室名	病理組織標本室	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① 病理組織標本室に隣接して設ける。	
	性能	① 内部備品のレイアウト変更に対応可能な構造とする。	
	機器		
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-43	検査部門	病理検査部門	暗室
(1)使用目的	写真の印画紙焼付け等に使用する。		
	関連する室名	病理業務室	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 2人
(3)設計水準	運用		
	性能	① 検査機器のレイアウト変更に対応可能な構造とする。	
	機器		
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-44	検査部門	病理検査部門	病理組織標本室
(1)使用目的	固定化した標本等を保管する。		
	関連する室名	病理業務室・病理資料室	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 病理資料室・病理業務室に隣接して設置。	
	性能	① 標本収納スペースが拡張可能な構造とする。 ② 臭気対策のため十分な換気を行い、温熱環境に配慮する。	
	機器		
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-45	検査部門	病理検査部門	蛍光顕微鏡室
(1)使用目的	遺伝子検出、腎生検、皮膚生検組織の蛍光観察を行う。		
	関連する室名	病理業務室	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用		
	性能	① 検査機器のレイアウト変更に対応可能な構造とする。 ② 臭気対策のため十分な換気を行い、温熱環境に配慮する。 ③ 調光可能な照明設備とし、暗室への対応できる構造とする。	
	機器	① 落射蛍光顕微鏡システム	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-46	検査部門	病理検査部門	病理業務室
(1)使用目的	検体の処理および切出しを行う。		
	関連する室名	診断室	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用		
	性能	① 検査機器のレイアウト変更に対応可能な構造とする。 ② 室内環境は清浄度クラスV(汚染管理区域)とし、室内圧は陰圧とする。(HEAS02-2004) ③ 臭気対策のため全排気とし外気量2回/h、風量12回/hとする。(HEAS02-2004) ④ ホルマリン、キシレン等臭気対策のため天井面吹出し、排気口は床面近くに設置する。 ⑤ 作業台には専用の排気設備を設ける。 ⑥ 感染性排水の処理設備を設ける。 ⑦ ラボラトリーウォッシュヤー用の電源(3相200V)を設ける。	
	機器	① 流し台、臓器切り出し台を設ける。 ② バイオハザード対策用キャビネットを設ける。 ③ 実験台、測定台、フラット式測定台 ④ ステンレス薬品庫、薬品保管戸棚 ⑤ 密閉式自動固定包埋装置 ⑥ パラフィン溶融器、パラフィン伸展器、パラフィン包埋ブロック作製装置 ⑦ 滑走式マイクローム ⑧ 自動染色装置、自動免疫染色装置 ⑨ システム生物顕微鏡 ⑩ 卓上遠心機 ⑪ ラボラトリーウォッシュヤー、ラボラトリーウォッシュヤー用純水製造装置 ⑫ 薬用冷凍冷蔵庫、超低温フリーザー ⑬ 自動ガラス封入装置、凍結組織切片作製装置、SL写真撮影装置、クリーン器具乾燥器	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-47	検査部門	病理検査部門	細胞診検査室
(1)使用目的	検鏡および診断を行う。		
	関連する室名	病理業務室	
(2)使用人数	平均在室者数	5人	最大在室者数 10人
(3)設計水準	運用	① 病理業務室に隣接して配置する。	
	性能	① 検査機器のレイアウト変更に対応可能な構造とする。 ② 臭気対策のため十分な換気を行い、温熱環境に配慮する。	
	機器		
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-48	検査部門	剖検霊安部門	霊安室
(1)使用目的	遺体の安置・遺族の待合室		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数		最大在室者数 10人
(3)設計水準	運用		
	性能	① 臭気対策のため十分な換気を行い、温熱環境に配慮する。	
	機器		
(4)室環境	2	外来患者・面会者等の病院利用者の環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-49	検査部門	剖検霊安部門	遺体処理室
(1)使用目的	解剖を行った遺体の処置を行う。		
	関連する室名	解剖室	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① 解剖室に隣接して配置する。	
	性能	① 入口はタッチパネル式の自動ドアを設ける。 ② 臭気対策のため十分な換気を行い、温熱環境に配慮する。	
	機器		
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-50	検査部門	剖検霊安部門	解剖室
(1)使用目的	遺体の解剖診断を行う。		
	関連する室名	解剖準備室、更衣室・シャワー	
(2)使用人数	平均在室者数	5人	最大在室者数 10人
(3)設計水準	運用	① 解剖準備室、更衣室・シャワーに隣接して配置する。	
	性能	① 床洗浄が容易で、かつ滑りにくい仕上材料を使用する。 ② 床の排水勾配、排水ピットや枡を設ける。 ③ 扉や間仕切壁の気密性に配慮する。 ④ 室内環境は清浄度クラスV(汚染管理区域)とし、汚染排気処理装置を設ける。(HEAS02-2004) ⑤ 入口はタッチ式の自動ドアを設ける。 ⑥ 感染性排水の処理設備を設ける。 ⑦ ホルマリン等の臭気対策、解剖台の空気感染対策を行う。 ⑧ 陰圧設定可能な空調とする。 ⑨ 2次感染防止のため天井面の給気吹き出し口から給気し、排気口は床面近くに設置する。 ⑩ 2次感染防止のため天井に殺菌灯を設置する。 ⑪ 解剖用无影灯用の電源(3相200V)を設ける。	
	機器	① 電動解剖鋸 ② 臓器標本保管用真空包装機 ③ 解剖用无影灯 ④ バイオハザード対策用解剖台 ⑤ 殺菌灯付解剖器械戸棚、臓器標本撮影装置 ⑥ 臓器切り出し台	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-51	検査部門	剖検霊安部門	遺体冷温保存室
(1)使用目的	解剖前後の遺体を保管する。		
	関連する室名	解剖準備室、遺体処理室	
(2)使用人数	平均在室者数		最大在室者数 2人
(3)設計水準	運用	① 解剖準備室、遺体処理室に隣接して配置する。	
	性能	① 機器発熱を考慮し、室内の温熱環境に配慮する。 ② 電源(3相200V)を設ける。	
	機器	① 遺体保存冷蔵庫	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-52	検査部門	剖検霊安部門	臓器保存室
(1)使用目的	解剖臓器および検体を保管する。		
	関連する室名	解剖準備室、解剖室	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 2人
(3)設計水準	運用	① 解剖準備室、解剖室に隣接する。	
	性能	① 床洗浄が容易で、かつ滑りにくい仕上材料を使用する。 ② 保管資料の荷重に配慮する。 ③ 臭気対策のため十分な換気を行い、温熱環境に配慮する	
	機器	① 臓器保存棚	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-53	検査部門	剖検霊安部門	試薬室・倉庫
(1)使用目的	試薬・廃液などの保管、標本等の保管。		
	関連する室名	解剖室	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 2人
(3)設計水準	運用	① 解剖室に隣接する。	
	性能	① 床洗浄が容易で、かつ滑りにくい仕上材料を使用する。 ② 保管資料の荷重に配慮する。 ③ 臭気対策のため十分な換気を行い、温熱環境に配慮する	
	機器		
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
キ-54	検査部門	剖検霊安部門	解剖準備室
(1)使用目的	解剖診断前後の準備を行う。		
	関連する室名	解剖室、更衣室・シャワー	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 2人
(3)設計水準	運用	① 解剖室、更衣室・シャワーに隣接する。	
	性能	① 床洗浄が容易で、かつ滑りにくい仕上材料を使用する。	
	機器		
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ク-1	放射線部門	画像診断部	一般撮影室(第1、第2、第3、立位専用、救急)
(1)使用目的	胸部、腹部、骨部の放射線撮影を行う。		
	関連する室名	全操作室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 6人
(3)設計水準	運用	① 待合側に更衣室を隣接して配置する。 ② 操作ホールに隣接して配置する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 内装、出入口扉、操作室に面する窓について放射線防護(鉛当量2mm)を行う。 ③ 放射線機器の機器荷重や天井走行レール有無等を考慮する。 ④ 操作室間に配線および配管ピットを設ける。 ⑤ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑥ 照明は照度可変式とする。 ⑦ 個別調節可能な空調設備を設ける。 ⑧ 壁面に収納棚を設ける。	
	機器	① 診断用X線一般撮影装置 ② CR画像読取装置	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ク-2	放射線部門	画像診断部	頭部精密撮影室
(1)使用目的	顎関節、聴器などの複雑な骨の拡大撮影、下顎骨角部、軸位の撮影、頭部のステレオ撮影などを行う。		
	関連する室名	全操作室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 操作ホールに隣接して配置する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 内装、出入口扉、操作室に面する窓について放射線防護(鉛当量2mm)を行う。 ③ 放射線機器の機器荷重や天井走行レール有無等を考慮する。 ④ 操作室間に配線および配管ピットを設ける。 ⑤ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑥ 照明は照度可変式とする。 ⑦ 個別調節可能な空調設備を設ける。 ⑧ 壁面に収納棚を設ける。	
	機器	① 頭部精密撮影装置	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ク-3	放射線部門	画像診断部	乳房X線撮影室(マンモグラフィ)
(1)使用目的	乳房専用撮影装置を使用し、撮影を行う。		
	関連する室名	全操作室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① 患者のプライバシーに配慮した待合を隣接して配置する。 ② 待合側に更衣室を隣接して配置する。 ③ 操作ホールに隣接して配置する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 内装、出入口扉、操作室に面する窓について放射線防護(鉛当量2mm)を行う。 ③ 放射線機器の機器荷重や天井走行レール有無等を考慮する。 ④ 操作室間に配線および配管ピットを設ける。 ⑤ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑥ 照明は照度可変式とする。 ⑦ 個別調節可能な空調設備を設ける。 ⑧ 壁面に収納棚を設ける。	
	機器	① 乳房X線撮影装置 ② CR画像読取装置	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名	
ク-4	放射線部門	画像診断部	歯科用X線パノラマ撮影室	
(1)使用目的	専用撮影装置を使用し、歯科領域の特殊断層撮影を行う。			
	関連する室名	全操作室		
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数	3人
(3)設計水準	運用	① 操作ホールに隣接して配置する。		
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 内装、出入口扉、操作室に面する窓について放射線防護(鉛当量2mm)を行う。 ③ 放射線機器の機器荷重や天井走行レール有無等を考慮する。 ④ 操作室間に配線および配管ピットを設ける。 ⑤ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑥ 照明は照度可変式とする。 ⑦ 個別調節可能な空調設備を設ける。 ⑧ 壁面に収納棚を設ける。		
	機器	① 歯科用X線パノラマ撮影装置 ② CR画像読取装置		
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ		

諸室No.	部門名	機能名	室名	
ク-5	放射線部門	画像診断部	X線TV室	
(1)使用目的	上部消化管透視(食道、胃)、大腸透視およびその他の造影検査を行う。			
	関連する室名	TV更衣・処置室、全操作室		
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数	7人
(3)設計水準	運用	① 待合側に更衣室を隣接して配置する。 ② 操作ホールに隣接して配置する。		
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 内装、出入口扉、操作室に面する窓について放射線防護(鉛当量2mm)を行う。 ③ 放射線機器の機器荷重や天井走行レール有無等を考慮する。 ④ 操作室間に配線および配管ピットを設ける。 ⑤ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑥ 照明は照度可変式とする。 ⑦ 個別調節可能な空調設備を設ける。 ⑧ 壁面に収納棚を設ける。 ⑨ 流し台を設ける。 ⑩ トイレ、汚物処理槽を設ける。		
	機器	① デジタルX線TV撮影装置		
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ		

諸室No.	部門名	機能名	室名	
ク-6	放射線部門	画像診断部	CT室(第1、第2)	
(1)使用目的	CT断層撮影を行う。			
	関連する室名	更衣室、全操作室、CT前室・処置室		
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数	7人
(3)設計水準	運用	① 待合側に更衣室を隣接して配置する。 ② 操作ホールに隣接して配置する。 ③ 処置室を近接して配置する。		
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 内装、出入口扉、操作室に面する窓について放射線防護(鉛当量2mm)を行う。 ③ 放射線機器の機器荷重や天井走行レール有無等を考慮する。 ④ 操作室間に配線および配管ピットを設ける。 ⑤ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑥ 照明は照度可変式とする。 ⑦ 個別調節可能な空調設備を設ける。 ⑧ 壁面に収納棚を設ける。		
	機器	① 全身用X線CT診断装置		
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ		

諸室No.	部門名	機能名	室名
ク-7	放射線部門	画像診断部	MRI室(第1、第2、第3)
(1)使用目的	磁気共鳴診断画像の撮影を行う。		
	関連する室名	MRI前室・リカバリー室、MRI全操作室、MRI機械室	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 7人
(3)設計水準	運用	① 待合側に更衣前室を隣接して配置する。 ② 操作ホールに隣接して配置する。 ③ 処置室を近接して配置する。 ④ 更衣室における患者の貴重品保管などのセキュリティに配慮する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 内装、出入口扉、操作室に面する窓について1室は3.0テスラ以上、2室は1.5テスラ以上の磁気シールドを行う。 ③ 放射線機器の機器荷重や天井走行レール有無等を考慮する。 ④ 操作室間に配線および配管ピットを設ける。 ⑤ 更新時MRI装置の搬入出できるルートを確保し、荷重条件を考慮する。 ⑥ 外部からの影響を受けるため道路から7.5メートル以上離す。 ⑦ 大口径配水管、高圧電気配管ルートを近くに設けないこと。 ⑧ 医療ガスを設ける。 ⑨ 照明は照度可変式とする。 ⑩ 個別調節可能な空調設備を設ける。	
	機器	① 磁気共鳴断層撮影装置(MRI)	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ク-8	放射線部門	画像診断部	MRI前室・リカバリー室
(1)使用目的	MRI検査前の準備及び血管確保を行う。		
	関連する室名	MRI全操作室	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 6人
(3)設計水準	運用	① 待合側に更衣前室を隣接して配置する。 ② 操作ホールに隣接して配置する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ③ 照明は照度可変式とする。 ④ 個別調節可能な空調設備を設ける。 ⑤ 流し台を設ける。 (※ CT、MRなど画像診断部門共通の流し台として同部内の適切な場所に設置する。)	
	機器	① 金属探知器	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ク-9	放射線部門	画像診断部	X線骨密度測定室
(1)使用目的	身体の骨塩量(骨の強度、ミネラル)をX線を利用して測定する。		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 待合側に更衣前室を隣接して配置する。 ② 操作ホールに隣接して配置する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 内装、出入口扉、操作室に面する窓について放射線防護(鉛当量2mm)を行う。 ③ 放射線機器の機器荷重や天井走行レール有無等を考慮する。 ④ 操作室間に配線および配管ピットを設ける。 ⑤ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑥ 照明は照度可変式とする。 ⑦ 個別調節可能な空調設備を設ける。 ⑧ 壁面に収納棚を設ける。	
	機器	① X線骨密度測定装置	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ク-10	放射線部門	画像診断部	頭・腹部血管連続撮影室
(1)使用目的	血管造影撮影装置を使用して、頭、腹部、四肢の撮影および治療を行う。		
	関連する室名	操作ホール	
(2)使用人数	平均在室者数	4人	最大在室者数 8人
(3)設計水準	運用	① 待合側に更衣前室を隣接して配置する。 ② 操作ホールに隣接して配置する。 ③ 術後止血ルームを近接して配置する。 ④ 血管撮影用の準備、器材保管スペースを近接して配置する。 ⑤ スタッフ更衣室を近接して配置する。 ⑥ 手洗い場、汚物処理場、トイレを近接して配置する。 ⑦ 放射線防護着を収納するコーナーを設ける（現在30枚程度）	
	性能	① 待合に面する扉は引戸（1.6m程度）とし、車椅子やベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 内装、出入口扉、操作室に面する窓について放射線防護（鉛当量2mm）を行う。 ③ 放射線機器の機器荷重や天井走行レール有無等を考慮する。 ④ 操作室間に配線および配管ピットを設ける。 ⑤ 室内環境は清浄度クラスⅢ（準清潔区域）とする。（HEAS02-2004） ⑥ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑦ 照明は照度可変式とする。 ⑧ 個別調節可能な空調設備を設ける。 ⑨ 壁面に収納棚を設ける。 ⑩ 麻酔器、補助循環ポンプの利用等、電気容量と系統に配慮する。 ⑪ 動静脈判別のため白色蛍光灯で、調光可能な照明設備とする。 ⑫ 前室に手洗い設備を設ける。 ⑬ EP カルトシステム（心内心電図）稼動のためのノイズの少ない電源環境の確保する。	
	機器	① 頭・腹部血管連続撮影室 ② 麻酔器 ③ 造影剤自動注入装置 ④ 血管内超音波診断装置 ⑤ 大動脈内バルーンポンプ ⑥ 除細動器 ⑦ 无影灯（スタンド式） ⑧ X線防護衝立	
(4)室環境	6	耐荷重性に優れた仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ク-11	放射線部門	画像診断部	心血管連続撮影室（モノプレーン、バイプレーン）
(1)使用目的	血管造影撮影装置を使用して、心臓、大血管の撮影および治療を行う。		
	関連する室名	アンギオ全操作室	
(2)使用人数	平均在室者数	4人	最大在室者数 8人
(3)設計水準	運用	① 待合側に更衣前室を隣接して配置する。 ② 操作ホールに隣接して配置する。 ③ 術後止血ルームを近接して配置する。 ④ 血管撮影用の準備、器材保管スペースを近接して配置する。 ⑤ スタッフ更衣室を近接して配置する。 ⑥ 手洗い場、汚物処理場、トイレを近接して配置する。 ⑦ 放射線防護着を収納するコーナーを設ける。（現在各室10枚程度）	
	性能	① 待合に面する扉は引戸（1.6m程度）とし、車椅子やベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 内装、出入口扉、操作室に面する窓について放射線防護（鉛当量2mm）を行う。 ③ 放射線機器の機器荷重や天井走行レール有無等を考慮する。 ④ 操作室間に配線および配管ピットを設ける。 ⑤ 室内環境は清浄度クラスⅢ（準清潔区域）とし陽圧とする。（HEAS02-2004） ⑥ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑦ 照明は照度可変式とする。 ⑧ 個別調節可能な空調設備を設ける。 ⑨ 壁面に収納棚を設ける。 ⑩ 麻酔器、補助循環ポンプの利用等、電気容量と系統に配慮する。 ⑪ 動静脈判別のため白色蛍光灯で、調光可能な照明設備とする。 ⑫ 前室に手洗い設備を設ける。 ⑬ CARTOシステム（心内心電図）稼動のためのノイズの少ない電源環境を確保する。	
	機器	① 心血管連続撮影装置 ② 臨床用ポリグラフ検査装置 ③ 血管内超音波診断装置、超音波診断装置 ④ 大動脈内バルーンポンプ、経皮的循環補助システム ⑤ 麻酔器 ⑥ CARTOシステム ⑦ 除細動器 ⑧ カーディアックスティムレーター ⑨ 心電計（解析機能付）、心臓電気生理検査システム、循環動態測定モニター、デジタルオキシメータ ⑩ 造影剤自動注入装置 ⑪ 无影灯（スタンド式） ⑫ 高周波アブレーション装置、電気メス ⑬ 高速回転式ロータブレードシステム ⑭ X線防護衝立	
(4)室環境	6	耐荷重性に優れた仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ク-12	放射線部門	画像診断部	アンギオ全操作室
(1)使用目的	各放射線機器の撮影操作および撮影画像の読影、清潔機材の準備を行う。		
	関連する室名	血管連続撮影室	
(2)使用人数	平均在室者数	8人	最大在室者数 24人
(3)設計水準	運用	① 放射線諸室に隣接させ操作窓により確認ができる配置とする。 ② 重症患者家族説明用フロアを隣接して配置する。 ③ 各操作フロアを集合させ、心停止等の急変時、各フロア総力対応できる配置とする。 ④ 前室内各部屋はパーテーション仕切り構造とする。	
	性能	① 内装、出入口扉、操作室に面する窓について放射線防護(鉛当量2mm)を行う。 ② 撮影室が対面する場合の操作窓配置などプライバシーに配慮した計画とする。 ③ 放射線諸室間に配線および配管ピットを設ける。 ④ 将来の撮影装置の更新や配線の変更などに対応しやすい構造とする。 ⑤ 撮影室が対面する場合の操作窓配置などプライバシーに配慮した計画とする。 ⑥ 手洗いのまま入室できるように、撮影室側は引き戸構造とする。 ⑦ 室内環境は清浄度クラスⅢ(準清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ⑧ 画像端末40台程度に対応できる独立空調設備を配置する。 ⑨ 放射線防護着を収納するコーナーを設ける。(30枚程度)。	
	機器	① 血管連続撮影装置操作卓	
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ク-13	放射線部門	画像診断部	アンギオ機械室
(1)使用目的	放射線発生機、制御機、イサーネット通信機器等を設置する。		
	関連する室名	アンギオ全操作室、血管連続撮影室	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 放射線諸室に隣接させる配置とする。	
	性能	① アンギオ室・操作室間に配線および配管ピットを設ける。 ② 装置専用独立空調設備を配置する。(ドレイン管の設置) ③ キャビネット冷却騒音をできるだけ消音できる構造とする。 ④ 装置1台あたり、8本程度の制御キャビネット解体修理が可能なスペースを確保する。 ⑤ 将来の撮影装置の更新や配線の変更などに対応しやすい構造とする。 ⑥ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 血管連続撮影装置用コンピューター	
(4)室環境	5	バックヤードとして相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ク-14	放射線部門	画像診断部	更衣室
(1)使用目的	入室スタッフの清潔着の着替えを行う。		
	関連する室名	アンギオ全操作室	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① 放射線諸室に隣接させ、手洗いしやすい配置とする。	
	性能	① パーテーション仕切り構造とする。 ② 手洗い設備を設ける。	
	機器	① 24人分程度の着替え用ロッカーおよび清潔着棚を常置する。	
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ク-15	放射線部門	画像診断部	材料室
(1)使用目的	SPD材料、清潔資材、冷蔵資材等を保管する。		
	関連する室名	アンギオ全操作室	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 2人
(3)設計水準	運用	① 放射線諸室に隣接させ物品を出しやすい配置とする。	
	性能	① パーテーション仕切り構造とする。	
	機器	① 材料整理棚	
(4)室環境	5	バックヤードとして相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ク-16	放射線部門	画像診断部	止血室
(1)使用目的	術後患者の止血および回復を行う。		
	関連する室名	操作ホール	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① 操作室に隣接させ、術後急変時の対応が迅速に行える配置とする。	
	性能	① パーテーション仕切り構造とする。 ② 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ③ 止血、清拭する場合のプライバシーに配慮した計画とする。	
	機器	① 生体情報モニター	
(4)室環境	6	耐荷重性に優れた仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ク-17	放射線部門	核医学検査部	体外計測室(SPECT)
(1)使用目的	単光子放出断層撮像法による放射線を用いた診断を行う。		
	関連する室名	操作室	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 7人
(3)設計水準	運用	① 管理区域内で操作室に隣接して配置する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 使用する放射線同位元素に準じた放射線防護を行う。 ③ 汚染除去および清掃の容易な仕上材料の選定、納まりとする。 ④ 排気口及び排水口は、RI排気・排水設備に連結し、必要なモニター設備を備える。 ⑤ 汚染検査室に必要な備品を備える。 ⑥ 室内環境は清浄度クラスV(汚染管理区域)とする。(HEAS02-2004) ⑦ 手洗いを設ける。 ⑧ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① シンチレーションカメラ	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ク-18	放射線部門	核医学検査部	体外計測操作室
(1)使用目的	核医学診断装置の操作を行う。		
	関連する室名	体外計測室(SPECT)	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① 体外計測室(SPECT)に隣接させ操作窓により確認ができる配置とする。	
	性能	① 各撮影室に面する窓について使用する放射線同位元素に準じた放射線防護を行う。 ② 汚染除去および清掃の容易な仕上材料の選定、納まりとする。 ③ 排気口及び排水口は、RI排気・排水設備に連結し、必要なモニター設備を備える ④ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① シンチレーションカメラ用操作卓	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ク-19	放射線部門	核医学診断部	放射線管理室
(1)使用目的	放射線管理区域、排気、排水設備の中央制御および関係事務作業を行う。		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① 放射線管理区域外に設置する。	
	性能	① 流し台を設ける。	
	機器	① 放射線管理区域モニターシステム	
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ク-20	放射線部門	核医学検査部	汚染検査室
(1)使用目的	RI検査後の汚染検査、汚染除去を行う。		
	関連する室名	シャワー室、脱衣室	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 2人
(3)設計水準	運用	① シャワー室、脱衣室に隣接して配置する。	
	性能	① 汚染除去および清掃の容易な仕上材料を使用する。 ② 排気口及び排水口は、RI排気・排水設備に連結し、必要なモニター設備を備える ③ 手洗い設備を設ける。 ④ 患者用の専用WCを設ける。	
	機器	① ハンドフットクロスモニター等の法定機器	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ク-21	放射線部門	核医学検査部	負荷検査室
(1)使用目的	RI検査前の診察を行う。		
	関連する室名	体外計測室(SPECT)	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① 体外計測室(SPECT)に近接して配置する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 汚染除去および清掃の容易な仕上材料の選定、納まりとする。 ④ 排気口及び排水口は、RI排気・排水設備に連結し、必要なモニター設備を備える ⑤ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① トレッドミル	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ク-22	放射線部門	核医学診断部	待合室
(1)使用目的	RI薬品を投与された患者が検査を開始できるまでの間待機する。		
	関連する室名	処置室、体外計測室(SPECT)	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 7人
(3)設計水準	運用	① 処置室および体外計測室(SPECT)に隣接して配置する。	
	性能	① 使用する放射線同位元素に準じた放射線防護を行う。 ② 汚染除去および清掃の容易な仕上材料を使用する。 ③ 排気口及び排水口は、RI排気・排水設備に連結し、必要なモニター設備を備える	
	機器		
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ク-23	放射線部門	核医学検査部	処置室
(1)使用目的	RI検査前の事前処置・投薬を行う。		
	関連する室名	待合室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① 待合室に隣接して配置する。	
	性能	① 使用する放射線同位元素に準じた放射線防護を行う。 ② 患者が安静にできるよう配慮する。 ③ 汚染除去および清掃の容易な仕上材料を使用する。 ④ 排気口及び排水口は、RI排気・排水設備に連結し、必要なモニター設備を備える ⑤ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器		
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ク-24	放射線部門	核医学検査部	準備室
(1)使用目的	RI検査患者への投薬準備を行う。		
	関連する室名	貯蔵室、廃棄物保管室、処置室	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 2人
(3)設計水準	運用	① RI貯蔵室、RI廃棄室、処置室に隣接して配置する。	
	性能	① 使用する放射線同位元素に準じた放射線防護を行う。 ② 汚染された空気ひろがりを防止する措置を講ずること。 ③ 汚染除去および清掃の容易な仕上材料を使用する。 ④ 排気口及び排水口は、RI排気・排水設備に連結し、必要なモニター設備を備える	
	機器	① オークリッジフード等の法定機器 ② エリアモニター	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ク-25	放射線部門	核医学検査部	貯蔵室
(1)使用目的	RI検査に使用する核種および標識製剤等の保管を行う。		
	関連する室名	準備室、廃棄物保管室	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 2人
(3)設計水準	運用	① 準備室および廃棄物保管室に隣接して配置する。	
	性能	① 使用する放射線同位元素に準じた放射線防護を行う。 ② 汚染除去および清掃の容易な仕上材料を使用する。 ③ 排気口及び排水口は、RI排気・排水設備に連結し、必要なモニター設備を備える	
	機器		
(4)室環境	5	バックヤードとして相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ク-26	放射線部門	核医学検査部	廃棄物保管室
(1)使用目的	使用済みの放射線同位元素の廃棄用に一定期間の保管を行う。		
	関連する室名	準備室、RI貯蔵室	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 2人
(3)設計水準	運用	① 準備室および廃棄物保管室に隣接して配置する。 ② 専門業者による材料の搬出の際、患者動線と交錯しないように配慮する。	
	性能	① 使用する放射線同位元素に準じた放射線防護を行う。 ② 汚染除去および清掃の容易な仕上材料を使用する。 ③ 排気口及び排水口は、RI排気・排水設備に連結し、必要なモニター設備を備える	
	機器		
(4)室環境	5	バックヤードとして相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ク-27	放射線部門	放射線治療部	リニアック室1、リニアック室2
(1)使用目的	直線形加速器による治療を行う。		
	関連する室名	治療操作室	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① 操作室に隣接して配置する。 ② 更衣コーナーを設ける。	
	性能	① ベッドや車椅子の出入が容易な厚幅やスペースを確保する。 ② 出入口扉は、遮蔽電動引戸とする。 ③ 機器仕様に基づいた放射線遮蔽を行う。 ④ 放射線機器および防護に必要な設置荷重を考慮する。 ⑤ 線量計のコード等を配置するためのピットを設ける。 ⑥ 放射線機器の機器荷重や天井走行レール有無等を考慮する。 ⑦ 患者アメニティに配慮する。 ⑧ 流し台を設ける。 ⑨ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑩ 照明は照度可変式とする。 ⑪ 個別調節可能な空調設備を設ける。 ⑫ 装置冷却水の給排水の配管を設ける。 ⑬ 滅菌灯を設ける。	
	機器	① リニアック	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ク-28	放射線部門	放射線治療部	シミュレーターCT室
(1)使用目的	放射線治療の位置決めを行う。		
	関連する室名	工作室	
(2)使用人数	平均在室者数	4人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① 操作室に隣接して配置する。 ② 更衣コーナーを設ける。 ③ 工作室に隣接させ出入り口を設ける。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 内装、出入口扉、操作室に面する窓について放射線防護(鉛当量2mm)を行う。 ③ 放射線機器の機器荷重や天井走行レール有無等を考慮する。 ④ 操作室間に配線および配管ピットを設ける。 ⑤ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑥ 照明は照度可変式とする。 ⑦ 個別調節可能な空調設備を設ける。 ⑧ 壁面に収納棚を設ける。	
	機器	① シミュレーター用位置決めCT装置	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ク-29	放射線部門	放射線治療部	治療計画室
(1)使用目的	放射線治療計画を行う。固定具の保管場所としても使用する。。		
	関連する室名	治療操作室	
(2)使用人数	平均在室者数	4人	最大在室者数 6人
(3)設計水準	運用	① 操作室に隣接させ出入り口を設ける。	
	性能	① 室間に配線および配管ピットを設ける。	
	機器	① 治療計画装置 ② 自動現像器	
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ク-30	放射線部門	放射線治療部	治療操作室 1
(1)使用目的	放射線治療装置の操作を行う。		
	関連する室名	リニアック室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① リニアック室に隣接させ出入り口を設ける。 ② 治療計画室に隣接させ出入り口を設ける。	
	性能	① 室間に配線および配管ピットを設ける。	
	機器	① リニアック操作卓	
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ク-31	放射線部門	放射線治療部	治療操作室 2
(1)使用目的	治療用シミュレーターの操作を行う。		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① シミュレーター室に隣接させ出入り口を設ける。	
	性能	① 室間に配線および配管ピットを設ける。	
	機器	① シミュレーター操作卓	
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ク-32	放射線部門	放射線治療部	工作室
(1)使用目的	放射線治療補助具の製作を行う。		
	関連する室名	治療用シミュレーター室	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① 治療用シミュレーター室に隣接して配置	
	性能	① 固定具製作のため流し台を設ける。(温水・冷水)	
	機器		
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ク-33	放射線部門	放射線治療部	診察室
(1)使用目的	放射線治療およびシミュレーション前の診察を行う。		
	関連する室名	待合室	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① 待合室に近接して配置する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 医療配管等の工事が必要 ④ 個別調節可能な空調設備を設ける。	
	機器		
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ケ-1	内視鏡部門	検査部門	上部消化管内視鏡室(1)
(1)使用目的	上部消化管内視鏡検査および内視鏡治療を行う。		
	関連する室名	待合、洗浄器材室	
(2)使用人数	平均在室者数	5人	最大在室者数 12人
(3)設計水準	運用	① 待合、洗浄機材室に隣接して配置する。 ② 超音波内視鏡、食道静脈瘤結紮術、治療内視鏡ができるようにする。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 患者利用エリア(受付・待合を含む)において、リラクゼーション用BGMを設ける。 ④ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① モニターアーム(天井吊り下げ用)を設ける。 ② 電子内視鏡システム ③ 超音波内視鏡ビデオシステム ④ 生体情報モニター ⑤ 電動油圧診察台(枕電動昇降機構付) ⑥ シャーカステン ⑦ 高周波焼灼電源装置	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ケ-2	内視鏡部門	検査部門	上部消化管内視鏡室(2)
(1)使用目的	上部消化管内視鏡検査および内視鏡治療を行う。		
	関連する室名	待合、洗浄器材室	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 6人
(3)設計水準	運用	① 待合、洗浄機材室に隣接して配置する。 ② 超音波内視鏡、食道静脈瘤結紮術、治療内視鏡ができるようにする。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 患者利用エリア(受付・待合を含む)において、リラクゼーション用BGMを設ける。 ④ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① モニターアーム(天井吊り下げ用)を設ける。 ② 電子内視鏡システム ③ 超音波内視鏡ビデオシステム ④ 生体情報モニター ⑤ 電動油圧診察台(枕電動昇降機構付) ⑥ シャーカステン ⑦ 高周波焼灼電源装置	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ケ-3	内視鏡部門	検査部門	下部消化管内視鏡室
(1)使用目的	下部消化管内視鏡検査および内視鏡治療を行う。		
	関連する室名	待合、洗浄器材室	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 6人
(3)設計水準	運用	① 待合、洗浄機材室に隣接して配置する。 ② 大腸内視鏡、超音波内視鏡、治療内視鏡などが共用で使用できるようにする。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 臭気対策のための換気を十分に確保し、感染対策に配慮する。 ④ 患者利用エリア(受付・待合を含む)において、リラクゼーション用BGMを設ける。 ⑤ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① モニターアーム(天井吊り下げ用)を設ける。 ② 電子内視鏡システム ③ 生体情報モニター ④ 電動油圧診察台(枕電動昇降機構付) ⑤ シャーカステン ⑥ 高周波焼灼電源装置	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ケ-4	内視鏡部門	検査部門	緊急処置用内視鏡室
(1)使用目的	主として救急患者等の緊急用の上部・下部内視鏡検査および内視鏡治療を行う。		
	関連する室名	待合、洗浄器材室	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 8人
(3)設計水準	運用	① 待合、洗浄機材室に隣接して配置する。 ② 3次救急及び病棟からのスムーズな入室に配慮する。 ③ 部消化管内視鏡、大腸内視鏡、気管支鏡、治療内視鏡などが共用で使用できるようにする	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話の外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 臭気対策のための換気を十分に確保し、感染対策に配慮する。 ④ 患者利用エリア(受付・待合を含む)において、リラクゼーション用BGMを設ける。 ⑤ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 電子内視鏡システム ② 電動油圧診察台(枕電動昇降機構付)	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ケ-5	内視鏡部門	検査部門	X線TV室
(1)使用目的	透視の必要な検査(ERCP、造影、TBLB)等		
	関連する室名	操作室	
(2)使用人数	平均在室者数	4人	最大在室者数 8人
(3)設計水準	運用	① 待合側に更衣室を隣接して配置する。 ② 操作ホールに隣接して配置する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 内装、出入口扉、操作室に面する窓について放射線防護(鉛当量2mm)を行う。 ③ 放射線機器の機器荷重や天井走行レール有無等を考慮する。 ④ 操作室間に配線および配管ビッドを設ける。 ⑤ 2室のうち1室は、陰圧調節可能な感染症対応(前室付き)とし、清浄度クラスV ⑥ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑦ 照明は照度可変式とする。 ⑧ 個別調節可能な空調設備を設ける。 ⑨ 流し台を設ける。 ⑩ 麻酔器などを設置できるスペースを確保。	
	機器	① モニターアーム(天井吊り下げ用)を設ける。 ② 電子内視鏡システム、超音波内視鏡システム ③ デジタルX線TV装置 ④ 生体情報モニター、シャーカステン、高周波焼灼電源装置 ⑤ アルゴンプラズマ凝固システム	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ケ-6	内視鏡部門	検査部門	患者用トイレ(1)
(1)使用目的	腸内洗浄(ムーベン内服)のPt及び他患者が利用		
	関連する室名	前処置室	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 2人
(3)設計水準	運用	① 前処置室に近接して配置する。	
	性能	① 出入口扉、手摺等車椅子等の利用しやすい構造とする。 ① 温熱便座、ウォシュレット、擬音装置を設ける。 ② ナースコールボタンを設ける。	
	機器		
(4)室環境	2	外来患者・面会者等の病院利用者の環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ケ-7	内視鏡部門	検査部門	患者用トイレ(2)
(1)使用目的	車椅子の患者が利用する。		
	関連する室名	前処置室	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 2人
(3)設計水準	運用	① 前処置室に近接して配置する。	
	性能	① 出入口扉、手摺等車椅子等の利用しやすい構造とする。 ② 温熱便座、ウォシュレット、擬音装置を設ける。 ③ ナースコールボタンを設置する。	
	機器		
(4)室環境	2	外来患者・面会者等の病院利用者の環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ケ-8	内視鏡部門	検査部門	患者用トイレ(3)
(1)使用目的	内視鏡検査、治療の待ち時間に使用。大腸内視鏡前処置薬服用後の排便に使用。検査のための洗腸後すぐに対応できるため、ストレッチャーにして処置するために使用。		
	関連する室名	待合、受付、上下部検査室、リカバリー、更衣室、説明室	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 2人
(3)設計水準	運用	① 待合室、前処置室に隣接し配置する。 ② ストレッチャーを備え、処置に使用できるようにする。	
	性能	① 出入口扉、手摺等車椅子等の利用しやすい構造とする。 ② 温熱便座、ウォシュレット、擬音装置を設ける。 ③ ナースコールボタンを設ける。	
	機器		
(4)室環境	2	外来患者・面会者等の病院利用者の環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ケ-9	内視鏡部門	その他	待合室
(1)使用目的	受付を済ませた患者の待つ場所、検査中の患者家族の待機場所。		
	関連する室名	受付	
(2)使用人数	平均在室者数	5人	最大在室者数 10人
(3)設計水準	運用	① 受付・前処置室に隣接し配置する。	
	性能	① 車椅子の待機できるスペースを設ける。 ② ストレッチャーでの待機スペースを設ける。 ③ 洗面所・鏡を設ける。 ④ 医療ガスを設ける。 ⑤ 検査説明用のTV、DVD設備を設ける。	
	機器		
(4)室環境	2	外来患者・面会者等の病院利用者の環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ケ-10	内視鏡部門	その他	リカバリー室
(1)使用目的	検査後、患者の回復のために使用する。		
	関連する室名	待合、操作室	
(2)使用人数	平均在室者数	6人	最大在室者数 8人
(3)設計水準	運用	① 準備室に隣接して観察しやすい構造とする。	
	性能	① ベッドや車椅子の出入りが容易なスペースを確保する。 ② 医療ガスを設置する。	
	機器	① リカバリーベッドを8台設置する。 ② リカバリーベッド(ハイローストレッチャー)	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ケ-11	内視鏡部門	その他	前処置室(上部)
(1)使用目的	上部内視鏡の前処置(咽頭麻酔や前投薬注射など)を行う。		
	関連する室名	待合、上部消化管内視鏡室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 待合に隣接して配置する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 洗面カウンターを設ける。 ④ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器		
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ケ-12	内視鏡部門	その他	前処置室(下部)
(1)使用目的	大腸検査をするために、腸管洗浄液を飲用する。		
	関連する室名	患者用トイレ、下部消化管内視鏡室、待合、更衣室	
(2)使用人数	平均在室者数	8人	最大在室者数 12人
(3)設計水準	運用	① 受付等スタッフから観察しやすい位置に設ける。 ② パーティション等により他のエリアと区分する。 ③ 廊下等を利用して軽歩行ができる配置とする。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子やベッドの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 洗面カウンターを設ける。 ④ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑤ リラクゼーション用BGMやTVを設ける。	
	機器		
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ケ-13	内視鏡部門	その他	更衣室
(1)使用目的	大腸検査をうける患者が、検査着に更衣する。		
	関連する室名	下部消化管内視鏡室、患者用トイレ	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 前処置室、トイレ、下部消化管内視鏡室に近接して設置する。 ② 患者のプライバシーに配慮する。	
	性能	① 荷物が置ける棚、もしくは、鍵付ロッカーを設置する。	
	機器		
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ケ-14	内視鏡部門	その他	洗浄室・器材室
(1)使用目的	洗浄室:スコープなどを洗浄したり、中材への消毒出しの準備を行う。 器材庫:治療に使用する材料や、医療機器、SPD物品などを保管する。		
	関連する室名	上部消化管内視鏡室、下部消化管内視鏡室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 清潔と不潔を明確にするため、出入口を2箇所以上設ける。 ② 洗浄に伴う騒音が発生するため、室の配置や遮音性能に配慮する。	
	性能	① 器材搬出入のため出入口は自動扉とする。 ② 器材室は各内視鏡検査室から利用しやすい位置に設ける。 ③ 洗浄機器用の給排水設備、コンセント設備を設ける。 ④ 発生熱や臭気への対応として十分な換気、空調設備を設ける。	
	機器	① 内視鏡洗浄消毒装置 ② 内視鏡スコープ保管庫	
(4)室環境	5	バックヤードとして相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ケ-15	内視鏡部門	その他	操作室
(1)使用目的	放射線機器の撮影操作を行う。		
	関連する室名	X線TV室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① X線TV室に隣接し、操作窓より確認ができる配置とする。	
	性能	① 各撮影室に面する窓について、使用する放射線同位元素に準じた放射線防護を行う。 ② 清掃容易な仕上材料の選定、納まりとする。 ③ 放射線諸室間に配線および配管ビットを設ける。 ④ X線TV室と会話できるようマイクを設ける。	
	機器		
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ケ-16	内視鏡部門	その他	カンファレンス室
(1)使用目的	撮影画像の読影と症例検討を行う。		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数	10人	最大在室者数 15人
(3)設計水準	運用	① 撮影画像の読影ができる構造とする。	
	性能	① 配線の変更に对应しやすい構造とする。 ② 手洗い設備を設ける。	
	機器		
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ケ-17	内視鏡部門	その他	器材室
(1)使用目的	治療に使用する材料、医療機器、SPD物品の管理を行う。		
	関連する室名	上部消化管内視鏡室、下部消化管内視鏡室	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 2人
(3)設計水準	運用	① 上部消化管内視鏡室、下部消化管内視鏡室に隣接した配置とする。	
	性能	① 出入口扉は、引き戸とする。	
	機器	① 器械戸棚	
(4)室環境	5	バックヤードとして相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ケ-18	内視鏡部門	その他	説明室
(1)使用目的	検査前後の説明を行う。		
	関連する室名	内視鏡検査室	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 6人
(3)設計水準	運用		
	性能	① 廊下に面する扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 患者・家族へ情報提供を行うための情報設備を設ける。	
	機器		
(4)室環境	2	外来患者・面会者等の病院利用者の環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ケ-19	内視鏡部門	その他	サーバ室
(1)使用目的	検査データの記録保存をする。		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用		
	性能	① 機器のレイアウト変更に対応な構造とする。	
	機器	① 内視鏡ファイリングシステム	
(4)室環境	5	バックヤードとして相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
コー1	薬剤部門	薬剤部門	調剤コーナー
(1)使用目的	オーダーされた内服・外用処方調剤、監査する。		
	関連する室名	調剤室(内服、外用)、調剤監査コーナー、漢方薬調剤室、夜間薬払い出し口、エレベーター	
(2)使用人数	平均在室者数	9人	最大在室者数 13人
(3)設計水準	運用	① 漢方薬調剤室は、各コーナーから独立した部屋とする。 ② 調剤室、監査コーナーはワンフロアとする。 ③ 夜間払い出し口は、注射コーナーと隣接した位置に設ける。 ④ エレベーターと隣接する。	
	性能	① 漢方薬調剤室は、一般調剤室と区分し、臭気が他のコーナーに拡散しない機能を要する。 ② 夜間払い出し口と薬剤部内は、壁及び鍵のかかるドアで隔てられていること。 ③ 外来患者用の相談窓口を設ける。(1階の患者相談室を補完する部屋として) ④ 機器発熱を考慮し、薬品の品質管理のための湿度温度管理が可能なこと。 ⑤ 室内環境は清浄度クラスIV(一般清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ⑥ 調剤に必要な、給排水・吸塵設備を設けること。	
	機器	① 漢方薬調剤室は、脱臭装置・ドラフトチャンバーを設ける。 ② 全自動散薬分包機、全自動錠剤分包機、全自動生薬分包機 ③ 集塵装置付調剤台、錠剤台、水剤台 ④ 薬袋印字装置、薬袋発行機 ⑤ 調剤監査システム、水剤監査システム ⑥ 麻薬金庫 ⑦ 薬品キャビネット、薬品冷蔵庫 ⑧ 調剤支援システム	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
コー2	薬剤部門	薬剤部門	注射コーナー
(1)使用目的	オーダーされた注射処方を調剤、監査する。		
	関連する室名	注射薬調剤室、監査コーナー	
(2)使用人数	平均在室者数	10人	最大在室者数 16人
(3)設計水準	運用	① 注射薬調剤室、監査コーナー、カートブース、トレイブースは、壁で仕切らず、ワンフロアにする。 ② カートブースに隣接して配置する。 ③ ピッキングマシン、アンブル台、輸液棚、冷蔵庫をメンテナンス可能な位置に設置する。	
	性能	① 機器発熱を考慮し、薬品の品質管理のための湿度温度管理が可能なこと。 ② 機器荷重を考慮する。 ③ 室内環境は清浄度クラスIV(一般清潔区域)とする。(HEAS02-2004)	
	機器	① 薬用保冷库、注射薬カート ② アンブルディスベンサー ③ 注射薬払出システム	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
コー3	薬剤部門	薬剤部門	カートブース
(1)使用目的	注射薬個人セット払い出し用のカートを置く。		
	関連する室名	注射コーナー、トレイブース	
(2)使用人数	平均在室者数	5人	最大在室者数 10人
(3)設計水準	運用	① 注射コーナー、トレイブースに隣接して配置する。 ② SPDの搬送に支障がない位置に配置する。	
	性能	① 出入り口は、廊下に面し、カートの出し入れが円滑にできる大きさとする。	
	機器	① 注射薬カート	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
コー4	薬剤部門	薬剤部門	トレイブース
(1)使用目的	ピッキングマシンで使用する注射薬個人セット用のトレイを置く。		
	関連する室名	注射コーナー、カートブース	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① 注射コーナー、カートブースに隣接して配置する。	
	性能		
	機器		
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
コー5	薬剤部門	薬剤部門	薬品管理コーナー
(1)使用目的	薬品の発注、管理を行う。		
	関連する室名	調剤コーナー、注射コーナー、SPD	
(2)使用人数	平均在室者数	4人	最大在室者数 8人
(3)設計水準	運用	① 調剤コーナー、注射コーナーに近接して配置する。 ② オープンフロアとする。 ③ 外部への発注を担当するSPDとの連絡機能を有する。	
	性能		
	機器	① 特定生物由来製品管理システム	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
コー6	薬剤部門	薬剤部門	抗がん剤調製室
(1)使用目的	抗がん剤を調製する		
	関連する室名	無菌調製室、外来化学療法室	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① 無菌調製室と隣接させ、更衣のための共通の前室を設ける。 ② 外来化学療法室への小荷物搬送機等を設置する。	
	性能	① 汚染除去及び清掃の容易な仕上材料の選定、納まりとする。 ② 室内環境は清浄度クラスⅡ(清潔区域)とする。 ③ 安全キャビネットが適正に機能する環境を有する。(空気圧、温度、湿度) ④ 調製に必要な、給排水を設けること。	
	機器	① バスボックスを設ける。 ② 安全キャビネット ③ 製剤台 ④ 薬品キャビネット	
(4)室環境	6	清潔管理を特に重視し、耐荷重性に優れた仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
コー7	薬剤部門	薬剤部門	無菌調製室
(1)使用目的	IVH等、注射薬無菌調製を行う。		
	関連する室名	抗がん剤調製室	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① 抗がん剤調製室と隣接させ、更衣のための共通の前室を設ける。 ② 注射コーナーと近接させ、病棟への搬送が容易な位置に配置する。	
	性能	① 汚染除去及び清掃の容易な仕上材料の選定、納まりとする。 ② 室内環境は清浄度クラスⅡ(清潔区域)とする。 ③ 調製に必要な、給排水を設けること。	
	機器	① バスボックスを設ける。 ② クリーンベンチ ③ 製剤台 ④ 薬品キャビネット	
(4)室環境	6	清潔管理を特に重視し、耐荷重性に優れた仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
コー8	薬剤部門	薬剤部門	製剤室(ドラフト)
(1)使用目的	院内製剤を行う。		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 2人
(3)設計水準	運用		
	性能	① 出入り口は引戸とする。 ② 汚染除去及び清掃の容易な仕上材料の選定、納まりとする。 ③ 室内環境は清浄度クラスⅣ(一般清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ④ 製剤に必要な、給排水、排気を設けること。	
	機器	① ドラフトチャンバーを設ける。 ② 薬液用高圧蒸気滅菌器 ③ 薬品キャビネット ④ 製剤台 ⑤ 耐震保管庫	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
コー9	薬剤部門	薬剤部門	薬剤管理指導コーナー
(1)使用目的	薬剤管理指導のためのファイル、資料等を保管し、指導記録を入力する。		
	関連する室名	カンファレンスコーナー	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 10人
(3)設計水準	運用	① カンファレンスコーナーの近隣に配置する。	
	性能		
	機器	① 服薬指導システム	
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
コー10	薬剤部門	薬剤部門	TDM室
(1)使用目的	薬物血中動態シミュレーションをする。		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用		
	性能		
	機器	① パソコン、プリンターを設置する。	
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
コー11	薬剤部門	薬剤部門	薬品情報室(DI)
(1)使用目的	薬品情報を収集する。		
	関連する室名	廊下	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 10人
(3)設計水準	運用	① 外部廊下から直接出入り可能なドアを設置する。(関係者訪問への対応のため)	
	性能		
	機器	① 医薬品情報(ID)提供システム	
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
コー12	薬剤部門	薬剤部門	マスタ管理室
(1)使用目的	電子カルテの薬剤関連のマスタ管理をする。		
	関連する室名	調剤コーナー、注射コーナー	
(2)使用人数	平均在室者数	4人	最大在室者数 8人
(3)設計水準	運用	① 調剤コーナー、注射コーナーに隣接して配置する。 ② オープンフロアとする。	
	性能		
	機器		
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
コー13	薬剤部門	薬剤部門	薬剤部長室(麻薬金庫)
(1)使用目的	薬剤部長が、事務、麻薬管理を行う。		
	関連する室名	廊下	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 10人
(3)設計水準	運用	① 外部廊下から直接出入り可能なドアを設置する。(薬剤師会など外部との対応のため)	
	性能	① 麻薬管理のため、施錠が可能なこと。	
	機器	① 麻薬金庫	
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
コ-14	薬剤部門	薬剤部門	治験薬管理室
(1)使用目的	治験薬を管理する。		
	関連する室名	調剤コーナー、注射コーナー	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① 調剤コーナー、注射コーナーに隣接させる。 ② 治験コーディネーター、監査のため外部からの入室が容易な位置に配置する。	
	性能		
	機器	① 冷蔵庫 ② 鍵付き薬品キャビネット(治験薬保管用)	
(4)室環境	7	耐薬品性、耐汚染性に優れ、検体等の検査や研究に相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
コ-15	薬剤部門	薬剤部門	患者相談室(1階)
(1)使用目的	患者の相談を受ける。		
	関連する室名	患者薬渡し窓口	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① 患者薬渡し窓口に隣接して設置する。 ② 救急患者の移動に負担のかかりにくい位置とする。	
	性能		
	機器		
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
コ-16	薬剤部門	薬剤部門	患者薬渡し窓口(1階)
(1)使用目的	外来院内処方患者に薬を渡す。		
	関連する室名	エレベーター	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① 地階調剤コーナーから直通させる。 ② 薬品管理のため、内側から鍵のかかる設備とする。	
	性能		
	機器		
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
サ-1	リハビリテーション部門	理学療法室	機能訓練室
(1)使用目的	運動機能障害を持った外来・入院患者に対し、運動補助器具を使用した機能回復訓練を行う。		
	関連する室名	診察室	
(2)使用人数	平均在室者数	10人	最大在室者数 20人
(3)設計水準	運用	① 診察室、待合室に隣接して配置する。 ② リハビリテーション施設基準 I を満足させる。	
	性能	① ベッドや車椅子の出入が容易な扉幅を確保する。 ② 転倒等による衝撃吸収や歩行性に配慮した床材とする。 ③ 使用機器の配置に適応する各種設備(コンセント等)を設ける。 ④ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 全自動電子血圧計 ② L型昇降(練習用階段) ③ 歩行補助平行棒 ④ レンブロークター ⑤ 低床式起立訓練ベット ⑥ 訓練テーブル ⑦ トリートメントテーブル ⑧ エルゴメーター ⑨ ストレングスエルゴ ⑩ 上下肢用筋力測定訓練器	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
サ-2	リハビリテーション部門	理学療法室	物理療法室
(1)使用目的	外来、入院患者に対し、マッサージや牽引(頸椎・腰椎)、低周波、極超短波等の物理療法を行う。		
	関連する室名	診察室	
(2)使用人数	平均在室者数	5人	最大在室者数 8人
(3)設計水準	運用	① 診察室、待合室に隣接して配置する。 ② リハビリテーション施設基準 I を満足させる。	
	性能	① ベッドや車椅子の出入が容易な扉幅を確保する。 ② 転倒等による衝撃吸収や歩行性に配慮した床材とする。 ③ 使用機器の配置に適応する各種設備(コンセント等)を設ける。 ④ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 超音波治療器 ② 刺激療法器(オートキュアー) ③ 赤外線灯 ④ ホットバック加温装置 ⑤ マイクロ波治療器 ⑥ 牽引装置 ⑦ 低周波治療器	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
サ-3	リハビリテーション部門	作業療法室	作業療法室
(1)使用目的	外来、入院患者に対し、作業活動による筋力、関節の動き、手指の動き等の訓練を行う。		
	関連する室名	ADL室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① ADL室に隣接して配置する。 ② リハビリテーション施設基準 I を満足させる。	
	性能	① ベッドや車椅子の出入が容易な扉幅を確保する。 ② 転倒等による衝撃吸収や歩行性に配慮した床材とする。 ③ 使用機器の配置に適応する各種設備(コンセント等)を設ける。 ④ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器		
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
サ-4	リハビリテーション部門	作業療法室	ADL室
(1)使用目的	外来、入院患者に対し、日常生活を送るために必要な基本動作の訓練を行う。		
	関連する室名	物理療法室、作業療法室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① 物理療法室や作業療法室に隣接して配置する。	
	性能	① ベッドや車椅子の出入が容易な扉幅を確保する。 ② 転倒等による衝撃吸収や歩行性に配慮した床材とする。 ③ 使用機器の配置に適応する各種設備(コンセント等)を設ける。 ④ キッチンセットや和室等訓練に必要な設備を設ける。 ⑤ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器		
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
サ-5	リハビリテーション部門	言語療法室	個別療法室
(1)使用目的	言語機能の回復改善の訓練を行うとともに、残された能力や、代償補助手段を利用してコミュニケーションの効率を高める。		
	関連する室名	診察室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① リハビリテーション施設基準Ⅰを満足させる。	
	性能	① ベッドや車椅子の出入が容易な扉幅を確保する。 ② 適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① マグネティックウェイ	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
シ-1	人工透析部門	処置室	慢性透析
(1)使用目的	慢性維持透析患者など全身状態の比較的良好な患者の血液透析を行う。		
	関連する室名	重症透析、スタッフステーション、機械室	
(2)使用人数	平均在室者数	50人	最大在室者数 65人
(3)設計水準	運用	① 腎ユニット病棟と同じ階に配置する。 ② スタッフステーションに隣接して配置する。	
	性能	① スタッフステーションから観察しやすく、プライバシーを要する場合に対応できる構造とする。 ② (ベッド間をカーテン等で仕切れる構造を有する。) ③ ベッド間はベッド、車椅子の搬入、ベッドへの乗換えが考慮された間隔を設ける。 ④ 床配管ピット(on-line HDF対応)を透析機械室間に設置する。 ⑤ 室内環境は清浄度クラスIV(一般清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ⑥ 各ベッドに医療用設備(医ガス、ナースコール、各種スイッチ、電源等)を設ける。 ⑦ 全般照明は直接光源が見えない点に配慮する。 ⑧ 空調調節、換気対策、臭気対策を行う。	
	機器	① 人工透析システム ② 電解質アナライザー、強電解水生成装置 ③ 製水器、卓上型乾燥滅菌器 ④ アフレシスモニター、プラズマディスプレイモニター(膜型血漿交換装置) ⑤ 持続性ヘマトクリット監視装置、全自動血圧計、小型電極式血糖測定装置	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
シ-2	人工透析部門	処置室	重症透析
(1)使用目的	全身状態不良患者および結核など隔離が必要な患者の血液透析を行う。		
	関連する室名	慢性透析、スタッフステーション、機械室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① スタッフステーションに隣接して配置する。	
	性能	① スタッフステーションから観察しやすく、プライバシーに配慮した構造とする。 ② ベッド間はベッド、車椅子の搬入、ベッドへの乗換えが考慮された間隔を設ける。 ③ 1室は感染症患者用として前室を設け、空調設備は陰圧とする。 ④ 室内環境は清浄度クラスIV(一般清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ⑤ 医療用設備(医ガス、ナースコール、各種スイッチ、電源等)を設ける。 ⑥ 全般照明は直接光源が見えない点に配慮する。 ⑦ 空調調節、換気対策、臭気対策を行う。	
	機器	① 人工透析システム ② 電解質アナライザー、強電解水生成装置 ③ 製水器、卓上型乾燥滅菌器 ④ アフレシスモニター、プラズマディスプレイモニター(膜型血漿交換装置) ⑥ 持続性ヘマトクリット監視装置、全自動血圧計	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
シ-3	人工透析部門	処置室	CAPD室
(1)使用目的	CAPD(腹膜透析)を行う		
	関連する室名	スタッフステーション、慢性透析	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 慢性透析用多人数透析室に隣接して配置する。 ② スタッフステーションから管理しやすい配置とする。	
	性能	① ストレッチャーや車椅子からベッドへの乗換えが考慮されたスペースを設ける。 ② プライバシーに配慮したカーテンを設ける。	
	機器	① CAPD用透析装置 ② 電動ベッド	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
シ-4	人工透析部門	その他共用部	スタッフステーション
(1)使用目的	透析の受付事務、記録および患者の観察を行う。		
	関連する室名	慢性透析、重症透析、CAPD室	
(2)使用人数	平均在室者数	25人	最大在室者数 30人
(3)設計水準	運用	① 透析室(多人数透析室・重症患者用透析室(個室))に隣接して設ける。	
	性能	① 透析患者情報表示パネル、PC類はスタッフの利便性や個人情報保護に配慮した配置とする。 ② 室内環境は清浄度クラスIV(一般清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ③ 透析情報を管理するPCは無停電電源を確保する。 ④ 来客者がスタッフステーションと連絡可能なインターホン設備を設ける。 ⑤ 設備関連機器(水洗、電気スイッチ等)は極力非接触型のものとする。	
	機器	① 透析部門システム	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ス-1	東洋医学部門	外来診療部	漢方診察室
(1)使用目的	主として、東洋医学外来患者(保険診療)の診察、入院患者の処置に使用する。		
	関連する室名	受付・事務、鍼灸治療室、図書・資料室・研修室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 各漢方診察室の中に診察台が1台入り、鍼灸治療も可能な面積を確保する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸(カーテン)2つとし、双方から車椅子の出入が可能な幅を確保する。 ② 作業廊下(スタッフ通路側)はカーテン引き戸とし、機材の搬入が容易に出来る幅を確保する。 ③ 流し付き作業台を設置する。(血液等汚染物対応)流し下には収納スペースを設ける。 ④ 東洋医学内インターフォン(各部屋との連絡用)を設ける。 ⑤ 空調調節、換気対策、臭気対策を行う。 ⑥ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 診察台(2室×1台=2台) ② 架台式シャーカステン ③ 光線治療器 ④ 眼科用オペレーションマイクロスコープ ⑤ 指尖容積脈波計 ⑥ 電動診察台 ⑦ 救急蘇生用具 ⑧ 脈波コロトコフ音記録計	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ス-2	東洋医学部門	外来診療部	受付・事務
(1)使用目的	外来患者・入院患者の受付・会計業務を行うため、事務員が使用する。		
	関連する室名	患者待合室・閲覧室、漢方診察室、鍼灸治療室、図書・資料室、研修室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① 待合室からわかりやすい位置に配置する。	
	性能	① 情報設備(電話、HIS、インターネット)を設ける ② 鍼灸カルテの棚を1カ所にまとめて設置する。(当該室内に設置)	
	機器		
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ス-3	東洋医学部門	外来診療部	患者待合室・閲覧室
(1)使用目的	受付を済ませた患者様の待つ場所・付き添いの家族の待機場所。		
	関連する室名	受付・事務、鍼灸治療室、漢方診察室	
(2)使用人数	平均在室者数	18人	最大在室者数 25人
(3)設計水準	運用	① 廊下と一体となる開放的な居住空間を確保する。 ② 診察用アンケート用紙・相談カードが記入できるような机・椅子が置ける場所を確保する。 ③ クラークが常駐できる場所を確保する。	
	性能	① 部門内連絡(電話等)を設ける。 ② テレビ、患者説明等に使用するDVD設備を設ける。	
	機器	① カウンターセット ② 百味タンス	
(4)室環境	2	外来患者・面会者等の病院利用者の環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ス-4	東洋医学部門	外来診療部	鍼灸治療室
(1)使用目的	主として、東洋医学外来及び入院患者の処置に使用する。		
	関連する室名	受付・事務、患者待合室・閲覧室、漢方診察室	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① 鍼灸治療室(1室)の中に診察台が2台入り、2名の患者様を同時に治療可能な面積を確保する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸(カーテン)2つとし、双方から車椅子の出入が可能な幅を確保する。 ② 作業廊下(スタッフ通路側)はカーテン引き戸とし、機材の搬入が容易に出来る幅を確保する。 ③ 流し付き作業台を設置する。(血液等汚染物対応)流し下には収納スペースを設ける。 ④ 東洋医学内インターフォン(各部屋との連絡用)を設ける。 ⑤ 空調調節、換気対策、臭気対策を行う。 ⑥ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 電動診察台(4室×2台=8台)	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ス-5	東洋医学部門	外来診療部	図書・資料室
(1)使用目的	主として、鍼灸・漢方図書の保管・鍼灸カルテ・鍼灸症例集の保管。		
	関連する室名	受付・事務、漢方診察室、鍼灸治療室、研修室	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 10人
(3)設計水準	運用		
	性能	① 患者通路に面する扉は引き戸とし、セキュリティに配慮する。 ② 東洋医学内インターフォン(各部屋との連絡用)を設ける。 ③ 情報設備(電話、HIS、インターネット)を設ける。	
	機器	① 世良文庫	
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ス-6	東洋医学部門	外来診療部	研修室
(1)使用目的	スタッフ・研修生の研修・実習を行う。		
	関連する室名	受付・事務、患者待合室・閲覧室、鍼灸治療室、漢方診察室	
(2)使用人数	平均在室者数	10人	最大在室者数 22人
(3)設計水準	運用		
	性能	① 患者通路に面する扉は引き戸とし、セキュリティに配慮する。 ② 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 部門内連絡(電話等)を設ける。 ④ 流し台を設ける。 ⑤ 情報設備(電話、HIS、インターネット)を設ける。	
	機器	① 卓上型高圧蒸気滅菌器	
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
セー1	栄養給食部門	厨房	調乳室
(1)使用目的	新生児用のミルクの調乳を行う。		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 1人
(3)設計水準	運用	① 入口に調乳準備のための前室を設ける。	
	性能	① 室内に洗浄室を設け、ドアで仕切る構造とすること。 ② 前室から調乳室への入口と洗浄室への入口は自動扉とすること。	
	機器	① オートクレーブは、調乳室側と洗浄室側どちらからでも開けることができる配置とする。 ② 冷蔵庫はパススルー型とし、調乳済ミルクが厨房側から取り出せるよう隣接して設置する。	
(4)室環境	6	清潔管理を特に重視し、耐荷重性に優れた仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ソ-1	中央材料部門	作業室	洗浄室
(1)使用目的	汚染器材の洗浄・乾燥を行う。		
	関連する室名	回収廊下(手術部門)、組立室	
(2)使用人数	平均在室者数	4人	最大在室者数 6人
(3)設計水準	運用	① 回収廊下と組立室への動線に配慮する。 ② 汚染器材回収エレベーター付近に入口を設ける。 ③ 組立室とは区画する。 ④ 消毒後内視鏡を組立室に運ぶためパスルーを設ける。 ⑤ カートは洗浄器で洗浄後、滅菌器保管室まで組立室を bypass せず搬送されるルートを確認する。	
	性能	① 床材は消毒液、熱に耐え得る素材とする。 ② 室内環境は清浄度クラスⅣ(一般清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ③ 洗浄、乾燥行程の確認のために照明を十分に設ける。 ④ 洗浄機器の稼働により高温・多湿となるため個別に空調管理ができるようにする。 ⑤ 組立室と差圧をつけて汚染空気の流れを防止する。 ⑥ 各種洗浄機の排水の配管は、耐熱配管とする。 ⑦ エアガン使用シンク設置場所は汚染飛沫の拡散防止のためにダクトを設ける。 ⑧ 軟性内視鏡洗浄器設置場所には、足元部分にダクトを設ける。 ⑨ 自動ジェット式超音波洗浄装置を設置し仕上がり後の器材が組立室に流れていくようにする。 ⑩ 手洗浄を行えるように深型シンクを3槽設ける。	
	機器	① 作業台を設ける。 ② 自動ジェット式超音波洗浄装置 ③ 自動内視鏡処置具洗浄装置 ④ 軟性内視鏡洗浄装置(耳鼻科・泌尿器科) ⑤ システム乾燥機 ⑥ チューブ乾燥機 ⑦ 歯科用ジェット洗浄装置 ⑧ RO水発生装置・1000ℓタンク付	
(4)室環境	6	清潔管理を特に重視し、耐荷重性に優れた仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ソ-2	中央材料部門	作業室	組立室
(1)使用目的	洗浄後の器材をコンテナやバッグにパッキングする。衛生材料を作成しパッキングする。		
	関連する室名	洗浄室、既滅菌保管室、更衣室、ユニットシャワー・トイレ、事務所	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① 洗浄室から、組立室、保管室とワンウェイ(一方向)に配置する。 ② 更衣室から出入りできるようにする。 ③ ユニットシャワー・トイレ、事務室に隣接し配置する。 ④ 組立室と滅菌保管室とは区画する。 ⑤ 組立室はICタグ・組立支援システム等の利用によるセット化ができるシステムを導入する。 ⑥ 交換用の新しい器材を収納する棚を設置するためのスペースを確保する。	
	性能	① 組立室と滅菌保管室とは自動ドアで移動できるようにする。 ② 各種滅菌装置は、発熱するため上下階の熱伝導防止対策を行う。 ③ 排熱の捕集のため高圧蒸気滅菌装置の周囲に垂れ壁等を設置する。 ④ 室内環境は清浄度クラスⅣ(一般清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ⑤ 洗浄、乾燥行程の確認のために照明を十分に設ける。 ⑥ 洗浄機器の稼働により高温・多湿となるため個別に空調管理ができるようにする。 ⑦ 組立室と差圧をつけて汚染空気の流れを防止する。 ⑧ 組立室と滅菌保管室とは各種滅菌装置で区画し、パスルー式(両扉)を採用する。 ⑨ 自動ジェット式超音波洗浄装置を設置し仕上がり後の器材が組立室に流れてくるようにする。 ⑩ 高圧蒸気滅菌装置はフロアローディングタイプを採用し、設置床はFL-150mm以上とする。 ⑪ 酸化エチレンガス滅菌装置はガス曝露防止のため足元の局所換気、滅菌装置間の除外装置を設置する。 ⑫ 酸化エチレンガス滅菌装置の排気は引火性があるので単独とする。 ⑬ 高圧蒸気滅菌装置の配管類は、単独の耐熱配管とする。	
	機器	① 器械戸棚 ② メディカルシーラー ③ 高圧蒸気滅菌装置(クリーン蒸気仕様) ④ 低温プラズマ滅菌装置 ⑤ 酸化エチレンガス滅菌装置(排ガス処理装置付)	
(4)室環境	6	清潔管理を特に重視し、耐荷重性に優れた仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ソ-3	中央材料部門	作業室	既滅菌保管室
(1)使用目的	滅菌後の器材の保管管理を行なう。		
	関連する室名	組立室、SPDセンター	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 8人
(3)設計水準	運用	① 組立室とSPDセンターに隣接して配置する。 ② 清潔物品配送専用エレベーターに隣接して配置する。 ③ 滅菌保管室とSPDセンターはバスボックスでつながるようにする。 ④ 清潔物品配送専用エレベーター側廊下に面してバスボックスを配置する。 ⑤ 洗浄後カートは、滅菌器保管室で滅菌物を仕分け、配送できるルートとする。 ⑥ 滅菌物のアリバイ管理ができる部門システムを導入する。	
	性能	① 組立室と滅菌保管室とは自動ドアで移動できるようにする。 ② 室内環境は清浄度クラスIV(一般清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ③ 滅菌物の管理のために独立して空調管理ができるようにする。 ④ 酸化エチレンガス滅菌装置はガス曝露防止のため足元の局所換気装置、滅菌装置間の除外装置を設置する。 ⑤ 酸化エチレンガス滅菌装置の排気は引火性があるので単独とする。 ⑥ 滅菌物収納用垂直式回転ラックの設置を考慮した配電設備とする。	
	機器	① バススルーキャビネット、作業台を設ける。 ② 滅菌物収納用垂直式回転ラックを設ける。 ③ 物流管理システム	
(4)室環境	6	清潔管理を特に重視し、耐荷重性に優れた仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ソ-4	中央材料部門	その他	事務室
(1)使用目的	滅菌物の流通管理、職員の勤務管理など事務を行う。		
	関連する室名	廊下、更衣室、休憩室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① 更衣室、休憩室に隣接して配置する。 ② 廊下に隣接して配置し、廊下側からも入れるように入口を設ける。 ③ 滅菌物のアリバイ管理ができる部門システムを導入する。	
	性能	① 室内環境は清浄度クラスIV(一般清潔区域)とする。(HEAS02-2004) ② 手洗い設備を設ける。 ③ 組立室と差圧をつけて汚染空気の逆流を防止する。	
	機器		
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ソ-5	中央材料部門	その他	スタッフ休憩室
(1)使用目的	職員の休憩室として使用する。		
	関連する室名	事務室、ユニットシャワー・トイレ、更衣室	
(2)使用人数	平均在室者数	4人	最大在室者数 8人
(3)設計水準	運用	① 更衣室、事務室に隣接して配置する。 ② カンファレンスができるスペース(12人程度)を確保する。	
	性能	① 手洗い設備(目を洗浄できるもの)を設ける。	
	機器		
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
タ-1	ME管理部門	ME管理部門	ME管理室
(1)使用目的	医療機器の保管・清掃・点検を行う。		
	関連する室名	技師控室、保守管理記録保管室	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 7人
(3)設計水準	運用	① 技士控室と隣接して配置する。 ② 貸出・返却状況を知らせるための情報通信システムを導入する。	
	性能	① 塵埃が蔓延しない室内環境を確保する。 ② 医療機器を点検するための吊り下げ式コンセント 2系統。 ③ 人工呼吸器の点検・清掃用に中央配管による医療ガス設備を設ける。 (酸素・圧縮空気・吸引・二酸化炭素を1セットとした吊り下げ式配管を2セット)	
	機器	① 人工呼吸器、輸液・シリンジポンプ等中央管理医療機器等の陳列棚 ② ME機器管理システム ③ ME機器解析装置システム ④ ガス流量解析装置 ⑤ 電気安全解析装置	
(4)室環境	5	バックヤードとして相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ツ-1	人間ドック部門	検査・診察部門	X線TV室
(1)使用目的	健診者の上部消化管透視の検査を行う。		
	関連する室名	胸部撮影室、操作室・受付	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 2人
(3)設計水準	運用	① 操作ホールに隣接して配置する。 ② 前処置室に面して出入り口を設ける。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子の出入りが容易な幅を確保する。 ② 廊下に面する扉の一箇所は機器搬入に必要な幅を確保する。 ③ 内装、出入口扉、操作室に面する窓について放射線防護(鉛当量2mm)を行う。 ④ 放射線機器の機器荷重や天井走行レール有無等を考慮する。 ⑤ 操作室間に配線および配管ピットを設ける。 ⑥ 天井、壁面を吸音材とし、声が反響しないようにする。 ⑦ 流し台を設置する。 ⑧ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑨ 照明は照度可変式とする。 ⑩ 個別調節可能な空調設備を設ける。	
	機器	① デジタルX線透視撮影装置	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ツ-2	人間ドック部門	検査・診察部門	操作室・受付
(1)使用目的	健診者の受付を行い、各放射線機器の撮影操作を行う。		
	関連する室名	胸部撮影室、X線TV室、操作室・受付(前処置室)	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① 放射線諸室に隣接させ、操作窓により確認ができる配慮とする。 ② 胸部撮影室に面して出入口を設け、スタッフ動線に考慮する。 ③ 廊下に面して配置し受付窓口を設ける。 ④ 廊下に面した操作室端に前処置室を設ける。	
	性能	① 各操作室に面する窓については防護(鉛当量2mm)を行う。 ② 撮影室が対面する場合の操作窓配置などプライバシーに配慮した計画とする。 ③ 将来の撮影装置の更新や配線の変更などに対応しやすい構造とする。 ④ 廊下に面し出入口を2ヶ所、X線TV室に面しても出入口を2ヶ所設ける。(スタッフ用1、患者用1) ⑤ ④の各1ヶ所は健診者がスムーズに出入りできるよう動線に配置する。 ⑥ 廊下に面する扉の一箇所は機器搬入に必要な幅を確保する。 ⑦ 照明は照度可変式とする。 ⑧ 個別調節可能な空調設備を設ける。 ⑨ 情報設備を設ける。 ⑩ 前処置室は、プライバシーに考慮したカーテン等を設ける。	
	機器	① 処置用ベッド(前処置室)	
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ツ-3	人間ドック部門	検査・診察部門	胸部撮影室
(1)使用目的	健診者の胸部の放射線撮影を行う。		
	関連する室名	X線TV室、操作室・受付	
(2)使用人数	平均在室者数	1人	最大在室者数 2人
(3)設計水準	運用	① 操作ホールに隣接して配置する。 ② 廊下に面して配置する。	
	性能	① 待合に面する扉は引戸とし、車椅子の出入りが容易な幅を確保する。 ② 内装、出入口扉、操作室に面する窓について放射線防護(鉛当量2mm)を行う。 ③ 放射線機器の機器荷重や天井走行レール有無等を考慮する。 ④ 操作室間に配線および配管ピットを設ける。 ⑤ 天井、壁面を吸音材とし、声が反響しないようにする。 ⑥ 照明は照度可変式とする。 ⑦ 個別調節可能な空調設備を設ける。 ⑧ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 診断用X線撮影装置 ② CR画像読取装置	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ツ-4	人間ドック部門	検査・診察部門	心電図検査室
(1)使用目的	健診者の心電図検査を行う。健診者の処置(急変時対応)にも使用する。		
	関連する室名	呼吸機能検査室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 廊下に向して配置する。 ② 呼吸機能検査室に隣接して配置する。 ③ ベッド2台横並びに配置し、それらの間に検査機器を設置し操作する。	
	性能	① 待合に向する扉は引戸とし、車椅子の出入りが容易な幅を確保する。 ② 呼吸機能検査室に向して扉(引戸)を設け、車椅子の出入りが容易な幅を確保する。 ③ 室内の会話が外にもれないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ④ 部屋のレイアウト変更に対応可能な構造とする。 ⑤ 流し付き作業台を設ける。 ⑥ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 多機能心電計	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ツ-5	人間ドック部門	検査・診察部門	腹部超音波検査室
(1)使用目的	健診者の腹部超音波検査を行う。		
	関連する室名	診察室	
(2)使用人数	平均在室者数	5人	最大在室者数 7人
(3)設計水準	運用	① 廊下に向して配置する。	
	性能	① 廊下に向する扉は引戸とし、車椅子の出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外にもれないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 更衣時、検査時のプライバシーに考慮したカーテン等を設ける。 ④ 部屋のレイアウト変更に対応可能な構造とする。 ⑤ 手洗い設備を設ける。 ⑥ 暗室対応とし、照明は調光可能なものとする。 ⑦ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 超音波診断装置	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ツ-6	人間ドック部門	検査・診察部門	呼吸機能検査室
(1)使用目的	健診者の呼吸機能検査を行う。健診者の処置(急変時対応)にも使用する。		
	関連する室名	心電図検査室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① 心電図検査室に向して配置する。	
	性能	① 心電図検査室に向して扉(引戸)を設け、車椅子の出入りが容易な幅を確保する。 ② 室内の会話が外にもれないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ③ 更衣時、検査時のプライバシーに考慮したカーテン等を設ける。 ④ 部屋のレイアウト変更に対応可能な構造とする。 ⑤ 流し付作業台を設ける。 ⑥ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑦ ベッド廻りにキュービクルカーテンを設ける。	
	機器	① 処置用ベッド ② 電子スパイロメーター	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ツ-7	人間ドック部門	検査・診察部門	身体計測室・聴力検査室
(1)使用目的	健診者の身体計測室として使用する。		
	関連する室名	更衣室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 2人
(3)設計水準	運用	① 廊下に向して配置する。	
	性能	① 聴力検査室としても使用するため、適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ② 廊下に向する扉は引戸とし、車椅子の出入りが容易な幅を確保する。 ③ 身体計測時のプライバシーに考慮したカーテン等を設ける。 ④ 部屋のレイアウト変更に対応可能な構造とする。 ⑤ 診察室にも対応できるように医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① 体内脂肪圧計 ② オージオメーター	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ツ-8	人間ドック部門	検査・診察部門	視力検査室
(1)使用目的	健診者の検査に使用する。問診室としても使用する。		
	関連する室名	眼科診察室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 廊下に面して配置する。 ② 眼科診察室の近くに配置する。 ③ 視力検査に要する距離を5.5m確保する。	
	性能	① 室内の会話が外に漏れないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ② 廊下に面し扉を設けず通路とし、車椅子の出入りが容易な幅を確保する。 ③ 眼科診察室に面した通路に扉(引戸)を設け、待合室としても使用する。 ④ 身体計測時のプライバシーに考慮したカーテン等を設ける。 ⑤ 視力検査に要する距離を5.5m確保する。 ⑥ 部屋のレイアウト変更に対応可能な構造とする。 ⑦ 流し付き作業台を設ける。 ⑧ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。	
	機器	① オートレンズメーター、ノンコンタクトノメーター、検眼レンズ	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ツ-9	人間ドック部門	検査・診察部門	眼科診察室
(1)使用目的	健診者の診察に使用する。問診室としても使用する。		
	関連する室名	視力検査室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 廊下に面して配置する。 ② 視力検査室に隣接して設ける。	
	性能	① 廊下に面する扉は引戸とし、車椅子の出入りが容易な幅を確保する。 ② 視力検査室に面して扉(引戸)を設ける。 ③ 出入り口にカーテンを設ける。 ④ 部屋のレイアウト変更に対応可能な構造とする。 ⑤ 手洗い設備を設ける。 ⑥ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑦ 暗室対応とし、診察時、医師が手で照明を調節できる照明設備を設ける。 ⑧ 使用するユニットに必要な諸設備を設ける。	
	機器	① オートレフケラトメーター、オートスライディングテーブル ② 無散瞳眼底カメラシステム、スリットランプ	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ツ-10	人間ドック部門	検査・診察部門	採尿室・トイレ
(1)使用目的	健診者の採尿検査に使用する。		
	関連する室名	更衣室、健診ホール(採血カウンター)	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 5人
(3)設計水準	運用	① 廊下に面して配置する。 ② 男女別に設ける。車椅子での利用に配慮する。	
	性能	① 健診ホール(採血カウンター)に面した出入口を設ける。 ② 男女トイレ内から採尿コップが提出できる構造とする。 ③ 洋式トイレ(ウォッシュレット機能付)とし、最低男女各3ヶ(男性は小便器も設置)ずつ設ける。	
	機器	① 作業台(採尿室)	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ツ-11	人間ドック部門	検査・診察部門	診察室
(1)使用目的	健診者の診察、説明を行う。健診者の処置(急変時対応)にも使用する。		
	関連する室名	栄養指導室	
(2)使用人数	平均在室者数	3人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① 診察室①は廊下、栄養指導室に面して配置し、診察室②は①に面して配置する。	
	性能	① 健診者の出入口扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーの出入りが容易な幅を確保する。 ② スタッフ動線に配慮し診察室①は栄養指導室に面して、診察室②は①に面して引戸を設ける。 ③ 室内の会話が外にもれないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ④ 部屋のレイアウト変更に対応可能な構造とする。 ⑤ 手洗い設備を設ける。 ⑥ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑦ 更衣スペースも含めベッド廻りにキュービクルカーテンを設ける。	
	機器	① 診察用ベッド	
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ツ-12	人間ドック部門	検査・診察部門	婦人科診察室・内診室
(1)使用目的	健診者の診察に使用する。		
	関連する室名	診察室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 廊下に向して配置する。	
	性能	① 廊下に向する扉は引戸とし、車椅子の出入りが容易な幅を確保する。 ② 婦人科以外の診察ができるよう内診室は奥に配置し、カーテン等で仕切る。 ③ 内診室の出入り口は、医師用・健診者用に分けプライバシーに考慮する。 ④ 部屋のレイアウト変更に対応可能な構造とする。 ⑤ 手洗い場を確保する。 ⑥ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑦ 使用する内診台及び処置台に必要な諸設備を設ける。(排水設備を含む)	
	機器	① 婦人科検診台	
(4)室環境	2	外来患者・面会者等の病院利用者の環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ツ-13	人間ドック部門	検査・診察部門	更衣室
(1)使用目的	健診者が健診着の更衣に使用する。		
	関連する室名	待合ホール、説明室、トイレ	
(2)使用人数	平均在室者数	20人	最大在室者数 24人
(3)設計水準	運用	① 廊下に向して配置し、男女別に設ける。	
	性能	① 廊下に向する扉は引戸とし、車椅子の出入りが容易な幅を確保する。 ② 出入口は更衣時のプライバシーに考慮したカーテン等を設ける。 ③ 手洗い設備を設ける。 ④ 更衣室における健診者の貴重品保管などのセキュリティに配慮する。	
	機器		
(4)室環境	3	患者の治療・検査を行うに相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ツ-14	人間ドック部門	検査・診察部門	栄養指導室
(1)使用目的	健診者の食事調査表の聞き取り、栄養指導を行う。		
	関連する室名	診察室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 3人
(3)設計水準	運用	① 廊下に向して配置する。 ② 診察室①に隣接して配置する。	
	性能	① 廊下に向する扉は引戸とし、車椅子の出入りが容易な幅を確保する。 ② 診察室①に向して扉(引戸)を設け、スタッフ、健診者動線に考慮する。 ③ 室内の会話が外にもれないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ④ 部屋のレイアウト変更に対応可能な構造とする。 ⑤ 必要に応じ医療ガス設備、スタッフコール設備、オーダーリング設備、医療コンセント等を設ける。 ⑥ 適切な大きさの収納ユニットを設ける。	
	機器		
(4)室環境	2	外来患者・面会者等の病院利用者の環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ツ-15	人間ドック部門	検査・診察部門	説明室
(1)使用目的	健診者と医療スタッフとの面談(二次検診案内)に使用する。		
	関連する室名	受付・事務室、待合ホール	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数 4人
(3)設計水準	運用	① 待合ホールに向して配慮する。 ② 受付・事務室に隣接して配置する。	
	性能	① 待合ホールに向する扉は引戸とし、車椅子の出入りが容易な幅を確保する。 ② 受付・事務室に向する扉は引戸とし、スタッフの動線に考慮する。 ③ 室内の会話が外にもれないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。	
	機器		
(4)室環境	2	外来患者・面会者等の病院利用者の環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ツ-16	人間ドック部門	その他	待合ホール
(1)使用目的	健診者の受付開始までの待合場所に使用する。		
	関連する室名	一般用エレベータ、説明室	
(2)使用人数	平均在室者数	6人	最大在室者数 8人
(3)設計水準	運用	① 廊下に面して利用しやすい位置に設ける。 ② 一般用エレベータからの健診者動線に配慮する。 ③ 受付カウンター、説明室に隣接して配置し、廊下に面してオープンスペースとする。	
	性能	① 待合椅子(6~8人)を配置し、歩行スペースを確保する。	
	機器		
(4)室環境	2	外来患者・面会者等の病院利用者の環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ツ-17	人間ドック部門	その他	受付・事務室
(1)使用目的	健診者の受付業務を行う。健診場における各種業務の拠点として医療スタッフが使用する。		
	関連する室名	待合ホール、スタッフ休憩室	
(2)使用人数	平均在室者数	6人	最大在室者数 10人
(3)設計水準	運用	① 廊下に面して利用しやすい位置に設ける。 ② 業務時間外は受付がクローズできる設備を設け、セキュリティに配慮する。 ③ 時間外に自由に入出りできないよう一般廊下と扉施錠管理する。(通常はオープン(壁収納等))	
	性能	① 廊下に面して扉を配置する。 ② 説明室に面する扉は引戸とし、スタッフ動線に考慮する。 ③ 受付台は、健診者対応のカウンターとしオープンスペースとする。 ④ 手洗設備を設ける。 ⑤ 情報設備を設ける。 ⑥ 壁面に適切な大きさの収納ユニットを設ける。	
	機器		
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ツ-18	人間ドック部門	その他	健診ホール
(1)使用目的	健診者の待合、リラク্সルームとして使用する		
	関連する室名	カフェコーナー、採尿室・トイレ	
(2)使用人数	平均在室者数	24人	最大在室者数 30人
(3)設計水準	運用	① 廊下に面したオープンスペースとして配置し、健診者の出入りが容易なものとする。	
	性能	① 採尿室に面して出入口を設け、スタッフ動線に考慮する。 ② カフェコーナー側には出入口を設けない。 ③ トイレ、採尿室に面して採血カウンターを設ける。 ④ 部屋のレイアウト変更に対応可能な構造とする。 ⑤ 採血カウンター付近に流し付き作業台を設ける。 ⑥ テレビの配線を設ける。 ⑦ テレビは、健診ホール全体から見える位置とし、天井吊りとする。	
	機器	① 電動リクライニングチェア(オットマン付) 24台 ② 全自動血圧計 ③ スクリーン(スライド台付)	
(4)室環境	2	外来患者・面会者等の病院利用者の環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ツ-19	人間ドック部門	その他	カフェコーナー
(1)使用目的	健診者のリラクックスルームとして使用する。 検査指示による絶飲食解除後の、水分摂取できる場所として使用する。		
	関連する室名	健診ホール	
(2)使用人数	平均在室者数	4人	最大在室者数 6人
(3)設計水準	運用	① 健診ホールに隣接して配置する。	
	性能	① 健診ホールに面して扉を設けず、車椅子の出入りが容易な幅を確保する。 ② 部屋のレイアウト変更に対応可能な構造とする。 ③ 窓に面してカウンターを設け、座れるスペースを確保する。 ④ 手洗設備を設ける。 ⑤ 自動販売機等の設備を設ける。	
	機器		
(4)室環境	2	外来患者・面会者等の病院利用者の環境として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ツ-20	人間ドック部門	その他	スタッフ休憩室
(1)使用目的	医療スタッフの休憩室として使用する。		
	関連する室名	受付・事務室	
(2)使用人数	平均在室者数	6人	最大在室者数 8人
(3)設計水準	運用	① 廊下に面して配置する。 ② スタッフ用エレベーター近くに配置する。 ③ セキュリティに配慮する。	
	性能	① 廊下に面する扉は引戸とし、出入口を設ける。 ② 事務室に面する扉は引戸とし、出入口を設ける。 ③ 室内の会話が外にもれないように適切な防音性能を確保した間仕切り壁とする。 ④ 部屋のレイアウト変更に対応可能な構造とする。 ⑤ 流し付き作業台を設ける。 ⑥ テレビの配線を設ける。	
	機器		
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
テ-1	医療情報部門	医療情報部	医療情報システムサーバー室
(1)使用目的	医療情報システムの情報関連機器の収納		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数	最大在室者数	
(3)設計水準	運用	① 独立した出入り口を設け自動で入退室管理ができる機器を設置する。	
	性能	① 出入口はサーバーラック等の搬入、搬出を考慮した大きさとすること。 ② 容易に床下配線が可能な床構造(OAフロア等)とし耐荷重性を考慮する。 ③ サーバーラック転倒防止用アンカーの設置に配慮した構造とする。 ④ 医療情報システム機器設置部分は独立した構造とする。 ⑤ サーバー等の情報関連機器は、無停電電源装置に接続する。 ⑥ 室温を20度以下に保つための空調設備を有する。 ⑦ 空調設備は停止時のバックアップ、災害時の非常用電源設備対応とする。 ⑧ 空調設備は停電復帰後に自動的に再稼動すること。 ⑨ サーバー等情報関連機器に配慮した消火設備を有すること。	
	機器	① 部門システム用サーバー	
(4)室環境	5	バックヤードとして相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
テ-2	医療情報部門	医療情報部	県立病院医療薬剤情報システムサーバー室
(1)使用目的	県立病院医療薬剤情報システム(院内LAN)情報関連機器の収納、外部ネットワーク接続機器の設定、管理、監視。患者サービス用LAN関連機器の収納は提案による。		
	関連する室名		
(2)使用人数	平均在室者数	最大在室者数	
(3)設計水準	運用	① 独立した出入り口を設け自動で入退室管理ができる機器を設置する。	
	性能	① 出入口はサーバーラック等の搬入、搬出を考慮した大きさとすること。 ② 容易に床下配線が可能な床構造(OAフロア等)とし耐荷重性を考慮する。 ③ サーバーラック転倒防止用アンカーの設置に配慮した構造とする。 ④ 機器機器設置部分は独立した構造とする。 ⑤ 院内LANと患者サービス用LANで共用する場合は、スペースをパーティション等で分離する。 ⑥ サーバー等の情報関連機器は、無停電電源装置に接続する。 ⑦ 室温を20度以下に保つための空調設備を有する。 ⑧ 空調設備は停止時のバックアップ、災害時の非常用電源設備対応とする。 ⑨ 空調設備は停電復帰後に自動的に再稼動すること。 ⑩ サーバー等情報関連機器に配慮した消火設備を有すること。	
	機器	① 部門システム用サーバー	
(4)室環境	5	バックヤードとして相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
テ-3	医療情報部門	医療情報部	電子カルテ運用管理室
(1)使用目的	電子カルテシステム保守管理、電子カルテ運用に係る事務		
	関連する室名	ネットワーク運用管理室	
(2)使用人数	平均在室者数	5人	最大在室者数 7人
(3)設計水準	運用	① ネットワーク運用管理室と同室可とする。	
	性能		
	機器	① 医療情報システム	
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
テ-4	医療情報部門	医療情報部	ネットワーク運用管理室
(1)使用目的	県立病院ネットワーク、院内LAN運用に係る事務および院内LAN保守管理に係る事務		
	関連する室名	電子カルテ運用管理室	
(2)使用人数	平均在室者数	2人	最大在室者数
(3)設計水準	運用	① 電子カルテ運用管理室と同室可とする。	
	性能	① サーバ室と直接接続されるLAN配線を複数系統設けること。	
	機器	① 医療情報システム	
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
テ-5	医療情報部門	医療情報部	診療情報病歴室
(1)使用目的	診療情報(カルテ等)管理およびカルテ閲覧		
	関連する室名	電子カルテ運用管理室	
(2)使用人数	平均在室者数	15人	最大在室者数 22人
(3)設計水準	運用	① カルテ閲覧のために独立した出入口を持つこと。 ② 深夜、早朝のカルテ閲覧のため暗証番号、カードキー等の仕組みを持つこと。	
	性能	① 独立した空調設備を持つこと。	
	機器	① 医療情報システム	
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
テ-6	医療情報部門	その他	OA研修室
(1)使用目的	OA機器、電子カルテ等の研修		
	関連する室名	電子カルテ運用管理室	
(2)使用人数	平均在室者数	25人	最大在室者数 30人
(3)設計水準	運用		
	性能	① 容易に床下配線が可能な床構造(OAフロア等)とすること。 ② 独立した空調設備を持つこと。	
	機器	① 医療情報システム(テスト系)	
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	

諸室No.	部門名	機能名	室名
ナ-1	看護管理部門	看護管理部門	看護部管理室
(1)使用目的	看護部職員の管理・教育・指導を行う管理機能を持つ。		
	関連する室名	看護部長室	
(2)使用人数	平均在室者数	5人	最大在室者数 10人
(3)設計水準	運用	① 看護部長室と隣接させ、両室は内部ドアの設置により行き来ができること。 ② 指導を行うためのコーナーを設けること。(パーテーションで区切る)	
	性能		
	機器	① スライドプロジェクター ② ビデオセット ③ イメージスキャナ	
(4)室環境	4	病院職員の執務空間として相応しい仕上げ	